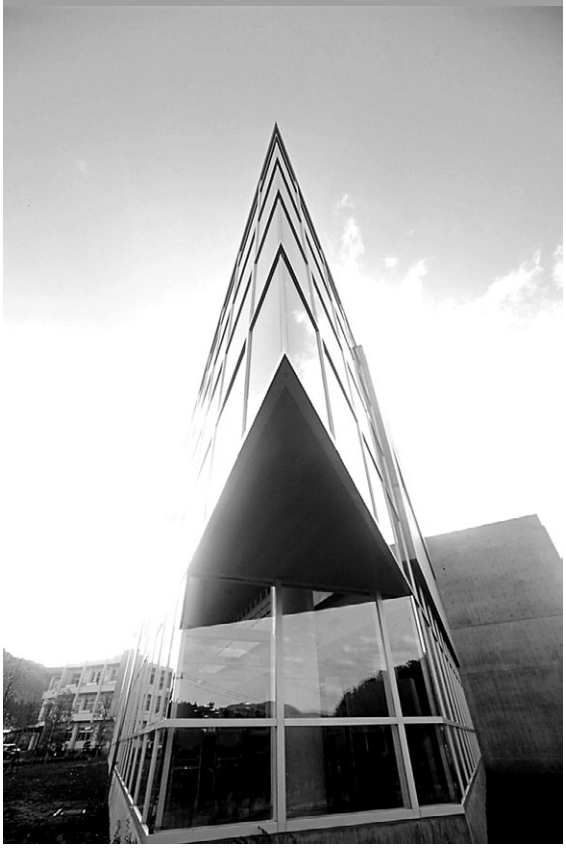
JIN-AI UNIVERSITY
2018 SYLLABUS

平成30年度
人間学部
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

Ⅰ．１年生

＜学部共通科目＞

仏教の人間観……田代　俊孝……1
生命の倫理……橋本　武志……3
人間の教育……高野　秀晴……5
芸術の世界……中野　研也……7
人間と環境Ａ……鳴瀬みどり……8
人間と環境Ｃ……サンドロヴィッチ ティムール……10
スポーツと健康……野田　政弘……12
スポーツＡ……山村　恵子……14
スポーツＢ……山村　恵子……16
英語Ⅰａ……フッド晴美・Ｍ　ハウカ・山口　和代・Ｒダイクス……18
英語Ⅰｂ……フッド晴美・Ｍ　ハウカ・山口　和代・Ｒダイクス……20
フランス語Ⅰａ……大竹口麻里……22
フランス語Ⅰｂ……大竹口麻里……23
ドイツ語Ⅰａ……橋本　武志……24
ドイツ語Ⅰｂ……橋本　武志……26
中国語Ⅰａ……ショウ　ロ……28
中国語Ⅰｂ……ショウ　ロ……30
情報リテラシーａ……宮川　祐一・森本　文人・佐々木裕子……32
情報リテラシーｂ……宮川　祐一・森本　文人・佐々木裕子……34
情報活用ａ……宮川　祐一・佐々木裕子……36
情報活用ｂ……宮川　祐一・佐々木裕子……38
基礎演習……稲木・竹村・水上・森本・山本・渡辺……40
基礎演習……安彦・織田・加藤・早川・升田……42
日本語文章表現……大河　晴美・杣谷　英紀……44
キャリア・デザインⅠ……植月　百枝……46
フィールドワーク演習（ボランティア）……水田　敏郎・早川　　公……48
フィールドワーク演習（国際交流）……矢橋　知枝・Ｍ　ハウカ……49

＜心理学科専門科目＞

心理学概論Ⅰ……大森　慈子……51
心理学概論Ⅱ……大森　慈子……53
心理学研究法Ⅰ……杉島　一郎……55
心理学研究法Ⅱ……杉島　一郎……57

心理学統計法Ⅰ……森本　文人・大森　慈子……59
心理学統計法Ⅱ……森本　文人・水田　敏郎……61
感情・人格心理学……森　　俊之……63
精神分析学……西村　則昭……65
学習・言語心理学……杉島　一郎……67

＜コミュニケーション学科専門科目＞

人間関係論……橋本　武志……69
コミュニケーション概論……早川　　公……71
異文化理解ａ……加藤　優子……73
日本語概論……天野　義廣……75
日本語口頭表現……植月　百枝……77
情報メディア……安彦　智史……79
デジタル・デザイン……吉村　正照……81
オーラル・コミュニケーションⅠａ……Ｍ　ハウカ……83
オーラル・コミュニケーションⅠｂ……Ｍ　ハウカ……85
企画開発基礎演習……冨永　良史……87
地域研究概論……升田　法継……89
社会学入門……江南　健志……91
共生社会論……織田　暁子……93
社会言語学……加藤　和夫……95
異文化理解ｂ……加藤　優子……97
英語学Ⅰ……矢橋　知枝……99
英語音声学……矢橋　知枝……100

Ⅱ．２年生

＜学部共通科目＞

人間と宗教……門脇　　健……101
仏教の思想……西本　祐攝……102
哲学の世界観……橋本　武志……104
文学の世界……杣谷　英紀……106
歴史と地域文化……久保　智康……108
人権と法……早川　秋子……110
日本国憲法……早川　秋子……111
人間と環境Ｂ……大久保嘉雄……112
ふくい総合学……織田　暁子……114
英語Ⅱａ……フッド 晴美・山口　和代・Ｒ ダイクス……116

英語Ⅱｂ……フッド 晴美・山口　和代・R ダイクス……118
フランス語Ⅱa……大竹口麻里……120
フランス語Ⅱｂ……大竹口麻里……121
ドイツ語Ⅱａ……橋本　武志……122
ドイツ語Ⅱｂ……橋本　武志……124
中国語Ⅱａ……ショウ　ロ……126
中国語Ⅱｂ……ショウ　ロ……128
海外語学研修……矢橋　知枝・M　ハウカ……130
情報活用ａ……宮川　祐一・佐々木裕子……132
情報活用ｂ……宮川　祐一・佐々木裕子……134
情報処理演習ａ……宮川　祐一……136
情報処理演習ｂ……宮川　祐一……138
キャリア・デザインⅡ……升田　法継……140
フィールドワーク演習（ボランティア）……水田　敏郎・早川　　公……142
フィールドワーク演習（国際交流）……矢橋　知枝・M　ハウカ……143

＜心理学科専門科目＞

心理学基礎実験Ⅰ……山本・水上・森本・青井・島田……145
心理学基礎実験Ⅱ……大森・水田・森本・氏田・伏田……147
心理検査法Ⅰ……森　　俊之・吉水ちひろ・青井　利哉……149
心理調査法……竹村　明子・杉島　一郎……151
心理面接法……水上喜美子・稲木康一郎・渡辺　克徳……153
臨床心理学Ⅰ……片畑真由美……155
臨床心理学Ⅱ……片畑真由美……156
生涯発達心理学Ⅰ……竹村　明子……157
生涯発達心理学Ⅱ……竹村　明子……159
認知心理学……杉島　一郎……161
生理心理学……水田　敏郎……163
産業・組織心理学Ⅰ……重森　雅嘉……165
産業・組織心理学Ⅱ……山本　雅代……166
社会心理学Ⅰ……山本　雅代……168
社会心理学Ⅱ……山本　雅代……170
心理学特別講義……複数で担当……172

＜コミュニケーション学科専門科目＞

日本の言語文化ａ……大河　晴美……174
言語コミュニケーション論……矢橋　知枝……176

情報社会論……景山　千愛……177
公共政策……澤崎　敏文……179
プレゼンテーション技法……北神　慎司……181
企画開発論Ⅰ……早川　　公……183
デザイン文化論……舩山　俊克……185
地域経済論……江南　健志……186
情報システム論……安彦　智史……188
日本の言語文化ｂ……大河　晴美……189
英語学Ⅱ……矢橋　知枝……191
英文講読ａ……紺渡　弘幸……192
英文講読ｂ……紺渡　弘幸……194
英米文化論……加藤　優子……196
企画開発演習Ⅰ……冨永　良史……198
コミュニケーション技法Ⅰ……大河　晴美……200
コミュニケーション技法Ⅱ……植月　百枝……202
ライティング技法……野尻　昌明……204
メディア･コミュニケーション論……江南　健志……206
メディア・デザイン……吉村　正照……208
プロジェクト・デザイン基礎……冨永　良史……210
オーラル・コミュニケーションⅡａ……Ｍ　ハウカ……212
オーラル・コミュニケーションⅡｂ……Ｍ　ハウカ……214
TOEIC英語Ⅰ……矢橋　知枝……216
メディア英語……加藤　優子……218
英作文演習……Ｍ　ハウカ……219
家族社会学……織田　暁子……221
社会調査法……中村　昇平……223
情報・社会調査基礎……織田　暁子・早川　　公……225
社会調査方法論……織田　暁子……227
統計学……織田　暁子……229
データ解析法a……江南　健志……231
観光社会学……早川　　公……233

Ⅲ．３年生

＜学部共通科目＞

英語Ⅲａ……Ｍ　ハウカ……235
英語Ⅲｂ……Ｍ　ハウカ……237
海外語学研修……矢橋　知枝・Ｍ　ハウカ……239

情報処理演習ａ……宮川　祐一……241
情報処理演習ｂ……宮川　祐一……243
フィールドワーク演習（インターンシップ）……片畑真由美・升田　法継……245
フィールドワーク演習（ボランティア）……水田　敏郎・早川　　公……247
フィールドワーク演習（国際交流）……矢橋　知枝・Ｍ　ハウカ……248

＜心理学科専門科目＞

心理検査法Ⅱ……片畑真由美・渡辺　克徳・青井　利哉……250
精神医学Ⅰ……三脇　康生……252
精神医学Ⅱ……三脇　康生……254
教育心理学……竹村　明子……256
家族心理学……竹村　明子……258
スポーツ心理学……野田　政弘……260
心理療法論Ⅰ……森　　俊之……261
心理療法論Ⅱ……稲木康一郎……263
アイデンティティ心理学……西村　則昭……265
犯罪心理学……廣井　亮一……267
臨床心理演習……森　　俊之・片畑真由美……269
比較心理学……氏田　麻美……271
神経心理学……森本　文人……273
心理学特殊実験Ⅰ……水田　敏郎・大森　慈子……275
心理学特殊実験Ⅱ……水田　敏郎・大森　慈子・氏田　麻美……277
高齢者心理学……水上喜美子……279
消費者心理学……山本　雅代……281
対人心理学……大森　慈子……283
産業カウンセリングⅠ……稲木康一郎……285
産業カウンセリングⅡ……吉水ちひろ……287
多変量解析演習……杉島　一郎……288
心理学特別演習Ⅰ……複数で担当……289

＜コミュニケーション学科専門科目＞

ビジネス能力論……吉田　史朗……290
ビジネスコミュニケーション研究……升田　法継……291
日本文化論……大河　晴美……293
企画開発論Ⅱ……早川　　公……294
企画開発演習Ⅱ……早川　　公……296
マルチメディア演習……吉村　正照……298

デザイン実務演習 …… 橋本　洋子 …… 300
プロジェクト・デザイン演習 …… 升田　法継 …… 302
英語コミュニケーションa …… M　ハウカ …… 304
英語コミュニケーションｂ …… M　ハウカ …… 306
TOEIC英語Ⅱ …… 矢橋　知枝 …… 308
ビジネス英語a …… 加藤　優子 …… 310
ビジネス英語ｂ …… 加藤　優子 …… 312
英語文章表現法 …… 紺渡　弘幸 …… 313
英語学研究 …… 矢橋　知枝 …… 315
英米文学研究 …… 原口　　治 …… 316
現代社会研究 …… 中村　昇平 …… 318
データ解析法ｂ …… 織田　暁子 …… 320
プログラミング …… 安彦　智史 …… 322
情報・社会調査演習ａ …… 織田　暁子・早川　　公 …… 324
情報・社会調査演習ｂ …… 織田　暁子・早川　　公 …… 326
企業と情報 …… 安彦　智史 …… 328
コミュニケーション特別演習Ⅰａ …… 複数で担当 …… 330
コミュニケーション特別演習Ⅰｂ …… 複数で担当 …… 331

Ⅳ．４年生

＜学部共通科目＞

海外語学研修 …… 矢橋　知枝・M　ハウカ …… 332
フィールドワーク演習（ボランティア） …… 水田　敏郎・早川　　公 …… 334
フィールドワーク演習（国際交流） …… 矢橋　知枝・M　ハウカ …… 335

＜心理学科専門科目＞

学校臨床心理学 …… 廣澤　愛子 …… 337
障害者心理学 …… 水田　敏郎 …… 338
社会福祉概論 …… 元村　妙子 …… 340
心理学特別演習Ⅱ …… 複数で担当 …… 342
卒業研究 …… 複数で担当 …… 343

＜コミュニケーション学科専門科目＞

デザイン運用論 …… 吉村　正照 …… 344
英語学研究Ⅰ（語用論） …… 矢橋　知枝 …… 346
英米文学研究ｂ …… 原口　　治 …… 347
ビジネス英語研究ｂ …… 加藤　優子 …… 349

現代社会特論Ⅰ……安彦　智史……350
現代社会特論Ⅱ……織田　暁子……352
コミュニケーション特別演習Ⅱa……複数で担当……354
コミュニケーション特別演習Ⅱb……複数で担当……355
卒業研究……複数で担当……356

Ⅴ．特設科目

＜教職に関する専門科目＞

教職論……高野　秀晴……358
教育原理……高野　秀晴……360
教育心理学……杉島　一郎……362
教育経営論……奥谷　　崇……364
教育課程・特別活動論……高野　秀晴……366
英語科教育法Ⅰ……フッド晴美……368
英語科教育法Ⅱ……フッド晴美……370
英語科教育法Ⅲ……紺渡　弘幸……372
英語科教育法Ⅳ……紺渡　弘幸……374
道徳教育の理論と方法……高野　秀晴……376
教育の方法と技術……篭谷　隆弘……378
生徒・進路指導論……小林　仁章……380
教育相談……佐々木雅代……382
事前・事後指導……紺渡　弘幸……383
教育実習Ⅰ……紺渡　弘幸……385
教育実習Ⅱ……紺渡　弘幸……386
教職実践演習……紺渡　弘幸・奥谷　　崇・フッド晴美……388

＜日本語教員養成に関する専門科目＞

日本語指導技法ａ……矢橋　知枝……390
日本語指導技法ｂ……矢橋　知枝……392

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	田代　俊孝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1111	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。そのため、釈尊・親鸞の生涯やその教えにおける人間観を学ぶことを通して「本当の自分とは何か」を尋ねていく。

授 業 の 到 達 目 標

釈尊・親鸞の生涯とその教えについて述べることができる。
仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができる。
「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができる。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション ── 仏教に何を学ぶのか
第2回：仁愛学園の歩みとキャンパスのモニュメントについて
第3回：四恩の自覚 ── いのちの尊厳といのちの教育
第4回：四恩の自覚 ── 仁愛兼済(『仏説無量寿経』の意)
第5回：釈尊の生涯 ── 青年期の苦悩、四門出遊
第6回：釈尊の生涯 ── 三法印、四諦と八正道
第7回：聖徳太子と親鸞聖人
第8回：親鸞の生涯 ── 誕生から越後流罪まで
第9回：親鸞の生涯 ── 関東時代から帰洛
第10回：親鸞の教え ──『歎異抄』の世界　歎異精神
第11回：親鸞の教え ──『歎異抄』の世界　悪人正機
第12回：親鸞の教え ──『歎異抄』の世界　浄土の慈悲
第13回：親鸞の教え ──『歎異抄』の世界　無義為義
第14回：親鸞の教え ──『歎異抄』の世界　世間虚仮
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業後は、ノートや配布資料を見直して復習すること。また、講義で学んだことを、日常のさまざまな出来事の中で確かめ、「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。

成　績　評　価　方　法

第1回レポート(20%)　第2回レポート(20%)　定期試験(60%)

成　績　評　価　基　準

親鸞の生涯と思想について述べることができるか。
仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができるか。
「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書

参考図書：『礼讃抄』『和』

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1122	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

技術の進歩によって、従来不可能であった治療ができるようになっている。だが、それにともなって、われわれの従来の死生観・人間観を揺さぶるようなさまざまな倫理問題が発生している。本講義では、先端医療の現状を知ったうえで、こうした倫理問題に対する、日本を含む諸外国の考え方の違い、ガイドラインや政策の相違について知り、こうした問題についての現在までのさまざまな議論を紹介する。

授 業 の 到 達 目 標

・生命をめぐるさまざまな倫理問題について認識する。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得する。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を知る。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション～生命倫理学という学問について
第2回：生命倫理学（バイオエシックス）の成立
第3回：患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
第4回：映像資料で具体的生命倫理の問題を知る（子供の自己決定権）
第5回：生命の始まりにかんする倫理問題1（受精卵研究と人工妊娠中絶）
第6回：生命の始まりにかんする倫理問題2（パーソン論）
第7回：臓器移植の問題1～映像資料で現状を知る
第8回：臓器移植の問題2～脳死と移植
第9回：臓器移植の問題3～改定臓器移植法について
第10回：生命の終わりに関する倫理問題1（治療停止）～映像資料で日本の現状を知る
第11回：生命の終わりに関する倫理問題2（治療停止）～法律家・患者団体・医師それぞれの立場
第12回：生命の終わりに関する倫理問題3（尊厳死）
第13回：生命の終わりに関する倫理問題4（消極的安楽死）～映像資料で外国の事情を知る
第14回：生命の終わりに関する倫理問題5（積極的安楽死）～アメリカとオランダ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・生命をめぐるさまざまな倫理問題、およびその歴史的経緯について認識しているか。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得しているか。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を習得しているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。
参考図書・参考映像については2回目の授業で一覧プリントを配布するが、授業内でも適宜紹介する。

その他（受講上の注意）
毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間の教育 (Human Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1123	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちも教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのだろうか？　そして、今、大学で学んでいることには一体何の意味があるのか？　これからの人生にいかに寄与するのか？　しないのか？　この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することを通じて、上記の問いを考察していく。

授　業　の　到　達　目　標

「教育によって形成されてきた／されつつある自己」の成り立ちとゆくえについて理解を深め、自ら考察する力を身につけること。これがこの授業の到達目標である。したがって、この授業では下記の成果が求められる。
・自らがこれまで受けてきた教育の意味について説明することができる。
・現代における教育の社会的役割を分析することができる。
・自らの今後のあり方を、教育の観点から展望することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：子どもとは誰のことか－子ども観の歴史的変遷－
第3回：子どもの面倒は誰が見るのか－子育て環境の現在－
第4回：学校とはどのような空間なのか
第5回：「学校知」の解剖学
第6回：学校化社会について
第7回：大学とは何か－その歴史的変遷－
第8回：激動のなかの大学
第9回：職能はどこで形成するか（1）－その歴史的変遷－
第10回：職能はどこで形成するか（2）－日本型企業中心社会の場合－
第11回：日本型企業中心社会の変容とキャリア教育の導入
第12回：意欲の競争社会化？－教育の平等と格差と－
第13回：能力主義とは何か－これまでのまとめ－
第14回：老い衰えることと教育
第15回：看取ることと教育
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

授業では幅広いトピックを取り上げるため、トピックの概要しか述べることができない。したがって、授業時に紹介される参考文献や配布資料を参照しながら、各トピックについて、各自でノートにまとめ直す作業が必要となる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　授業時の課題（30%）

成　績　評　価　基　準

現代における教育の社会的役割を分析的に記述することができるか。
教育に関する諸問題を自己と関連付けながら記述することができるか。

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて、プリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

芸術の世界 (The World of Art)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1121	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

さまざまな音楽および美術作品の魅力や特徴を探り、生み出された背景を知る。

授 業 の 到 達 目 標

音楽と美術について、通論的な知識と通史的な知識を身に付け、作品に対する自分の考えを持つことができる。

授　業　の　計　画

第1回：音とは何か　～私たちを取り巻くさまざまな音
第2回：音楽の誕生　～いつ・なぜ・どのようにして生まれたのか
第3回：音楽の3要素　1　～旋律を中心として
第4回：音楽の3要素　2　～拍子やリズムを中心として
第5回：音楽の3要素　3　～和声を中心として
第6回：西洋の音楽史　1　クラシック音楽の誕生と発展
第7回：西洋の音楽史　2　クラシック音楽の落日とその後
第8回：音楽鑑賞・視聴　1 ～器楽作品(予定)　鑑賞レポート提出
第9回：音色とは何か　騒音と心地のよい音
第10回：音楽と美術　1　～音楽と美術との関係
第11回：ジャズ　1　～ジャズが誕生した背景とその音楽的特徴
第12回：ジャズ　2　～モダン・ジャズの世界
第13回：ロック・ポピュラー音楽　誕生と発展
第14回：音楽を記録するということ　エジソンからデジタルまで
第15回：音楽鑑賞・視聴　2　～ミュージカル作品(予定)　鑑賞レポート提出
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業で配布された資料と、話した内容のメモを見返して下さい。

成　績　評　価　方　法

2度のレポート(20%)、定期試験(50%)、授業への参加状況(30%)で評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽や美術に関しての通論および通史的な知識が身につき、作品に対する自分の考えを持つことができたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料(プリント)を配布する。

その他(受講上の注意)

試験問題は、配布資料(プリント)と授業で話した内容とを合わせて出題する。配布物と自分でメモをとったものは試験までは紛失しないように所持おくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境A (Human Beings and the Environment A)			担当教員	鳴瀬　みどり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2131	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ヒトの健康の保持・増進における食・栄養の重要性を理解し、私たちを取り巻く生活環境や様々な情報、そして食生活の変化が、人体の持つ特性（恒常性）を妨げ、私たちの健康維持にどのような影響を与えているかについて学習する。
これらのことを通して、食品、サプリメント、薬等、普段私たちの身近にあるものに関して、その必要性や効果を正しく理解し、情報に惑わされることなく自らの判断で必要な情報や商品を選択・活用し、個々の健康な生活に役立てることができる。

授業の到達目標

・健康についての基本的な概念や制度、健康の維持・増進のために重要な事項、問題点等について説明できる。
・世界と日本の食文化や現在の食糧事情について説明ができる。
・食生活について栄養の重要性や食品の安全性、運動との関わり等ついて理解し、説明ができる。

授　業　の　計　画

第1回：健康とは何か？
第2回：食の歴史
第3回：健康に関する社会制度
第4回：世界の食
第5回：日本の食①（日本の食文化）
第6回：日本の食②（日本各地の食文化）
第7回：栄養と健康①（自分の食生活を見つめてみよう）
第8回：栄養と健康②（栄養学の基礎）
第9回：栄養と健康③（疾病予防のための食生活）
第10回：栄養と健康④（栄養と運動）
第11回：食品の安全と健康①（食品の安全と健康被害）
第12回：食品の安全と健康②（食と健康をめぐる情報）
第13回：食品の安全と健康③（サプリメント～情報に惑わされないために～）
第14回：医薬品とは？
第15回：大麻･麻薬･覚せい剤の基礎知識と乱用防止、まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・予習は特に要求しない。
・新聞・ニュース等で報じられる食糧事情、食を取り巻く環境、健康の維持・増進に関する項目について日頃から興味を持つように努めること。
・各回の講義内容についてよく復習し、各自が書籍や新聞などから積極的に情報を収集し、自己学習すること。
・授業中の不明な点は、授業の前後に教員に質問するなどして理解を深めること。

「自身の健康とは何か」「心身ともに健康に生きていくために重要なこと」等についてよく考えてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・健康の概念、健康の維持・増進について理解できているか。
・食の歴史や文化、日本の食糧事情や食を取り巻く環境について理解できているか。
・栄養素の機能、食品の安全性、栄養と運動の関わりについて理解できているか。
・食品、サプリメント、医薬品、麻薬・覚せい剤について正しく理解できているか。

テキスト、参考図書

吉田勉監修　『私たちの食と健康－食生活の諸相－』　三共出版　2011年
必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。

その他（受講上の注意）

・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
・課題レポートなどは、提出期限を必ず守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境C (Human Beings and the Environment C)			担当教員	サンドロヴィッチ　ティムール
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2132	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、「ウクライナおよび日本の原発事故」、「現代ウクライナが抱える諸問題」、「国際比較の視点から見た現代日本」という三つのテーマを軸にしながら、日々おきているニュースの流れを追う。日本社会のイメージ変容にふれるとともに、ウクライナと日本社会の諸課題を比較しながら検討することによってグローバルな視点に基づいた考え方の特徴を明らかにする。

授 業 の 到 達 目 標

・・歴史的な観点で考えることによって、国際関係についての理解を深める。
・社説・論説など、新聞によって異なる見方や主張をしているケースは多い。読み比べ、ニュースを多角的に読むことができるようになる。
・客観的なものの見方ができる。一方で、さまざまな情報を入手し自分の考え方を確立する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション、授業の進め方。時の話題を取り上げ、歴史的な見方を考える
第2回：1986年のチェルノブイリ原発事故およびメディアの報道
第3回：2011年の福島第一原発事故およびメディア報道
第4回：原発事故の一般市民への影響
第5回：チェルノブイリおよびフクシマの未来
第6回：現代ウクライナ社会の概要
第7回：ソ連崩壊とウクライナ共和国
第8回：ウクライナとEU加盟諸国との関係
第9回：現代ウクライナが直面する領土問題
第10回：異文化理解とその難しさ
第11回：日本人の自画像の系譜
第12回：国際比較の視点から見る日本：「日本人論」を乗り越える
第13回：21世紀日本の諸課題（1）
第14回：21世紀日本の諸課題（2）
第15回：まとめ、時事問題から考える歴史と未来
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

日常、新聞をはじめとしたメディアのニュースに疑問を持ちながら考える習慣を身につける。「なぜこうなったのか」を考え、自分の関心を持ったニュースを追いかける楽しみを覚える。また、海外のニュースにも積極的に関心を持つ。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

1．国際関係の諸課題についての見解を述べることができるか。（定期試験）
2．様々なニュースを多角的に読み取ることができるか。（定期試験、コミュニケーション・カード）
3．学術的な情報にアクセスしながら各自の問題意識を深め、自身の考察を論理的に記述できるようになっているか。（コミュニケーション・カード）

テキスト、参考図書

毎回資料を配布する
＊参考書
井上俊・永井良和編著、『今どきコトバ事情』ミネルヴァ書房, 2016.
セルゲイ・パスケービッチ/デニス・ビセネブスキー（後藤隆雄訳)『チェルノブイリ、現実の世界』本の泉社, 2013.
河田昌東『チェルノブイリと福島』緑風出版, 2011.
エレナ・フィラトワ（池田紫訳)『ゴーストタウン　チェルノブイリを走る』集英社, 2011.
尾内隆之、摩佐志編『科学者に委ねてはいけないこと　科学から「生」をとりもどす』岩波書店, 2013.
東浩紀編『チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド　思想地図β vo.4-１』株式会社ゲンロン, 2013.
東浩紀編『福島第一原発観光地化計画　思想地図β vo.4-２』株式会社ゲンロン, 2013.

その他（受講上の注意）

日常生活の中で新聞を読み、テレビやラジオ、ネットなどメディアに接し、ニュースに敏感になるよう努力する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2133	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

現代社会においてスポーツや運動など日常生活におけるさまざまな身体活動は、人々が健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしている。スポーツや運動にみられる身体現象を運動生理学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの観点から科学的に探求し理解を深める。

授業の到達目標

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できる。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント
第2回：生活習慣病と関連する要因
第3回：体力とは何か①
第4回：体力とは何か②
第5回：運動のしくみ①
第6回：運動のしくみ②
第7回：トレーニング理論とトレーニング方法
第8回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画
第9回：運動と水分補給、熱中症
第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン
第11回：応急手当
第12回：スポーツと心理のかかわり
第13回：今日の学校保健の問題
第14回：欲求、ストレスと疲労への対処法
第15回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、自身の日常生活におけるスポーツ・運動や健康について理解や関心を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できている。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できている。

テキスト、参考図書

出村慎一編著、「健康・スポーツ科学講義 第2版」、杏林書院 2012

その他(受講上の注意)

講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるように。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA (Sports A)			担当教員	山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2134	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

生涯スポーツ、テニスを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。

授 業 の 到 達 目 標

硬式テニスと軟式テニスとの違いを知り、ラケットの扱いやボールコントロール・サーブが出来るようになり、シングルス・ダブルスのゲームが出来ることを目標とする。
自他理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行出来る能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス、硬式テニス競技の日本における歴史と変遷。個人基本技の説明。
第2回：準備体操（ストレッチ）フットワーク（以後毎週行う。）個人技の習得（グリッピング・素振り・ボール慣れ）
第3回：個人技の習得（ストローク・バック・ボレー）
第4回：基本技（毎週行う）/サーブ　シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト①
第5回：基本技（毎週行う）/サーブ　シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト②
第6回：基本技（毎週行う）/サーブ　シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト③
第7回：基本技（毎週行う）/サーブ　シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト④
第8回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦･戦略について・審判法を学習する。①
第9回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦･戦略について・審判法を学習する。②
第10回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦･戦略について・審判法を学習する。③
第11回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。①
第12回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。②
第13回：基本技（毎週実施）ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。③
第14回：作戦・戦略について学習する。
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の講義（実技）を受けた後、地域、クラブで実践する。
個人技の向上に努力する。

成　績　評　価　方　法

技術の習得（70%）、平常点（30%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

軟式テニスと硬式テニスの違いを理解できているか。
ラケットの扱いやボールコントロール・サーブができるか。
シングル・ダブルスのゲームができるか。

テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する。
その他（受講上の注意）
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウエアー着用のこと。原則として見学の場合もトレーニングウエアー着用のこと。 春先、外気温が上がるため、水分補給に注意する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツB (Sports B)			担当教員	山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2135	1単位	1年後期	実技	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

バスケットボールを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。

授 業 の 到 達 目 標

自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行できる能力を養成する。
バスケットボールのスピードあるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス、バスケットボールの歴史と変遷・個人基本技の説明
第2回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク/ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート/個人技の習得　1対1　2対2/　①
第3回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク/ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート/個人技の習得　1対1　2対2/　②
第4回：準備体操（ストレッチ）毎回行う　ボディーコントロール　フットワーク/ボールコントロール　パス・ドリブル・シュート/個人技の習得　1対1　2対2/　③
第5回：基本技（毎週実施）/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/　3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）　①
第6回：基本技（毎週実施）/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/　3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）　②
第7回：基本技（毎週実施）/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/　3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）　③
第8回：基本技（毎週実施）/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/　3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）　④
第9回：基本技（毎週実施）/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/　3対3　基本的フォーメーション（タイミング・スペーシング）/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプショット・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する（5分間ゲーム）　⑤
第10回：基本的スキルテスト/基本技（毎週実施）/ 5対5　防衛インフォメーション/全面での攻防（5分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　①
第11回：基本的スキルテスト/基本技（毎週実施）/ 5対5　防衛インフォメーション/全面での攻防（5分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　②
第12回：基本的スキルテスト/基本技（毎週実施）/ 5対5　防衛インフォメーション/全面での攻防（5分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　③
第13回：基本的スキルテスト/基本技（毎週実施）/ 5対5　防衛インフォメーション/全面での攻防（5分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　④
第14回：基本的スキルテスト/基本技（毎週実施）/ 5対5　防衛インフォメーション/全面での攻防（5分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　⑤
第15回：ゲームまとめ

授業外の学習方法
各回の講義（実技）を受けた後、個人技の向上に努力する。
成績評価方法
技術の習得（70%）、平常点（30%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成績評価基準
スピードのあるるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する
その他（受講上の注意）
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウェア着用のこと。 原則として見学の場合もトレーニングウェア着用のこと。 授業中の水分補給は各自行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰa (English Ⅰa)			担当教員	フッド晴美、M　ハウカ、山口　和代、Rダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2141	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授 業 の 到 達 目 標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 ? Jobs ①
第3回：Unit 1 ? Jobs ②
第4回：Unit 2 − Daily activities ①
第5回：Unit 2 − Daily activities
第6回：Unit 3 − At the moment ①
第7回：Unit 3 − At the moment
第8回：Review
第9回：Unit 4 − Feelings ①
第10回：Unit 4 − Feelings
第11回：Unit 5 − On the weekend ①
第12回：Unit 5 − On the weekend
第13回：Unit 6 − Downtown ①
第14回：Unit 6 − Downtown
第15回：Cumulative Review
第16回：Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Before starting each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.
Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成　績　評　価　方　法
Outside-class Activities（i.e., 'Grammar reference' pages & other homework assignments, NetAcademy 2 usage, etc.）- 20%【授業外課題 20%（例　文法参照ページ & 宿題・Net Academy 2（オンライン学習）・他】 Proactive In-class Participation - 20%　【積極的な授業参加度 20%】 Examination - 60%　【試験 60%】
成　績　評　価　基　準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Stretch 1（First Edition）, Stempleski, Susan Oxford University Press 2014, ISBN 978-0-19-460312-6.
その他（受講上の注意）
Prior to the beginning of the semester, a mandatory general English pre-evaluation test will be administered.【入学時にプレースメントテストを実施する】Also, during the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Lea rning laboratory（E-303）for the purpose of familiarizing students with the use of NetAcademy 2 software.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ｉｂ (English Ｉb)			担当教員	フッド晴美、M　ハウカ、山口　和代、 Rダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2142	1単位	1年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授 業 の 到 達 目 標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 7 − People we admire ①
第3回：Unit 7 − People we admire ②
第4回：Unit 8 − At a supermarket ①
第5回：Unit 8 − At a supermarket ②
第6回：Unit 9 − Health problems ①
第7回：Unit 9 − Health problems ②
第8回：Review
第9回：Unit 10 − Cities ①
第10回：Unit 10 − Cities ②
第11回：Unit 11 − Music ①
第12回：Unit 11 − Music ②
第13回：Unit 12 − Travel plans ①
第14回：Unit 12 − Travel plans ②
第15回：Cumulative Review
第16回：Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.
Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities（i.e., 'Grammar reference' pages & other homework assignments, NetAcademy 2 usage, etc.）- 20%【授業外課題 20%（例　文法参照ページ & 宿題・Net Academy 2（オンライン学習）・他】
Proactive In-class Participation - 20%　【積極的な授業参加度 20%】
Examination - 60%　【試験 60%】

成 績 評 価 基 準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Stretch 1 （First Edition）, Stempleski, Susan Oxford University Press 2014, ISBN 978- 0 -19-460312- 6
そ の 他（受 講 上 の 注 意）
During the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory （E-303） for the purpose of familiarizing students with the use of NetAcademy 2 software. An additional mandatory general English post-evaluation test to monitor achievement will be given at the end of the semester.【アチーブメントテスト受験が単位取得条件である】
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅰa (French Ⅰa)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2143	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「フランス語技能検定試験（仏検）」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

1）綴り字と発音の関係を学び、早い段階で臆することなくフランス語を発音できる。
2）初級文法を学び簡単な会話文が読み書くことができる。

授　業　の　計　画

第1回：フランス語について．ABCの発音．あいさつ
第2回：第1課　綴り字の読み方・自己紹介する
第3回：第1課　自己紹介する
第4回：第2課　物を指し示す①
第5回：第2課　物を指し示す②
第6回：第3課　尋ねる①
第7回：第3課　尋ねる②
第8回：第4課　買い物をする①
第9回：第4課　買い物をする②
第10回：フランス映画鑑賞
第11回：第5課　物事や人について尋ねる①
第12回：第5課　物事や人について尋ねる②
第13回：第6課　場所を尋ねる①
第14回：第6課　場所を尋ねる②
第15回：練習問題
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回の授業のあとで板書したノートとテキストでよく復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試60％、平常点40％（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

1）綴り字と発音の関係を理解し、早い段階で臆することなくフランス語を発音できるか。
2）初級文法及び簡単な会話文が読み書きができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

藤田裕二著『パリ－ボルドー』 朝日出版社　2016

その他(受講上の注意)

仏和辞書を毎回持ってくること。辞書については初回の授業で説明します。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ｉｂ (French Ｉｂ)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2144	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「フランス語技能検定試験（仏検）」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

1）テキストの内容について滑らかにフランス語を発音できるようになること。
2）テキストの内容や自分自身について質問されたことについてフランス語で書くことができるようになること。

授　業　の　計　画

第1回：第7課　～したいという①
第2回：第7課　～したいという②
第3回：第8課　興味を述べる①
第4回：第8課　興味を述べる②
第5回：第9課　誘う①
第6回：第9課　誘う②
第7回：フランス映画鑑賞
第8回：第10課　天候と時刻を言う①
第9回：第10課　天候と時刻を言う②
第10回：第11課　数量を表す①
第11回：第11課　数量を表す②
第12回：第12課　比較する①
第13回：第12課　比較する②
第14回：第13課　過去のことを話す①
第15回：第13課　過去のことを話す②
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎授業後早い段階で板書したノートとテキストで復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%　平常点40%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

1）フランス語の滑らかな発音ができるか。
2）簡単な質問に対してフランス語で回答できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

藤田裕二著『パリ－ボルドー』　朝日出版社　2016

その他(受講上の注意)

辞書は毎回持ってくること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ｉａ (German Ｉａ)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2145	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

ドイツ語のアルファベートの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化（現在形）、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：Lektion 1　ドイツ語という言語の説明・アルファベート
第2回：Lektion 1　いろいろな単語を発音してみよう。
第3回：Lektion 1　単語と簡単なあいさつをしてみよう。
第4回：小テスト1 およびこれまでの復習
第5回：Lektion 2　動詞の人称変化・定動詞第2位の法則
第6回：Lektion 4　動詞の不規則な人称変化
第7回：Lektion 3　名詞の性
第8回：Lektion 3　定冠詞の格変化
第9回：Lektion 3　不定冠詞の格変化
第10回：小テスト2 およびこれまでの復習
第11回：映像によってドイツ文化を知る1
第12回：Lektion 4　名詞の複数形
第13回：Lektion 4　複数名詞の定冠詞・不定冠詞変化
第14回：映像資料によってドイツ文化を知る2
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。
・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。
・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を応用することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

（1）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』 郁文堂　2013年
（2）在間進　『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他（受講上の注意）
語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅰb (German Ⅰb)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2146	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語Ⅰaにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：ドイツ語Ⅰaの復習
第2回：Lektion5　定冠詞類・不定冠詞類1
第3回：Lektion5　定冠詞類・不定冠詞類2
第4回：Lektion3　人称代名詞
第5回：小テスト1
第6回：Lektion6　前置詞1
第7回：Lektion6　前置詞2
第8回：Lektion6　前置詞3
第9回：Lektion7　話法の助動詞とワク構造
第10回：小テスト2
第11回：Lektion10　動詞の3基本形と過去形
第12回：Lektion11　現在完了形とワク構造1
第13回：Lektion11　現在完了形とワク構造2
第14回：小テスト3
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞、過去形について理解し、ある程度応用できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

(1)西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』 郁文堂 2013年
(2)在間進　　『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他(受講上の注意)

語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅰa (Chinese Ⅰa)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2147	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語の学習を進めていく上で基礎知識を学習し、中国語の検定試験準4級のレベルをめざす。

授 業 の 到 達 目 標

1、中国語の発音に関して、表音ローマ字の読み方と綴り方を取得する。
2、中国語の簡略字を正しく読み取れる。
3、基礎単語300語程度を覚える。
4、簡単な日常あいさつ用語30語程度を聞き取れる、応答ができる。
5、簡単な基本文型20語程度を取得し、基本的な事項の確認や、自分の意思を伝えられる。
6、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国の国土、民族など。中国語の表記法、文字、普通話、方言など。
第2回：声調(四声)。母音。子音。
第3回：その他の発音上の注意事項。
第4回：人称代名詞。判断動詞“是”。
第5回：疑問を表わす“?”。
第6回：中国語の基本的な語順。
第7回：省略疑問文“?”。
第8回：否定を表わす副詞“不”。
第9回：疑問詞疑問文。
第10回：動詞“在”。
第11回：所有を表わす“有”。
第12回：連動文。
第13回：形容詞述語文。
第14回：語気助詞“?”。
第15回：学習成果の確認。第1回～第14回の復習とまとめ。
第16回：定期試験。

授 業 外 の 学 習 方 法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る、これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1、表音のローマ字の読みと綴りをすることができるか。
2、常用簡略字が読み取れるか。
3、基礎単語300語程度が話せるか。
4、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
5、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書
佐藤　晴彦　監修　徐　送迎　著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語（初級）』　朝日出版社
その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ｉb (Chinese Ｉb)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2148	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語を読むこと、話すことを重点において学習し、中国語の検定試験準4級合格をめざす。

授 業 の 到 達 目 標

1、中国語表音ローマ字による発音ができる。
2、基礎単語500語程度を使って、簡単な中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3、日常あいさつ用語50語程度を聞き取れる、応答ができる。
4、簡単な基本文型50語程度を利用し、基本的な事項の確認や、自分の意思を自然に伝えられる。
5、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国語Ｉaの重要事項の確認、復習。
第2回：存在を表わす“有”。
第3回：数量詞の位置。所有・所属関係を示す“的”。
第4回：指示代名詞。
第5回：名詞述語文。
第6回：語気助詞“了”。
第7回：比較文“A比B～”。
第8回：介詞“在～”。
第9回：反復疑問文。
第10回：動態助詞“了”。
第11回：否定を表わす副詞“没(有)”。
第12回：助動詞“想”。
第13回：動詞の重ね型。
第14回：主述述語文。場所を表わす代名詞。
第15回：第1回～第14回の復習。中国語Ｉabの学習成果の確認とまとめ。
第16回：定期試験。

授 業 外 の 学 習 方 法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る。これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1、表音のローマ字による発音ができるか。
2、簡単な中国語と日本語の訳ができるか。
3、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
4、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

佐藤　晴彦　監修、 徐　送迎　著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』 朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシーa (Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、森本　文人、佐々木裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2151	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学(および一般社会)において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。
特に、キーボードを見ずにキー入力ができるタッチタイピング技能、および日本語文書作成能力を身に付けることを主眼とする。

授 業 の 到 達 目 標

パソコンに関する基礎的な知識と学内ネットワークの利用、インターネットなどの基本的な使い方を理解する。
文書作成ソフトWordを使い、基本的な日本語文書作成ができる。
タッチタイピングができる。
10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。

授　業　の　計　画

第1回：学内ネットワーク、Office365の利用、Windows10の基礎1、タッチタイピング1
第2回：各種設定、Office365の利用、Windows10の基礎2、タッチタイピング2
第3回：Word入門 p.23〜47 、タッチタイピング3
第4回：文書の作成 p.48〜70 、タッチタイピング4
第5回：編集機能 p.71〜84、タッチタイピング5
第6回：文章入力問題、画像の利用 p.85〜101
第7回：Wordの活用1 ワードアート・図形描画 p.102〜117
第8回：Wordの活用2 スマートアートほか p.118〜133
第9回：Wordの応用1 はがき・差し込み印刷 p.134〜147
第10回：Wordの応用2 グラフ p.148〜161
第11回：プレゼンテーション p.162〜172
第12回：パワーポイントによるプレゼンテーション
第13回：ビジネス文書作成1
第14回：ビジネス文書作成2
第15回：ビジネス文書作成3・まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。
復習：授業内に指示した課題は、次回の授業までに完成させておくこと。(提出の指示がある場合には、提出)
　また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。
タッチタイピング：練習ソフトウェア「Type Quick Professional USB版」を用いた練習に取り組むこと。15〜30時間の練習が必要。

成　績　評　価　方　法

定期試験(約70%)　タイピング練習(約10%)　提出課題(約10%)　平常点(約10%)
　(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成　績　評　価　基　準
ワープロソフトWordの基本的な操作ができるか。 基本的なビジネス文書の作成・編集ができるか。 タッチタイピングができるか。 タイピング練習を10時間以上したか。 10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力があるか。 （能力がないと判断した場合は、単位認定をしない）
テキスト、参考図書
『30時間でマスター　Word2016』 実教出版　2016 教材：『Type Quick Professional USB版』 日本データパシフィック
その他（受講上の注意）
この授業は、Word初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用aを受講すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシーb (Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、森本　文人、佐々木裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2152	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学（および一般社会）において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。
特に、表計算ソフトの基本的な使用法を習得して、データの集計処理や活用法を身に付けることを主眼とする。
併せて、タッチタイピング技能の向上を目指す。

授　業　の　到　達　目　標

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができる。
基本的な関数の使い方が理解できる。
表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができる。
タッチタイピングができる。
10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。

授　業　の　計　画

第1回：文章入力問題、Excel 1（データ入力、集計、印刷） p.33まで
第2回：Excel 2（グラフ作成、表の編集） p.55まで
第3回：Excel 3（平均、表示形式） p.66まで
第4回：Excel 4（罫線、ワークシートの活用）p.79まで
第5回：Excel 5（いろいろな関数）p.97まで
第6回：Excel 6（条件付き書式、グラフ1） p.112まで
第7回：Excel 7（グラフ2） p.137まで
第8回：Excel 8（グラフ3、データベース機能 ） p.155まで
第9回：Excel 9（データの並べ替え、集計） p.179まで
第10回：Excel 10（関数の活用1） p.201まで
第11回：Excel 11（関数の活用2） p.215まで
第12回：Excel 12（3D集計、WordとExcelの連携）p.229まで
第13回：Excel & Word復習問題1
第14回：Excel & Word復習問題2
第15回：Excel & Word復習問題3
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

予習：次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。
復習：授業内に指示した課題は、次回の授業までに完成させておくこと。（提出の指示がある場合には、提出）
　また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。
タッチタイピング：練習ソフトウェア「Type Quick Professional USB版」を用いた練習に取り組むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（約80%）　提出課題（約10%）　平常点（約10%）
　（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができるか。 基本的な関数の使い方を理解しているか。 表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができるか。 タッチタイピングができるか。 10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けているか。 （能力がないと判断した場合は、単位認定をしない）
テキスト、参考図書
『30時間でマスター　Excel 2016』 実教出版　2016年 教材：『Type Quick Professional USB版』 日本データパシフィック
その他（受講上の注意）
この授業は、Excel初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用bを受講すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2153	2 単位	1年前期･2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授 業 の 到 達 目 標

オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Word2016）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（文書作成）に合格できる能力レベルを目標としている。

文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。
既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。

授　業　の　計　画

第１回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題
第２回：文書の作成、書式設定 p.1～47
第３回：文章のオプション、印刷、保存 p.48～86
第４回：文字列、段落 p.87～121
第５回：文字列段落の並び替え、表作成 p.122～157
第６回：表の設定、リスト作成・変更 p.158～198
第７回：参考資料の作成と管理 p.199～236
第８回：グラフィック要素の挿入と書式設定 p.237～285
第９回：総合練習問題１
第10回：総合練習問題２
第11回：総合練習問題３
第12回：総合練習問題４
第13回：総合練習問題５
第14回：総合練習問題６
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、文書作成ソフトウェアWordを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できるか。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
『MOS攻略問題集 Word 2016』　日経BP　2017年
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
情報リテラシーa　の受講を終えていることを前提とします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用b (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2154	2単位	1年後期･2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授 業 の 到 達 目 標

オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Excel2016）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（データ活用）に合格できる能力レベルを目標としている。

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。
既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。

授　業　の　計　画

第１回：実力診断用練習問題（日商PC検定試験問題）
第２回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～39
第３回：ワークシートやブックのオプション、印刷設定 p.40～81
第４回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.82～125
第５回：書式設定、データの整理 p.126～174
第６回：テーブル、数式 p.175～227
第７回：関数を使用した演算、グラフ p.228～258
第８回：グラフやオブジェクトの書式設定 p.259～274、模擬テストについて
第９回：総合練習問題１
第10回：総合練習問題２
第11回：総合練習問題３
第12回：総合練習問題４
第13回：総合練習問題５
第14回：総合練習問題６
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　提出課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、表計算ソフトウェアExcelを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できるか。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができるか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
『MOS攻略問題集 Excel 2016』　日経BP　2017年
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
情報リテラシーb　の受講を終えていることを前提とします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	稲木康一郎、竹村　明子、水上喜美子、 森本　文人、山本　雅代、渡辺　克徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2161	2単位	1年	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、
　自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。
■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、
　学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
第2回：専門分野の基礎学習
第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第4回：学修や研究に必要な文献検索方法（附属図書館利用法）
第5回：専門分野の基礎学習
第6回：専門分野の基礎学習
第7回：専門分野の基礎学習
第8回：専門分野の基礎学習
第9回：専門分野の基礎学習
第10回：専門分野の基礎学習
第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第12回：地域学習
第13回：専門分野の基礎学習
第14回：専門分野の基礎学習
第15回：専門分野の基礎学習
第16回：専門分野の基礎学習

授業外の学習方法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。
復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

レポートまたはプレゼンテーション（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

基礎的なアカデミック・スキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない
その他（受講上の注意）
■学生10名程度を１グループとして１名の担当教員を置く （この担当教員は、２年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う） ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期８回、後期８回を予定している
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	安彦　智史、織田　暁子、加藤　優子、 早川　　公、升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2161	2単位	1年	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。
■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、
　自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。
■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、
　学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
第2回：専門分野の基礎学習
第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学修状況などを確認
第4回：学修や研究に必要な文献検索方法（附属図書館利用法）
第5回：専門分野の基礎学習
第6回：専門分野の基礎学習
第7回：専門分野の基礎学習
第8回：専門分野の基礎学習
第9回：専門分野の基礎学習
第10回：専門分野の基礎学習
第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認
第12回：地域学習
第13回：専門分野の基礎学習
第14回：専門分野の基礎学習
第15回：専門分野の基礎学習
第16回：専門分野の基礎学習

授業外の学習方法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。
復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

レポートまたはプレゼンテーション（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

基礎的なアカデミック・スキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。

テキスト、参考図書
世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック』世界思想社　1200円
その他（受講上の注意）
■学生10名程度を１グループとして１名の担当教員を置く。 （この担当教員は、２年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う） ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期８回、後期８回を予定している。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語文章表現 (Japanese Sentence Expression)			担当教員	大河　晴美、杣谷　英紀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2162	1単位	1年前期･後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

毎回、なんらかの文書を書くことを実践する。具体的には、文章作成の基本的ルール、文章構成、誤用文と推敲の方法、手紙などの形式、時事や日本文化についての小論文など。また、随筆の課題として、「ふくい風花随筆文学賞」への応募を考えている。

授 業 の 到 達 目 標

・与えられた課題に対して、自分の意見を組み立てた上で文章で表現し、相手を説得することができる。
・さまざまな形式の表現に触れ、自分の考えを伝えるための作法や修辞法を会得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ノートの取り方
第3回：文章の構成とアウトライン（1）
第4回：文章の構成とアウトライン（2）
第5回：意見文を書く（1）
第6回：意見文を書く（2）
第7回：誤用文と推敲
第8回：修辞法と慣用句
第9回：随筆を書く（1）
第10回：随筆を書く（2）
第11回：手紙の書き方
第12回：レポートの作法（引用と注）
第13回：小論文を書く（1）
第14回：小論文を書く（2）
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

返却した原稿をきちんと見直すこと。

成　績　評　価　方　法

随筆、小論文など課題作文（40%）、小テスト（20%）、毎回の提出物（20%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況などを総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

作文は、構成や表記などの形式をまず重視し、加えて内容の充実度などを評価する。
文章表現のための基礎的な知識や作法を身につけているかを評価する。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

西尾宣明編著『新版　日本語表現法-「書く」「話す」「伝える」ための技法-』・樹村房・2013年

その他(受講上の注意)

文章表現は、実際に書くことによってのみ上達する。出席しても何も書かなければ上達はないことを、肝に銘じておくように。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅠ (Career Design Ⅰ)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2163	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

変化の厳しい時代、これが正しいというキャリアモデルはありません。知人・友人などのネットワークや、自ら考え学び自分は将来どのような仕事をしたいのか、どうありたいのかを常に探求していくことが重要です。この授業では、キャリア形成と仕事へのアプローチのために必要なことは何かを自ら考え、挨拶・電話対応・ビジネス文書作成などの実践と、グループワークを通してビジネス社会での基本マナーとルールを身につけていきます。

授業の到達目標

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得する。
・社会人のマナーやルールを理解する。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションを修得する。

授　業　の　計　画

第1回：学生時代に学ぶこと、考えること
第2回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本
第3回：グループワーク
第4回：指示の受け方と、報告・連絡・相談
第5回：話し方ときき方のポイント
第6回：グループワーク
第7回：ビジネス文書、ビジネスメールの書き方
第8回：電話応対の基本と重要性
第9回：グループワーク
第10回：情報収集と効果的な活用法
第11回：敬語の種類と必要性
第12回：ビジネスマナー実践①　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、名刺交換、敬語、報告・連絡など
第13回：ビジネスマナー実践②　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、名刺交換、敬語、報告・連絡など
第14回：ビジネスマナー実践③　＊挨拶（お辞儀）、電話応対、面接対応、名刺交換、敬語、報告・連絡など
第15回：「自分のキャリア」をデザインする
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、テキストを熟読し、日頃から自分の成長を思い描き、キャリア形成について考えること。
復習として、授業で学んだ挨拶、お辞儀の仕方、敬語などの言葉づかいなどを実生活で実践すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、演習（25％）、平常点（25％）
＊平常点は授業への出席状況、グループワークへの参加態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得しているか。
・社会人のマナーやルールを理解しているか。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションをとることができるか。

テキスト、参考図書

『2018年版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター

その他（受講上の注意）
グループごとの発表が多いので、積極的に発言し協力してまとめること。 上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	水田　敏郎、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2164	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

4～7月　事前ガイダンスの実施と計画の提示
8～9月　現地にて研修
10～11月　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み(50%)　レポート(20%)　プレゼンテーション(30%)

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2165	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

原則としてカリフォルニア州立大学フラトン校での集中講義（2週間）の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。

授 業 の 到 達 目 標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（2週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第3回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第4回：事前授業（現地活動の企画等）①
第5回：事前授業（現地活動の企画等）②
第6回：事前授業（現地活動の準備等）①
第7回：事前授業（現地活動の準備等）②
第8回：事前授業（現地活動の準備等）③
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜集中講義（9月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授 業 外 の 学 習 方 法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書
特になし
その他(受講上の注意)
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校集中講義以外の履修について】 履修要件：　英語教育センターで(1)～(4)を行うこと (1)留学相談(留学先・方法など決定) (2)審査　　(本科目としての適切性) (3)事前指導(提出書類準備・渡航準備) (4)事後指導(必要な課題提出・単位認定審査) 研修期間：　夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：　夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏季休暇中の実施のみ
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅰ (Introduction to Psychology Ⅰ)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。心理学の歴史を紹介し、心理学における主要なテーマといえる知覚や学習といった基礎的分野を理解する。

授　業　の　到　達　目　標

■心の働きやシステムについて理解する
■心理学の歴史や主要な人物および研究成果に関する知識を得る
■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：心理学とは
第2回：心理学の領域
第3回：心理学の歴史
第4回：感覚と知覚（1）
第5回：感覚と知覚（2）
第6回：生得的行動
第7回：初期経験
第8回：学習（1）
第9回：学習（2）
第10回：学習（3）
第11回：学習理論と行動療法
第12回：パーソナリティ（1）
第13回：パーソナリティ（2）
第14回：パーソナリティ（3）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。
復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えたノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(90%)　平常点(10%)
（平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■心の働きやシステムについて理解しているか
■心理学の歴史や主要な人物および研究成果を知っているか
■心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト：　『心理学の基礎』　今田寛・宮田洋・賀集寛共編　培風館
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅱ (Introduction to Psychology Ⅱ)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2102	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問に対し、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。記憶や動機づけなど、心理学における主要なテーマに加え、ストレスや感情、さらに脳の働きを理解する。

授　業　の　到　達　目　標

■心の働きやシステムについて理解を深める
■心理学の研究における主要な人物および成果に関する知識を高める
■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：記憶と忘却（1）
第2回：記憶と忘却（2）
第3回：記憶と忘却（3）
第4回：動機づけ
第5回：欲求不満とストレス（1）
第6回：欲求不満とストレス（2）
第7回：欲求不満とストレス（3）
第8回：感情と情動（1）
第9回：感情と情動（2）
第10回：脳と心（1）
第11回：脳と心（2）
第12回：睡眠と覚醒（1）
第13回：睡眠と覚醒（2）
第14回：睡眠と覚醒（3）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。
復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えてノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(90%)　平常点(10%)
（平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■心の働きやシステムについて深く理解しているか
■心理学の研究における主要な人物および成果を詳しく知っているか
■心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テキスト、参考図書

テキスト：　『心理学の基礎』　今田寛・宮田洋・賀集寛共編　培風館
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅰ (Research Methods in Psychology Ⅰ)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2103	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な主観的で直観的な心理現象を、量的データとして客観的に分析する量的研究法の基礎的側面を概説する。主に実験的方法と観察法を主として講義を進める。また研究倫理についても解説する。

授 業 の 到 達 目 標

・心理学における実証的研究法が理解できる。
・行動（behavior）を数量化する方法を身につける。
・研究における倫理を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：科学的心理学とは－科学と実証－
第2回：心理学研究の歴史
第3回：実験的方法と観察的方法
第4回：定性的研究から定量的研究へ
第5回：データの統計的記述
第6回：行動観察法
第7回：面接法
第8回：実験的手法と実験計画
第9回：動物実験の手法
第10回：認知心理学における研究法
第11回：生理心理学における研究法
第12回：発達心理学における研究法
第13回：社会心理学における研究法
第14回：研究倫理－人権尊重とインフォームドコンセント－
第15回：研究倫理－研究の不正の禁止－
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

適宜参考図書や論文を紹介するので、自主学習を行うこと。また、授業中に課題を出すので、指定された期日までに完成させること。

成　績　評　価　方　法

毎回授業時に提出するブリーフレポート（20%）と数回行う課題（30%）および期末テスト（50%）。

成　績　評　価　基　準

・心理学における実証的研究法を説明することができるか。
・行動（behavior）を数量化する方法を身につけたか。
・研究における倫理を身につけたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用せず、その都度資料等を配布する。
参考図書は適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

出席は毎回行うブリーフレポートをもとにとるので、授業中に課された内容を必ず書いて提出すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅱ (Research Methods in Psychology Ⅱ)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2104	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理検査や質問紙などの調査的手法を中心とした心理学研究法を概観し、尺度構成や測定法、データの信頼性などの基本的知識を習得する。またデータを用いた実証的な思考方法についても講義をおこなう。

授 業 の 到 達 目 標

・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につける。
・質問紙法などの心理検査の成り立ちを理解する。
・尺度構成について理解し活用できるようにする。
・データの信頼性・妥当性について理解する。
・心理検査や知能テストを測定の観点から理解する。
・データを用いた実証的な思考方法を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：心理学における調査的手法
第2回：心理検査と測定法
第3回：尺度構成
第4回：性格検査の成り立ち
第5回：知能検査の成り立ち
第6回：投影法検査の成り立ち
第7回：質問紙の作成法
第8回：データの信頼性と妥当性
第9回：質問紙の分析法
第10回：心理検査を用いた研究法
第11回：心理検査を用いた分析法
第12回：相関関係から因果関係へ
第13回：複雑な心理事象のモデリングー多変量解析ー
第14回：調査法の実際と問題点
第15回：まとめと研究倫理
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

適宜参考図書や論文を紹介するので、自主学習を行うこと。また、授業中に課題を出すので、指定された期日までに完成させること。

成　績　評　価　方　法

毎回授業時に提出するブリーフレポート（20%）と数回行う課題（30%）および期末テスト（50%）。

成　績　評　価　基　準

・心理学調査における、主観的な心理現象を客観的に測定する方法を身につけたか。
・質問紙法などの心理検査の成り立ちを説明することができるか。
・尺度構成について理解し活用できるような知識を得たか。
・データの信頼性・妥当性について理解したか。
・心理検査や知能テストを測定の観点から説明することができるか。
・データを用いた実証的な思考方法を身につけたか。

テキスト、参考図書
テキストは特に使用しない。適宜参考図書などを紹介する。
その他（受講上の注意）
出席は毎回行うブリーフレポートをもとにとるので、授業中に課された内容を必ず書いて提出すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学統計法Ⅰ (Statistics for Psychology Ⅰ)			担当教員	森本　文人、大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2107	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学の実験や調査研究において必要となる統計的な基礎知識のうち、測定尺度に関する知識や、グラフや代表値などを用いてのデータの整理など、そのデータがどのようなデータであるかを明らかにするための解析の初歩である、記述統計の方法について学習します。
実際のデータを用いた説明を行い、求めた値の意味を理解し、自分でもそれらが求められるように演習を行います。

授　業　の　到　達　目　標

■統計的なデータの整理・記述ができる。
■尺度の概念を理解できる。
■記述統計の概念を理解し計算を行える。

授　業　の　計　画

第1回：概説（心理学における統計の意味）1
第2回：概説（心理学における統計の意味）2
第3回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）1
第4回：統計学の基礎（変数の概念、色々な測定尺度）2
第5回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）1
第6回：データ整理の方法（度数分布とその図示法）2
第7回：代表値と散布度1
第8回：代表値と散布度2
第9回：正規分布1
第10回：正規分布2
第11回：測定値の変換（得点の標準化）1
第12回：測定値の変換（得点の標準化）2
第13回：相関関係1
第14回：相関関係2
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めてください。また、練習問題を解くなどして、実際の計算やそれに伴うコンピュータ操作などのスキル向上を心がけてください。週2回ヘルプデスクを開設するので、授業に関する疑問点などは先輩のSAに相談できます。予習・復習のために、積極的に活用してください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■統計的なデータの整理・記述ができるか。
■尺度の概念を理解できるか。
■記述統計の概念を理解し計算を行えるか。

テキスト、参考図書
テキスト：『心理・教育のための統計法〈第3版〉』　山内光哉著　サイエンス社
その他（受講上の注意）
1年次後期に開講される「心理統計Ⅱ（心理学統計法Ⅱ）」と、2年次前期に開講される「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ（心理学実験）」は、本授業で得られる基礎的知識が前提となります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学統計法Ⅱ (Statistics for Psychology Ⅱ)			担当教員	森本　文人、水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2108	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法と基礎的な知識・技能・技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理統計Ⅰ(記述統計)の内容をふまえて、さらに進んだ推測統計学の方法を解説し、演習します。具体的には、統計的仮説検定のうち、t検定、分散分析の考え方について詳しく説明し、実際に自分でもデータの分析や検定ができるようにPCを使用した演習も行います。

授　業　の　到　達　目　標

■統計的仮説検定の基本的な考え方を理解する。
■実際の仮説検定を行い、結果を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：母集団と標本①(標本抽出、標準誤差)
第2回：母集団と標本②(標本抽出、標準誤差)
第3回：統計的仮説検定の考え方①
第4回：統計的仮説検定の考え方②
第5回：2つの平均値の差の検定①(t検定)
第6回：2つの平均値の差の検定②(t検定)
第7回：2つの平均値の差の検定③(t検定)
第8回：分散分析①(1要因、2要因)
第9回：分散分析②(1要因、2要因)
第10回：分散分析③(1要因、2要因)
第11回：分散分析④(1要因、2要因)
第12回：分散分析⑤(1要因、2要因)
第13回：SPSSを用いたデータ分析①
第14回：SPSSを用いたデータ分析②
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

授業で解説した内容について、教科書で復習を行ってください。十分な予習を行うことも授業の理解を促します。また、心理統計Ⅰの内容の理解が前提となるので、復習が必要です。週2回ヘルプデスクを開設しますので、授業に関する疑問点などは先輩のSAに相談できます。積極的に活用してください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

■統計的仮説検定の基本的な考え方を説明することができるか。
■実際の仮説検定を行い、結果を解釈することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト：『心理・教育のための統計法〈第３版〉』　山内光哉著　サイエンス社 参考図書：『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』　森敏昭・吉田寿夫編著　北大路出版 『統計学のはなし』　蓑谷千凰彦著　東京図書 『SPSSにおける分散分析の手順』　遠藤健治著　北樹出版
その他（受講上の注意）
原則として「心理統計Ⅰ（心理学統計法Ⅰ）」の単位を履修していることが必要です。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

感情・人格心理学 (Personality Psychology)			担当教員	森　　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−G−2125	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

感情および性格に関する諸理論や研究を概観し、感情や性格を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の感情や性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。

授 業 の 到 達 目 標

・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できる。
・感情や性格に関する心理学研究について説明できる。
・自分の感情や性格について心理学的に考察し評価できる。

授　業　の　計　画

第1回：感情とは
第2回：感情の生理過程
第3回：感情の起源と発達
第4回：感情が認知や行動にもたらす影響
第5回：感情の障害
第6回：性格とは
第7回：性格の類型論
第8回：性格の特性論
第9回：脳と性格
第10回：性格の遺伝
第11回：ライフサイクルと性格
第12回：家族関係・対人関係・文化と性格
第13回：健康と性格
第14回：性格の病気：人格障害
第15回：性格の測定
第16回：期末試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業終了時に、次の授業までにしておいてほしいことを指示する。
とくに指示がないときも、授業で聞いたことを、自分や自分の身の周りの体験と照らし合わせてゆっくり考えることが望ましい。
授業内容に関する質問がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験(80%)と授業中に指示する課題・授業時の態度等(20%)をもとに評価する。

成　績　評　価　基　準

・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。
・感情や性格に関する心理学研究について説明できるか。
・自分の感情や性格について心理学的に評価できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。
参考書は授業中、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神分析学 (Psychoanalytic Theory)			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−G−2126	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

無意識を考えるフロイト以来の精神分析学を概説する。

授 業 の 到 達 目 標

・人間の心には意識できない無意識の部分があることを理解し、無意識の産物である夢や空想や神話を分析することができる。
・自分とタイプの異なる他者あるいは異性を理解し、尊重する精神をもつことができる。
・心を病んだ人々を理解し、その心に寄り添うことができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：フロイト
第3回：ユング
第4回：夢分析1
第5回：夢分析2
第6回：エディプス・コンプレックス
第7回：母娘コンプレックス
第8回：心の影
第9回：内なる異性
第10回：同性愛
第11回：自己愛
第12回：死の欲動
第13回：心の病理の精神分析的理解1
第14回：心の病理の精神分析的理解2
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分のことを振り返つつ、自分のことに重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。できれば夢を記録し、分析してみて下さい。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・精神分析やユング心理学の用語、概念を正しく理解し、夢や空想や神話を分析することができるか。
・自分の心理傾向やタイプを理解し、他者の立場に立って、感じたり考えたりできるか。
・心の病理を理解し、共に生きる者として、心を病む人に寄り添う姿勢を持つことができているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。

その他(受講上の注意)

質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学習・言語心理学 (Learning Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−G−2129	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

学習による行動変容の法則を学び、臨床や教育、産業、日常生活に応用することを目指す。
学習とは経験により行動が変容する過程のことである。学校における勉学だけでなく、生活のあらゆる場面で私たちは学習し、自分の行動を変容させている。こうした行動変容は、環境に環境に存在する刺激との関係で法則化することができる。これまで明らかにされているさまざまな学習の方法について学び、日常生活に見られる色々な行動や、臨床的に問題のある行動、社会問題について理解を深め、社会において心理学が果たすべき意味を考えていく。また、言語の習得における機序についても概説し、ヒトがコミュニケーションを取るために何を学習するべきかを考える。

授業の到達目標

・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに理解することができる。
・さまざまな行動について、学習理論による説明を試みることができる。
・言語の習得における機序を理解する。
・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：学習とは
第2回：こころの概念と学習
第3回：生得的行動と学習された行動
第4回：ワトソンの行動主義と学習理論
第5回：古典的条件づけの基本
第6回：オペラント条件づけの基本
第7回：強化スケジュール
第8回：行動変容と行動療法
第9回：回避（逃避）学習
第10回：Learned Helplessness（あきらめの学習）
第11回：現代社会の諸問題と学習理論
第12回：学習・行動研究と心理学における言語研究
第13回：言語領域の心理学と言語発達の研究
第14回：語彙能力の獲得と文法能力の獲得
第15回：語用論的能力の発達
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準

・種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに説明することができるか。
・さまざまな行動について、学習理論による説明することができるか。
・言語の習得における機序を説明することができるか。
・心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができるか。

テキスト、参考図書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
その他（受講上の注意）
授業には積極的に参加し、指示された内容や自分の意見をブリーフレポートに書きこむようにしてください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間関係論 (Human Relations)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

自分と他人と関わることとはどういうことかを、小レポートを書きながらじっくりと考えることで、具体的な企画や表現を実践する基礎となっていながらも、見過ごされがちなタイプの「自己理解・他者理解」について考察する。
身近な自他関係について、授業内で小レポートを書いてもらい、人間関係についてのテキストを読みながら、人間関係の横軸（友人・家族・世間）と縦軸（倫理や規範）について講義する。

授 業 の 到 達 目 標

自分や他人との関わりをもつときに、特に意識していない要素（儀礼的無関心、距離の取り方、世間の圧力）などについて理解し、またそうした関わり全体を支配している、エートスや規範についても理解することを通じて、「自分」「他人」「関わり」という要素を掘り下げて考える。
この講義を通して、具体的な「企画や自己表現」の実践の土台となる自己や他者のより深い理解を目指す。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：人間の定義①～一般的な人間の定義の諸説
第3回：人間の定義②～「あいだ」を生きるものとしての人間～
第4回：自分とはいったい何者なのだろうか
第5回：自己の多面性～ペルソナ・仮面・役割演技
第6回：他人との距離感①～世間、世間体、人目
第7回：他人との距離感②～アクセサリーや髪型が気になる理由
第8回：他人にどこまで口出しできるのか～異文化としての自己・異文化としての他者
第9回：自分だけが得をしてはどうしていけないのか～エゴイズム
第10回：葛藤と対立の調停①～「行為の結果」にもとづくルール
第11回：葛藤と対立の調停②～「性悪説」にもとづくルール
第12回：葛藤と対立の調停③～「行為の動機」にもとづくルール
第13回：他者への気遣い～マージナル・ケース
第14回：他者への気遣いの制度化～ケア労働と感情労働
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

平常点（50パーセント）、レポート（50パーセント）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況、内容を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・「自己」「他人」「関わり」といった言葉を表層的にではなく、深く理解しているか。
・日常特に意識していないが、人間関係を構成する基礎的な要素（儀礼的無関心、距離の取り方、世間の同調圧力、嫉妬、公平など）について理解しているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。参考書については授業内で適宜示すが、授業初回ないし2回目に参考文献、参考映像一覧を配布する。
その他（受講上の注意）
授業中の私語については非常に厳しく注意する。重ねて注意しても他の受講者の妨げになるようであれば、退出させ、その回は欠席とみなす。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション概論 (Introduction to Communication)			担当教員	早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2102	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義は、「コミュニケーション」に関する諸学問の理論を参考に学際領域としてのコミュニケーション研究を学びます。そのうえで、今後の研究活動、地域社会、ビジネス等で必要とされるコミュニケーション・スキルを養成します。

授 業 の 到 達 目 標

・コミュニケーションの理論を理解する
・講義内容を実際のコミュニケーションに活用できるようになる
・講義内容を社会生活と関連づけて説明できるようになる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションーコミュニケーションを研究するための「構え」
第2回：「コミュニケーション」研究の地平
第3回：「人間」と「動物」のコミュニケーション
第4回：言語コミュニケーション①── 言語相対性仮説　　など
第5回：言語コミュニケーション②── スピーチ・コミュニティ　など
第6回：言語コミュニケーション③── コミュニケーション適応理論　など
第7回：ビジネスコミュニケーション①── メール、電話、敬語などについて考える
第8回：ビジネスコミュニケーション②── 高コンテクストと低コンテクスト
第9回：メディアコミュニケーション①── メディアの歴史、種類、リテラシー
第10回：メディアコミュニケーション②── マクルーハン、CMC　など
第11回：中間テスト
第12回：テストの振り返りとワークショップ法①── ワークショップとは、アイスブレイク　など
第13回：ワークショップ法②── バグリスト、ブレインストーミング　など
第14回：ワークショップ法③── 親和図法、構造ソフト発想法　など
第15回：講義のまとめとデブリーフィング

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：事前課題がある場合は、必ず取り組んでください。
復習：各講義回の資料およびノートを見直し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べてください。
その他、講義で説明したことを自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

中間テスト(30%)　最終レポート(40%)　平常点(30%)
平常点は授業への参加状況、受講態度、リアクションペーパーの内容、小課題等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・コミュニケーションの理論を理解できているか
・講義内容を実際のコミュニケーションに活用できているか
・講義内容を社会生活と関連づけて説明できるか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定のテキストは指定しません。講義中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
受講生の理解度に応じて講義内容を変更する可能性があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

異文化理解 a (Cross-Cultural Understanding a)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2103	2 単位	1 年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

異文化コミュニケーション学の入門として、異文化理解に関する事柄を学びながら、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについて理解する。

授 業 の 到 達 目 標

・異文化コミュニケーション学の基礎を学ぶ。
・異文化理解に関する事柄について学ぶ。
・上記の事柄に関し、グループ・トレーニングを通して経験的な理解を深める。

授　業　の　計　画

第 1 回：異文化コミュニケーションの世界
第 2 回：文化とは？
第 3 回：なぜ人間はコミュニケーションをとるのか？
第 4 回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニングの導入）
第 5 回：主なコミュニケーションモデル
第 6 回：非言語的コミュニケーション
第 7 回：異文化コミュニケーション
第 8 回：グループ・トレーニング（異文化トレーニングの実践）
第 9 回：コミュニケーションスタイルズ
第10回：ホフステードの文化次元
第11回：翻訳と通訳・異文化コミュニケーションと教育
第12回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニングとのブレンディッド学習）
第13回：異文化コミュニケーション能力と改善
第14回：グループ・トレーニング（ICTを用いた異文化トレーニング内容の復習）
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

グループ・トレーニングでは、予習が必要です。あらかじめ指定された課題を予習した上で、次の授業に臨んでください。各回の講義を受けた後は、当該部分の配布資料を見直して復習をしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）、授業内レポート（30%）、平常点（20%）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・異文化コミュニケーション学の基礎的な用語について説明することができるか。
・異文化コミュニケーションについて、学んだ知識に基づいて説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。

その他（受講上の注意）
5 分以上20分未満の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語概論 (Introduction to the Japanese Language)			担当教員	天野　義廣
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2104	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

・日本語の特色を、外国語の場合と対照させながら、発音・語彙・表記法・文法などの分野にわたって紹介する。
・各回とも原則として次の順序で展開する。
［出欠確認→当日取り上げる項目や学習目標の提示→資料プリントの配付→個々の新出事項の説明・課題についての解説・授業メモで出された質問や意見への回答など→次回の予告→「授業メモ」の記述（質問・感想・意見など）］

授　業　の　到　達　目　標

（1）日本語の特色を様々な面から認識し、日本語が日本人の感受性、思考法、発想等にどのような影響を及ぼしているかについても事例を通して思考する。
（2）上記の知見を今後のコミュニケーションや日本語教育に生かそうとする姿勢と技能を養う。

授　業　の　計　画

第1回：授業のねらいと進め方
第2回：世界の中の日本語
第3回：発音から見た日本語　その1
第4回：発音から見た日本語　その2
第5回：語彙から見た日本語　その1
第6回：語彙から見た日本語　その2
第7回：語彙から見た日本語　その3
第8回：表記法から見た日本語　その1
第9回：表記法から見た日本語　その2
第10回：文法から見た日本語　その1
第11回：文法から見た日本語　その2
第12回：文法から見た日本語　その3
第13回：地域方言と社会方言
第14回：日本人の言語表現
第15回：日本語はどうなるか
第16回：定期試験

授業外の学習方法

次回の授業で扱うテキストと配付プリントの範囲を予告する。事前にその部分のテキストを読み、プリントの課題に取り組んで内容の理解に努めておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験、レポート（2点）、平常点（授業メモの内容、受講態度等）により評価する。
定期試験（70%）・レポート（20%）・平常点（10%）

成　績　評　価　基　準

・授業で扱った範囲で、日本語学の基本的な用語の意味・用法を理解できているか。
・授業で扱った範囲で、日本語の発音・語彙・表記・文法等の主な特色を説明できるか。
・外国人学習者への日本語教育について、留意すべき指導項目や指導方法を理解できているか。

テキスト、参考図書
金田一春彦著『日本語』上・下（岩波書店　1988年）　なおほぼ毎回、テキストに準拠した資料プリントを配付する。資料プリントには、テキストの用語・事項の分かりやすい説明や具体例・関連する記事や調査データなどを取り上げる。
その他（受講上の注意）
・予告範囲を予習してきていることを前提に授業を進める。 ・配付した資料プリントはバインダー等で一つにまとめ、毎回持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語口頭表現 (Oral Expression in Japanese)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−S−2109	2単位	1年前期･後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

日本語表現の基礎「話す」･「きく」ことの基本を、講義と演習を繰り返すことにより理解し、体得していく。演習では、人前で明瞭な言葉と声で自分の意見や思いを的確に伝えられるようになることを目的に、自己紹介(自己PR)、スピーチ、グループ発表などを行う。

授 業 の 到 達 目 標

人前で、「言葉」を使って自分の意見や思いを過不足なく的確に相手に伝え、相手の考えをきちんと理解して聴くことができるよう「スピーキング能力」、「コミュニケーション能力」、「会話力」を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：「話す」ということ
第2回：演習①
第3回：「きく」ということ(聞く、聴く、訊く)
第4回：演習②
第5回：話の材料の集め方
第6回：話の材料のまとめ方
第7回：演習③
第8回：心をつかむ話し方
第9回：演習④
第10回：話す力をみがく(表現技術)
第11回：演習⑤
第12回：公の場での話し合い・会議
第13回：演習⑥
第14回：スピーチについて
第15回：演習⑦
第16回：定期試験(スピーキング試験)

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、演習の課題発表の際には自分の考えをまとめ、声に出して練習しておくこと。
復習としては、授業時の内容をまとめ、次の授業で発表(スピーキング)できるようにしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　演習(25%)　平常点(25%)　＊平常点は授業への参加状況、受講態度、演習への取り組み方等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

人前でのスピーキングにおいて、自分の考えや意見を、きき手にわかりやすく、的確、明瞭に伝えているか。演習において、人の話を理解して心に受け入れ聴いているか。「言葉」の役割を理解し、積極的に他者とコミュニケーションをとり、会話力をみがいているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。(プリント資料を配布する)

その他（受講上の注意）
上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報メディア (Information Media)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2110	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本授業では、情報化社会の中で必要となる基礎知識の習得を目的とした反転学習を行う。本授業を通して、通信の仕組みやコンピュータの仕組み等のコンピュータサイエンスに関する基礎知識のほか、ITを業務やビジネスに活かすために必要な知識の習得を行う。

授 業 の 到 達 目 標

①企業や関連業務、経営戦略やビジネスインダストリに関する知識を習得する。
②情報システムの開発や運用に関する基礎知識を習得する。
③コンピュータシステムやネットワークに関する知識を習得する。

授　業　の　計　画

第1回：チュートリアル，授業の進め方，成績評価について
第2回：反転学習 ── 第1章：業務 ──
第3回：反転学習 ── 第2章：法務 ──
第4回：理解テスト ── 業務と法律 ──
第5回：反転学習 ── 第3章：コンピュータシステム ──
第6回：反転学習 ── 第4章：システム開発 ──
第7回：理解テスト ── コンピュータシステムとシステム開発 ──
第8回：反転学習 ── 第5章：ハードウェア ──
第9回：反転学習 ── 第6章：基礎理論 ──
第10回：理解テスト ── ハードウェアと基礎理論 ──
第11回：反転学習 ── 第7章：ソフトウェア ──
第12回：反転学習 ── 第8章：ネットワーク ──
第13回：理解テスト ── ソフトウェアとネットワーク ──
第14回：反転学習 ── 第9章：セキュリティ ──
第15回：理解テスト ── セキュリティ ──
第16回：期末試験

授 業 外 の 学 習 方 法

本授業は、国家資格であるITパスポートの獲得を目指した授業である。ITパスポートの教材は様々な出版社から出版され、試験の過去問題も公開されている。各自、自分に合った教材を選択し、自学自習を行うこと。また、推奨学習時間は復習90分、予習90分である。また、本授業で利用する教材は大学以外のインターネットアクセス環境からも学習可能である。

成　績　評　価　方　法

期末の試験（50%）、全5回の理解度テスト（50%）

成　績　評　価　基　準

ITの基礎知識をえ、それを説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

平成29年度 ＩＴパスポート合格教本　を利用する.

その他（受講上の注意）
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザイン (Digital Design)			担当教員	吉村　正照
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−S−2111	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

視覚的なコミュニケーションのための表現方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。グラフィックデザインの基本ルールの理解と平行して、コンピュータ（Mac）のアプリケーション（Photoshop、Illustrator）を用いたグラフィックデザインの技法を習得していく。

授 業 の 到 達 目 標

社会においてデザインが必要とされている理由を理解する。デザインの基本ルール（色、文字、レイアウト）について理解する。コンピュータを用いたグラフィックデザインの技法を習得する。デザインを駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。

授　業　の　計　画

第1回：Macの使い方、制作ツールの紹介、データの管理方法、著作権について
第2回：Illustratorの基本操作
第3回：レイアウトの基本ルール①
第4回：レイアウトの基本ルール②
第5回：Photoshopの基本操作
第6回：写真と画像
第7回：配色の基本
第8回：文字と書体
第9回：文章のデザイン
第10回：インフォグラフィック
第11回：期末課題制作① オリエンテーション、制作フローの確認、ラフスケッチ、コンテンツの準備
第12回：期末課題制作② デザインデータ制作
第13回：期末課題制作③ デザインデータ制作、中間チェック
第14回：期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出、印刷
第15回：期末課題制作⑤ プレゼンテーション

授 業 外 の 学 習 方 法

センスを鍛える：「デザイン」を意識して生活してみる。日常を観察し「デザイン」を発見してみる。
技術を鍛える：デザインツール（スマートフォンも可）で自主制作をやってみる。

成　績　評　価　方　法

期末課題作品（40%）　授業毎の作品（30%）　授業毎の小テスト・レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

・デザインの基本ルールが理解できているか。
・ツールを適切に使用できているか。
・デザインの基本ルールを理解した上で、課題作品の制作ができているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：坂本 伸二『デザイン入門教室［特別講義］』SBクリエイティブ 2015年
参考図書：授業内で紹介する

その他(受講上の注意)

授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠa (Oral Communication Ⅰa)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−S−2113	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Each unit begins with a warm-up activity to introduce vocabulary and patterns, followed by listening exercises to foster comprehension of basic ideas and details. Speaking exercises introduce strategies to communicate meaning effectively.　（各回、語彙と構文の導入後に、基本概念とその発展の理解を促進するためにリスニング練習を行う。また、意味伝達を効果的に行うため、スピーキング練習を行う。）

授　業　の　到　達　目　標

Through successful completion of this course, participants will be able to easily engage in 'everyday' conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力を育成する）

授　業　の　計　画

第1回：好きなこと嫌いなこと（文章ストレス（発音）, 聴取）
第2回：好きなこと嫌いなこと（確認の為に繰り返しを求めること, 話す）
第3回：お金と値段（弱母音、聴取）
第4回：お金と値段（確認の為に質問を聞く、話す）
第5回：家族について（文章ストレス（発音）, 聴取）
第6回：家族について（確認の為に主な情報を繰り返す、話す）
第7回：中間試験
第8回：行ったことについて（消えそうな音、聴取）
第9回：行ったことについて（会話を参加する為に質問を聞く、話す）
第10回：職業の説明（文章ストレス（発音）, 聴取）
第11回：職業の説明（明確にする為に例文を使う）
第12回：日常生活（弱母音、聴取）
第13回：日常生活（確認の為に主な情報を繰り返す、話す）
第14回：聴取（パターンから予想すること、聴取）
第15回：聴取（シャドーイング、話す）
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.

成　績　評　価　方　法

積極的な授業態度及び課題－25%
中間試験－25%
期末試験－50%

成　績　評　価　基　準

Participants can easily engage in 'everyday' conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力が身に付いているか）

テキスト、参考図書
Communication Spotlight：Speaking Strategies & Listening Skills.（Second Edition） Graham-Marr, Alastair. ABAX ELT Publishers. 2013. ISBN：978-1-896942-65-0.
その他（受講上の注意）
This course requires proactively participating in pair-work and group exercises.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠb (Oral Communication Ⅰb)			担当教員	M ハウカ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-S-2114	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力

授 業 の 内 容

Each unit begins with a warm-up activity to introduce vocabulary and patterns, followed by listening exercises to foster comprehension of basic ideas and details. Speaking exercises introduce strategies to communicate meaning effectively. （各回、語彙と構文の導入後に、基本概念とその発展の理解を促進するためにリスニング練習を行う。また、意味伝達を効果的に行うため、スピーキング練習を行う。）

授 業 の 到 達 目 標

Through successful completion of this course, participants will be able to easily engage in 'everyday' conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力を育成する）

授 業 の 計 画

授業計画
第1回：好きな科目について（混合音、聴取）
第2回：好きな科目について（言い換え、話す）
第3回：説明する/料理の方法（弱母音、聴取）
第4回：説明する/料理の方法（婉曲な表現 、話す）
第5回：現在について（文章ストレス, 聴取）
第6回：現在について（繰り返しと言い換え, 話す）
第7回：中間試験
第8回：未来について（カジュアルな英語、聴取）
第9回：未来について（会話を参加する為に質問を聞く、話す）
第10回：物の説明（文章ストレス, 聴取）
第11回：物の説明（繰り返しと言い換え, 話す）
第12回：数字に慣れる（トーングループの区別、聴取）
第13回：数字に慣れる（会話ストラテジー、話す）
第14回：道案内（母音の侵入、聴取）
第15回：道案内（シャドーイング、話す）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.

成 績 評 価 方 法

積極的な授業態度及び課題 - 25%
中間試験 - 25%
期末試験 - 50%

成 績 評 価 基 準

Participants will be able to easily engage in 'everyday' conversations in English at a high-beginner level of proficiency on a variety of topics.（様々なトピックに関する日常会話を行うことができるよう、基本的な英語力が身に付いているか）

テキスト、参考図書
Communication Spotlight：Speaking Strategies & Listening Skills.（Second Edition） Graham-Marr, Alastair. ABAX ELT Publishers. 2013. ISBN：978-1-896942-65-0.
その他（受講上の注意）
This course requires proactively participating in pair-work and group exercises.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発基礎演習 (Basic Practice in Plannning and Development)			担当教員	冨永　良史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−AOO−2115	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

新しいモノゴトを生み出すための、ココロとカラダの使い方を、多様な試行を通じて探索する。
狭い常識を打ち破り、視野を拡げ、捕われずに柔軟に考えるための、試行錯誤の場。失敗から学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

1. 異なる価値観を持つ他者との対話から、新しい発想を生み出せる。
2. 発想したことを、すぐに試行／試作につなげ、そこから学びを生み出せる。
3. 自分の大学生活を、主体的に企画開発できる。

授　業　の　計　画

第1回：これからの学び・答えのない問いに向きあう
第2回：創り出すべきは、どんな答えなのだろう
第3回：ヒラメキは、いつ、どんな時にやってくるのか
第4回：どれくらい固定観念にとらわれているのか
第5回：失敗の先にしか成功はない
第6回：理想の環境が与えられることはない
第7回：考える前に、その場所に行って感じ取る
第8回：誰かの目線に重ねあわせ、発展させる
第9回：やってみなければわからないことは、やってみる
第10回：いつもと同じ行動からは、いつもの日常がやってくる
第11回：ありえないところに、ありえないものを置いてみる
第12回：計画と即興の間にある可能性
第13回：旧年を振り返り、新年を信念する
第14回：すべてから切り離された自由
第15回：あなたを企画開発する

授 業 外 の 学 習 方 法

授業で生まれた学び、ヒラメキは、「必ず」実行すること。アタマで理解できることは、この授業の成果ではない。ココロとカラダで結果を感じ取って、次の授業にその成果を持ち寄って欲しい。

成　績　評　価　方　法

授業毎のミニレポート（40%）、期末レポート（30%）、授業への参加意欲と貢献（30%）。
「座っているだけ」でも「出席」ではあるが、「参加、貢献」とはみなさない。

成　績　評　価　基　準

1. 自分の殻を破って他者と対話し、触発しあおうとしているか。
2. 思いついたことを「まず、やってみる」という試行力があるか。
3. 授業での学びを、自分の成長、変化、深化に結びつけようとしているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じてレジュメを配布する。

その他（受講上の注意）
この授業に、正解と不正解の区別はない。どんな発言、発想にも可能性がある。あらゆる常識ハズレを歓迎する。この授業の究極のルールは「バカバカしさを否定しない、面白がる、そこから発展させる」。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域研究概論 (Introduction to Area Studies)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−AOC−2120	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

地方創生の取り組みが推進される今日において、地域の魅力は何か・地域ビジョンについて問われる時代になっている。授業では、地域研究の基本的な考え方について紹介・解説するとともに、現地へ足を運び、見る・聞く・肌で感じる体験を通して、地域の実態を知り、地域の将来を構想する能力の向上を狙いとする。

授 業 の 到 達 目 標

・地域の実態及び課題について説明することができる。
・地域はどうあらねばならないか、望ましいのかを主張することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：地域研究と多文化理解
第3回：地域研究とグローバリゼーション
第4回：地域研究と将来構想
第5回：事前調査
第6回：調査計画
第7回：現地調査①
第8回：現地調査②
第9回：調査結果の整理
第10回：調査結果の発表
第11回：地域のリソース①
第12回：地域のリソース②
第13回：レポート・レジュメの作成
第14回：レポート発表
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物（70%）、平常点（30%）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・地域の実態及び課題について説明することができるか。
・地域はどうあらねばならないか、望ましいのかを主張することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて、授業中に紹介します。

その他（受講上の注意）
「授業の計画」にある「現地調査」は、「大学連携センターＦスクエア（AOSSA内）」及びAOSSA周辺で実施することになります。また、リアクション・ペーパー（授業中作成）の内容については、次回授業においてフィードバックします。なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学入門 (Introduction to Sociology)			担当教員	江南　健志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2121	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義では、社会学及び社会調査とはどのようなものか、何のために行うのかを概説する。まず、社会学の考え方とその学説史を確認したうえで、社会調査について学ぶ。次に、社会調査の目的、社会調査の歴史、社会調査の倫理について学び、さまざまな社会調査の種類とそれぞれの方法が持つ長所と問題点を理解する。なお、各回の講義は、社会調査の実践の背景にある社会科学の理論・知見に関するアカデミック・ガイダンスの要素を含む。

授業の到達目標

・社会調査の目的について理解する。
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになること。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになること。

授　業　の　計　画

第1回：講義概要
第2回：社会学の考え方
第3回：社会学の学説史
第4回：社会調査の目的と歴史
第5回：社会調査の倫理
第6回：社会調査の種類と特性（1）質的調査
第7回：社会調査の種類と特性（2）量的調査
第8回：質的調査の実践例 ── インタビュー、参与観察、アクション・リサーチ
第9回：質的調査の意義と限界
第10回：量的調査の実践例 ── アンケート、国勢調査、官庁統計、市場調査
第11回：量的調査の基礎 ── 問題意識、仮説構成、調査票作成
第12回：量的調査の基礎 ── 実査と分析、質問紙調査の意義と限界
第13回：社会調査の変容① ── 情報化と多文化社会化の進展に伴う調査対象の多様化
第14回：社会調査の変容② ── 情報化と多文化社会化の進展に伴う調査方法の多様化
第15回：探求への活用 ── 卒業研究と卒業後を見据えて
第16回：定期試験

授業外の学習方法

次回の授業用に配付された資料または、関連する事項について予習しておくこと。実施された授業内容を復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

・定期試験（50％）
・小テスト・小課題提出（50％）

成　績　評　価　基　準

・社会調査の目的について理解できているか。
・対象に応じて、適切な手法を選択できるようになっているか。
・官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになっているか。

テキスト、参考図書
テキスト：轟・杉野編『入門・社会調査法（第３版）』法律文化社、2017年刊行
その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、社会調査の基本的事項に関して学ぶ標準カリキュラムのA科目に対応するものである。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

共生社会論 (Social Coexistence Studies)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−AOC−2122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、現代社会でいかにして「共生社会」を築き上げるかを考える。マジョリティとして生きることは一種の「特権」であるという立場に立って、マイノリティや社会的劣位に置かれている人々をめぐる問題について学ぶ。とくに、ジェンダー論と社会階層論を中心に扱う。平等や差別、ダイバーシティ（多様性）に関する理論や、LGBT、ケア、教育格差、貧困といった具体的なテーマを通して、公正な社会とはどのような社会か、考えを深めていく。

授　業　の　到　達　目　標

社会的強者であるマジョリティにとって、マイノリティの問題は「他人事」になりがちである。マイノリティが置かれている状況を知り、問題を正しく理解することをめざす。一方で、マイノリティの不利益だけではなく、マジョリティが有している特権にも目を向ける必要がある。これらを通じて、共生社会の理念や、その実現のためには何が必要か、考えを深めていく。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション ── 共生社会とは何か
第2回：合理的な選択とは何か ── 囚人のジレンマ
第3回：ダイバーシティと「特権集団」
第4回：共生社会とジェンダー①ジェンダー論入門
第5回：共生社会とジェンダー②LGBT・SOGI（1）
第6回：共生社会とジェンダー③LGBT・SOGI（2）
第7回：共生社会とジェンダー④ハラスメント
第8回：労働の権利①有償労働と無償労働
第9回：労働の権利②「やりがい」の搾取
第10回：労働の権利③ケア労働（1）
第11回：労働の権利④ケア労働（2）
第12回：社会階層論①機会の平等と結果の平等
第13回：社会階層論②格差と貧困
第14回：社会階層論③社会移動と格差の再生産
第15回：共生社会の実現に向けて ── 社会的公正活動の実践へ

授業外の学習方法

講義中に示した文献・論文を読むこと。
講義内で扱ったテーマに関するテレビ番組、インターネット記事、団体のホームページなどを通して理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）　小テスト・ミニレポート（25%）　平常点（25%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

現代社会のマジョリティとマイノリティをめぐる状況について、正しく理解できたか。
共生社会の理念とその実践について理解を深めることができたか。

テキスト、参考図書
テキストは指定しない。講義中に、参考文献および論文を明示する。
その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。目に余る場合は、退室を命じる。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会言語学 (Sociolinguistics)			担当教員	加藤　和夫
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−OBC−2125	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

わが国の言語学、日本語学分野での一大潮流となりつつある社会言語学とは、社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて各言語現象、あるいは言語運用を捉えようとする学問である。授業では、社会言語学の内容について、現代日本語（受講生の多くの出身地である福井県の方言や全国諸方言を含む）の様々な事象を具体的に取り上げながら考察する。

授　業　の　到　達　目　標

日本語に存在する様々なバリエーションの背景にある社会的要因に気づくとともに、社会的存在としての言語を広い視野で客観的に観察し、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーとしての言語機能をよく知り、使いこなすための知識、及びそれらの知識を背景としながら日本語を母語としない人たちに日本語を教えるための知識を身に付けることができる。

授　業　の　計　画

第1回：言葉選びの科学、理論言語学と社会言語学
第2回：社会言語学は面白い、言語共同体とアイデンティティ
第3回：言葉のバリエーション、地域方言と社会方言
第4回：方言の否定、方言の誇り、気づかれにくい方言
第5回：福井県方言の概要（1）
第6回：福井県方言の概要（2）
第7回：言葉とジェンダー
第8回：言葉と世代
第9回：親疎関係と言葉、敬語とポライトネス理論
第10回：場面と言葉、話題・機能と言葉
第11回：日本語の人称表現の特徴、人称表現によるキャラ立て
第12回：ダイグロシア状況、バイリンガル状況
第13回：言語決定論と言語相対論、言葉と文化
第14回：言葉の変化と乱れ、敬意逓減の法則
第15回：言語接触、国語と公用語、言語政策
第16回：試験

授業外の学習方法

集中講義であることから、期間中の予習・復習の時間が限られるので、事前にテキストの内容や参考文献に目を通して、理解した点や疑問点をノートに整理しておくこと。

成　績　評　価　方　法

講義への積極的参加度（20%）と試験（80%）による総合評価。

成　績　評　価　基　準

講義内容を通じて社会言語学の研究内容や研究方法について理解し、日本語のバリエーションとその背景にある要因について説明することができるか。

テキスト、参考図書
石黒 圭『日本語は「空気」が決める　社会言語学入門』 光文社新書　2013年
その他（受講上の注意）
集中講義であるので４日間を通して出席できる者のみが受講できる。受講後の質問等についてはメールで受け付ける。 kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

異文化理解b (Cross-Cultural Understanding b)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−ABC−2128	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

異文化コミュニケーション学の基礎的知識を踏まえ、異文化コミュニケーションと多文化共生に関連する重要な事柄について、グループ・トレーニングを交えながら学ぶ。これにより、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについての多角的な理解を深める。

授業の到達目標

・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する重要事項について学ぶ。
・上記の事柄に関し、グループ・トレーニングも交えて理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション
第2回：多文化共生社会における異文化コミュニケーション研究の目的
第3回：文化
第4回：言語
第5回：価値観
第6回：日本語教育
第7回：医療
第8回：福祉・ソーシャルワーク
第9回：中間テスト
第10回：異文化コミュニケーション・トレーニングについて
第11回：異文化トレーニングとは
第12回：グループ・トレーニング（異文化トレーニングの実践）
第13回：アサーティブ・コミュニケーションとは
第14回：グループ・トレーニング（アサーティブ・コミュニケーションの実践）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義を受けた後は、当該分野の配布資料を見直して復習をしてください。各講義において示された参考資料も読み、理解を深めましょう。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）、授業内レポート（30%）、平常点（20%）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・異文化コミュニケーションと多文化共生に関する用語について説明することができるか。
・異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション現象について、学んだ知識に基づき、論理的に分析し説明することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト：特になし。 参考図書：参考文献は適宜授業内で告知する。
その他（受講上の注意）
本講義を受ける前に「異文化理解a」の単位を取得すること。 ５分以上20分未満の遅刻３回で欠席１回とみなします。 20分以上の遅刻は欠席とみなします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学Ⅰ (English Linguistics Ⅰ)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−OBO−2129	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

英語学を基礎から学び、英語を体系的に把握する。

授 業 の 到 達 目 標

英語という言語の概要・背景を学び、異文化理解力を育み、英語力を多面的に育成する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：身近にある「英語」とは
第3回：3種類のことば
第4回：3種類の英語
第5回：イギリス英語（1）　歴史
第6回：イギリス英語（2）　方言と標準語
第7回：イギリス英語（3）　発音・語彙・文法
第8回：オーストラリア英語（1）　歴史
第9回：オーストラリア英語（2）　特徴
第10回：アメリカ英語（1）　歴史
第11回：アメリカ英語（2）　発音・語彙・文法
第12回：アメリカ英語とイギリス英語
第13回：カナダ英語（1）　歴史
第14回：カナダ英語（2）　特徴
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておく。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直した上で、興味をもったことを調べる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

英語学の基礎が理解できているのか。
世界英語の観点より、異文化への理解ができているのか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：平賀正子（著）　『ベーシック新しい英語学概論』　2016年　ひつじ書房

その他(受講上の注意)

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語音声学 (English Phonetics)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2131	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得る。

授 業 の 到 達 目 標

英語の発音のメカニズムを理解し、英語音声の基礎的な知識を得るとともに、正しい発音でコミュニケーションをとることができ、また、聞き取りができることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：現代英語と音声学
第3回：子音（1）子音の特徴
第4回：子音（2）閉鎖音・摩擦音①
第5回：子音（3）摩擦音②・破擦音
第6回：子音（4）鼻音・側音・半母音
第7回：母音（1）母音の特徴
第8回：母音（2）短母音
第9回：母音（3）二重母音
第10回：母音（4）弱母音
第11回：音の連続
第12回：アクセント
第13回：リズム
第14回：イントネーション
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習・復習として、教科書付属のCDをよく聞き、何度も読む練習をし、モデルと同じような発音ができるよう、心がける。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　授業内レポート（30%）　平常点（20%）
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

英語発音の仕組みを理解し、音声学の基礎的な知識を得られたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子　『改訂新版　初級英語音声学』　2013年　大修館書店

その他(受講上の注意)

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	門脇　　健
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1212	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

宗教という人間独自の現象を、動物との比較、言語や法そして貨幣という人間独自の制度との比較を通して考察します。

授 業 の 到 達 目 標

宗教という人間独自の現象を考察することによって、何気ないふだんの日々の意義深さ、面白さに気づくことができる。

授　業　の　計　画

第1回：人間と動物(「顔」について)
第2回：人間と動物(想像力について)
第3回：私の発生
第4回：言葉の習得
第5回：言葉と私
第6回：贈与と交換
第7回：視点の転換
第8回：時間の逆流
第9回：四苦八苦
第10回：仏教とキリスト教
第11回：神話を生きる
第12回：対象喪失
第13回：喪の作業
第14回：儀礼と宗教
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

講義の中で言及した文学作品や映画などに可能な限り接すること。

成　績　評　価　方　法

学期中に2，3回小レポートを実施します。
レポート試験(50%)　小レポート(30%)　平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

自分の関心がクリアに表現できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

門脇健『哲学入門　死ぬのは僕らだ！』角川SSC新書(参考図書、デジタルテキスト)

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	西本　祐攝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1211	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　全学共通科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ブッダと親鸞の思想のポイントを学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。仏教思想における人間観を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を涵養する。

授 業 の 到 達 目 標

ブッダと親鸞の生涯と基本的な思想を理解し、説明することができる。
仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。
仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、その創造に努める姿勢を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション
第2回：ブッダに学ぶ①　人間の課題
第3回：ブッダに学ぶ②　四苦に向きあう1
第4回：ブッダに学ぶ③　四苦に向きあう2
第5回：ブッダに学ぶ④　悟りとは何か1
第6回：ブッダに学ぶ⑤　悟りとは何か2
第7回：ブッダに学ぶ⑥　ブッダと出会った人びと1
第8回：ブッダに学ぶ⑦　ブッダと出会った人びと2
第9回：親鸞に学ぶ①　概説
第10回：親鸞に学ぶ②　ブッダの教えに生きる
第11回：親鸞に学ぶ③　理想と現実1
第12回：親鸞に学ぶ④　理想と現実2
第13回：親鸞に学ぶ⑤　教えとの出遇い、自己との出遇い
第14回：親鸞に学ぶ⑥　救いとは何か
第15回：親鸞に学ぶ⑦　共に生きる道
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

講義で学んだことを、日常生活のなかで思索し、自分とは何か、他者と共に生きるとはどういうことかを確かめるよう努めること。

成　績　評　価　方　法

定期試験(40%)　小レポート(20%)　平常点(40%)
(平常点は、出席、受講態度、課題に取り組む姿勢等で総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

講義に対する理解度と、理解した内容を自らの課題として考察できているかどうかを基準にする。

テキスト、参考図書

『ブッダと親鸞』(東本願寺出版部)

その他(受講上の注意)

私語、携帯電話の使用は厳禁です。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1223	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。

授　業　の　到　達　目　標

過去および現在の哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、現代日本に生きる自分が歴史に制約された存在であることを認識すると同時に、大学生なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その術語を習得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明
第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ)
第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1)
第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2)
第5回：ロゴス思想の展開と原子論へ(プレソクラテス3)
第6回：対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1)
第7回：「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2)
第8回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論1)
第9回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論2)
第10回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの目的論と全体論)
第11回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの存在論)
第12回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響1
第13回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響2
第13回：身体は一種の機械なのか？(デカルトの心身二元論)
第14回：知識の源泉としての自我(デカルトの自我論・知識論)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。
・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。
参考図書については２回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。
・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）　岩波書店　2003
・伊藤邦武『物語　哲学の歴史』（岩波新書）　岩波書店　2012
・熊野純彦『西洋哲学史　古代から中世へ』（岩波新書）　岩波書店　2006
・熊野純彦『西洋哲学史　近世から現代へ』（岩波新書）　岩波書店　2006

その他（受講上の注意）

毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	杣谷　英紀
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1224	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

古今東西にある物語には共通する構造がある。本講義では、物語の構造を理解することで物語そのものの意義を理解し、物語を楽しむ視野を広げることを目的とする。また、近代の〈文豪〉と呼ばれる作家達の現代にも繋がる作品を精読することで〈近代〉とはいかなる時代であったかを理解することも目的の一つである。

授業の到達目標

・文学作品に表象された〈近代〉について自分の考えを表現できる。
・自分で文学作品について方法意識をもって分析と鑑賞ができる。
・文学作品を鑑賞し、現実に繋がる問題を見つけて独自に考察できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション 村上春樹「鏡」を読む
第2回：近代の「子ども」 夏目漱石「夢十夜」
第3回：近世と近代　佐藤春夫『狐』を読む
第4回：異界入門　泉鏡花『龍潭譚』を読む（1）
第5回：異界入門　泉鏡花『龍潭譚』を読む（2）
第6回：異界入門　泉鏡花『龍潭譚』を読む（3）
第7回：物語と異界　佐藤春夫「西班牙犬の家」を読む
第8回：異人と共同体　芥川龍之介「奉教人の死」を読む
第9回：分身の表象 梶井基次郎「Kの昇天」
第10回：都市の異界　　江戸川乱歩「押絵と旅する男」を読む
第11回：異界への誘惑　夢野久作「瓶詰の地獄」を読む
第12回：異界の構造　太宰治「魚服記」を読む
第13回：異界の表象　中島敦「狐憑」「文字禍」を読む
第14回：時間と物語　川端康成「水月」を読む
第15回：予備・まとめ

授業外の学習方法

テキストを必ず読んでから出席すること。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）、毎回のコメントペーパー（35%）、小テスト（15%）

成　績　評　価　基　準

・文学作品に表象された〈近代〉について自分の考えを表現できるか。
・自分で文学作品について方法意識をもって分析できるか。
・文学作品を鑑賞し、現実に繋がる問題を見つけて独自に考察できるか。

テキスト、参考図書

テキスト 東郷克美・高橋広満編『〈異界〉を読む』(鼎書房、2016年)

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

歴史と地域文化 (History and Local Culture)			担当教員	久保　智康
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1225	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

地域の歴史・文化は、そこに住む人がかたち作っていくものである。と同時に、それは時代の経過とともにより豊かなものになり、次の世代へと受け継がれていくのが望ましい。すでに過去から蓄積された福井の地域文化を歴史の中にたずね、それを受け継ぎ発展させる具体的方策を考える。

授業の到達目標

・他者だけでなく自己も地域の歴史・文化をかたち作る主体であることを理解できる。
・そのために、地域の人々とのコミュニケーションが積極的に行える。
・地域の歴史・文化に関する情報収集・探索能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：「地域文化」とは何か
第2回：越前・若狭という地域の成り立ち
第3回：行政的地域としての越前・若狭
第4回：いつから地域産業は始まったか
第5回：「仏教王国ふくい」の原像を求めて
第6回：山寺と霊山
第7回：道元と蓮如
第8回：「念仏王国」、越前
第9回：元祖地域ブランド、越前焼
第10回：道がつなぐ越前・若狭
第11回：一乗谷文化
第12回：天領と藩領、そして福井県へ
第13回：近世・近代の地域ブランド、赤瓦と笏谷石
第14回：琉球、沖縄と越前
第15回：地域に住むこと、離れること
第16回：定期試験

授業外の学習方法

高校での日本史履修は問わないが、中学で学んだ程度の歴史は復習しておくことを勧める。授業を受けて抱いた疑問は、終了後、あるいは次回授業の際に質問などをして解決すること。福井新聞など地元紙に常時目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

地域の歴史・文化に関する過去・現在の事例に関して、自己の問題として認識し、具体的な関わり方を想定できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『文化財からみる　越前市の歴史文化図鑑』（監修）橋本政宣・久保智康　越前市
※第2回目の授業時に販売

その他（受講上の注意）
できる限り前列の席で受講すること。画像を使用するが、漫然と見ているだけでなく、要点を極力ノートすること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人権と法 (Human Rights and Law)			担当教員	早川　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

国民の基本的人権のあり方について、市民生活における契約、損害賠償、消費者、労働者、家族の様々な視点から整理する。

授　業　の　到　達　目　標

現代における多様な社会問題を取り上げ、相互に交錯する権利の実現を、いかにして法的解決に導くのかについて、基礎的知識を修得することを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：基本的人権の法的性格
第2回：自然人の権利能力と行為能力
第3回：人間らしく生きる権利（生存権）と人間らしく死ぬ権利（尊厳死）
第4回：法の下の平等と尊属殺規定
第5回：事例研究　死刑制度を考える
第6回：契約自由の原則と法規制
第7回：意思表示の取消と無効
第8回：無権代理と表見代理
第9回：婚姻の成立・効果
第10回：離婚　有責主義から破綻主義へ
第11回：親の権利・子の権利　嫡出推定
第12回：事例研究　代理契約の母と性同一性障害の父について考える
第13回：相続　相続人の権利と義務　法定相続
第14回：遺言　最後の意思表示
第15回：人権の尊重と法の支配について考える　（総まとめ）

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。

成　績　評　価　方　法

レポート60%　小レポート30%　平常点10%
（平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを的確に理解し、法的解決に導くことができるか。

テキスト、参考図書

田中敦子・大野正博編　『法学入門』　成文堂　2016年　1,800円

その他(受講上の注意)

集中講義ですので、体調に注意して欠席しないようにして下さい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	早川　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−1222	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　人間学関連科目

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

憲法の歴史を踏まえながら、憲法について判例を通して整理する。
平和主義については湾岸戦争以来の国際協調を軸として整理する。

授 業 の 到 達 目 標

法の支配における人間の生活は常に法律によって規律されているが、法律は憲法に違反して制定されてはならない。憲法は、個人の尊厳を達成するため国民が国家を規制する法である。これらの憲法に関する基礎知識を修得する。

授　業　の　計　画

第1回：憲法典の定義
第2回：日本国憲法成立の由来
第3回：ポツダム宣言の示した新秩序実現
第4回：戦争放棄 ── 集団的自衛権と自衛隊海外派遣
第5回：象徴天皇と国事行為
第6回：基本的人権　新しい人権（プライバシー権）
第7回：基本的人権　表現の自由と公共の福祉・自主規制
第8回：事例研究　靖国神社公式参拝の問題点
第9回：国会中心立法・二院制（両院制）・衆議院の優越性
第10回：行政権内閣帰属の原則とその注意点
第11回：司法権の独立と独立制限
第12回：違憲審査制 違憲判決の具体的整理
第13回：事例研究　在日外国人に対する参政権の付与は必要か
第14回：地方自治の本旨
第15回：憲法改正
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%　小レポート30%　平常点10%（平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを法的に理解し、自分の言葉で他者に適切に説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

田中敦子・大野正博編　『法学入門』　成文堂　2016年　1,800円

その他(受講上の注意)

積極的に参加する意識をもって受講して下さい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境B (Human Beings and the Environment B)			担当教員	大久保　嘉雄
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

生態系の一員である人間が自然環境とどのように関わってきたのかを学び、これからどうあるべきかを考える。その基礎として、生物の生活や行動、からだのしくみを、進化の視点も交えて学ぶことにより、生物そのものと生態系の理解を深める。

授 業 の 到 達 目 標

人間がどのように自然環境と関わっていけばよいかを説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：コウノトリの放鳥と福井県
第2回：コウノトリの復活と生態系の保全
第3回：ニホンオオカミの絶滅とツキノワグマの捕殺問題（アンブレラ種、キーストーン種）
第4回：外来生物と生態系の保全（生態的地位、遺伝子交雑）
第5回：生物多様性の確保（国際条約、遺伝子かく乱）
第6回：動物の社会（社会性動物、利己的な遺伝子）
第7回：動物の生活と行動（食べる心配、食べられる心配）
第8回：生物を理解する視点（形態、生活場所、生活のしかた）
第9回：骨格と進化（外骨格と内骨格、気管と循環系）
第10回：視覚と行動（眼の進化、白目と意思疎通）
第11回：色覚と進化（色覚と行動様式）
第12回：日本人の起源とヒトの進化
第13回：人間の生活と身近な植物の利用（里地里山）
第14回：人間と植物（栽培植物の起源、発酵食品）
第15回：人間は科学をどのように生かすのか（温暖化問題、バイオテクノロジー、ノーベル賞医学生理学賞）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

板書や配付資料に基づいて講義内容をノートや小レポートにまとめ、次回に備えること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　小レポートと平常点（50%）
（小レポートは授業時に配布する資料に書き込みます。平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

生物の生活や行動、社会、からだのしくみを説明することができるか。その際に、進化の視点が入っているか。
生態系における、生物と自然環境の関係を説明することができるか。
人間の自然環境への影響を説明し、今後の関わり方を論じることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて、講義用資料を配付したり、参考図書等を指示します。

その他(受講上の注意)

遅刻の時間や回数に応じて欠席と見なすことがあります。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2232	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　環境・健康科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする授業です。本授業では特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げます。
後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっています。

授　業　の　到　達　目　標

本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対しての理解が深まる。

授　業　の　計　画

第1回：「ふくい」総合学」趣旨説明＜ 総論＞越前市を取り巻く状況
第2回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言
第3回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう　新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり
第4回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形63年のあゆみ
第5回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化（産業活性化プラン・工芸の里構想）
第6回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！ 捨てないで資源回収しよう
第7回：行政課題（1）地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系
第8回：行政課題（2）越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～
第9回：行政課題（今後）オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～
第10回：行政課題（展望）市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり
第11回：心理学の視点から
第12回：コミュニケーション学の視点から
第13回：健康栄養学の視点から
第14回：子ども教育学の視点から
第15回：まとめ

授業外の学習方法

履修登録時に配付する各回の授業内容を事前に読み予習しておくこと。また、復習としては授業時の板書やプリントに基づいて各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）　平常点（40％）
（平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。

テキスト、参考図書
毎回プリントを配布。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (English Ⅱa)			担当教員	フッド 晴美、山口　和代、R　ダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2241	1単位	2年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授 業 の 到 達 目 標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 1 Lifestyles①
第3回：Unit 1 Lifestyles②
第4回：Unit 2 Leisure①
第5回：Unit 2 Leisure②
第6回：Unite 3 Getting along①
第7回：Unite 3 Getting along②
第8回：Review
第9回：Unit 4 Interests①
第10回：Unit 4 Interests②
第11回：Unit 5 Telling a story①
第12回：Unit 5 Telling a story②
第13回：Unit 6 Celebrations①
第14回：Unit 6 Celebrations②
第15回：Review
第16回：Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成 績 評 価 基 準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 1 -786-32934- 9
その他（受講上の注意）
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) or CALL (E-303) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (English Ⅱb)			担当教員	フッド 晴美、山口　和代、R　ダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2242	1単位	2年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授 業 の 到 達 目 標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to- understand manner.

授　業　の　計　画

第1回：Class Introduction
第2回：Unit 7 Food & Drink①
第3回：Unit 7 Food & Drink②
第4回：Unit 8 Rules①
第5回：Unit 8 Rules②
第6回：Unit 9 Adventures①
第7回：Unit 9 Adventures②
第8回：Review
第9回：Unit 10 Health①
第10回：Unit 10 Health②
第11回：Unit 11 Comparisons①
第12回：Unit 11 Comparisons②
第13回：Unit 12 The Modern World①
第14回：Unit 12 The Modern World②
第15回：Review
第16回：Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成　績　評　価　基　準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978-1-786-32934-9
その他（受講上の注意）
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university.
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅱa (French Ⅱa)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2243	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

フランス語Ia・bで習得した初級文法を復習しながら様々な場面で使われる会話能力を養う。

授 業 の 到 達 目 標

フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。

授　業　の　計　画

第1回：第0課　発音のルール・あいさつをする／名前を聞く、言う
第2回：第1課　きみは日本人？　国籍や職業をたずね、それに答える
第3回：第1課　きみは日本人？　出身や学部をたずね、それに答える
第4回：第2課　きみはバイトをしているの？　さまざまな－ｅｒ動詞を肯定、否定で使う
第5回：第2課　きみはバイトをしているの？　否定疑問形でたずね、それに答える
第6回：第3課　スポーツは好き？「～すき？」をたずね、それにニュアンスをつけ答える
第7回：第3課　スポーツは好き？　形容詞を使ってコメントする
第8回：第4課　どこでお昼食べるの？「どこで」「だれを」をたずねる
第9回：第4課　どこでお昼食べるの？　質問の答えを展開させる
第10回：フランス映画鑑賞
第11回：第5課　兄弟姉妹はいる？「～をもっている／持っていない」を表現する
第12回：第5課　兄弟姉妹はいる？　年齢や学年をたずね、それに答える
第13回：第6課　あなたのお姉さんはどんな感じですか？　家族の名前や身分、職業をたずね、それに答える
第14回：第6課　あなたのお姉さんはどんな感じですか？　人について好き、きらいを言う
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回5問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので必ず勉強してくること。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%　平常点50%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

レナ・ジュンタ　清岡智比古「ぜんぶ話して！」白水社　2015年

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅱb (French Ⅱb)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2244	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

前期に引き続き、フランス語Ia・bで習得した初級文法の復習をしながら、様々な場面で使われる会話能力を養う。

授 業 の 到 達 目 標

フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。

授　業　の　計　画

第1回：第7課　ふだん、夜は何している？　さまざまな活動について話す
第2回：第7課　ふだん、夜は何している？　週末の過ごし方について話す
第3回：第8課　ふだん朝は何食べる　食事について話す
第4回：第8課　ふだん朝は何食べる　ｃａとｅｎを使いわける
第5回：第9課　週末は、どこに行く？　よく行く場所について話す
第6回：第9課　週末は、どこに行く？　移動手段について話す
第7回：フランス映画鑑賞①
第8回：フランス映画鑑賞②
第9回：第10課　お母さんによく電話する？　習慣についてたずねる
第10回：第10課　お母さんによく電話する？　代名動詞を使って習慣について話す
第11回：第11課　家を何時に出る？　生活時間についてたずねる
第12回：第11課　家を何時に出る？　計画についてたずねる
第13回：第12課　パリではどんな天気？　行きたい場所についてたずねる
第14回：第12課　パリではどんな天気？　アドバイスを求める
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回5問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので勉強してくること。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%　平常点50%（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

レナ・ジュンタ　清岡智比古 「ぜんぶ話して！」 白水社　2015年

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱa (German Ⅱa)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2245	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初はドイツ語Ⅰでは習得していない文法知識からはじめ、その後簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。

授 業 の 到 達 目 標

現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し、それらを含め1年時で学んだドイツ語をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションと1年次のドイツ語の復習
第2回：過去形(復習)と現在完了形1
第3回：現在完了形2
第4回：分離動詞と形容詞
第5回：再帰代名詞と再帰動詞
第6回：ブレーメンの音楽隊1－1
第7回：ブレーメンの音楽隊1－2
第8回：ブレーメンの音楽隊2－1
第9回：ブレーメンの音楽隊2－2
第10回：ブレーメンの音楽隊3－1
第11回：ブレーメンの音楽隊3－2
第12回：ブレーメンの音楽隊3－3
第13回：ブレーメンの音楽隊4
第14回：ブレーメンの音楽隊5
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

プリントによる練習問題やテキストの予習(単語調べ、訳の作成)を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

平常点50%、定期試験50%
(平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する)

成　績　評　価　基　準

・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。
・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。
・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Stefan Wundt　本橋右京　『グリム童話で学ぶドイツ語 partII』　郁文堂 2007年

その他（受講上の注意）
独和辞典および１年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱb (German Ⅱb)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2246	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

ドイツ語Ⅰaにつづいて、簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。

授 業 の 到 達 目 標

1年時およびドイツ語Iaで学んだ知識をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。

授　業　の　計　画

第1回：ドイツ語 Ⅱaの復習
第2回：代名詞、現在完了、分離動詞の復習
第3回：形容詞の格変化
第4回：盗賊の花嫁1－1
第5回：盗賊の花嫁1－2
第6回：盗賊の花嫁2－1
第7回：盗賊の花嫁2－2
第8回：盗賊の花嫁3－1
第9回：盗賊の花嫁3－2
第10回：盗賊の花嫁4－1
第11回：盗賊の花嫁4－2
第12回：盗賊の花嫁5－1
第13回：盗賊の花嫁5－2
第14回：盗賊の花嫁6
第15回：これまでのまとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

プリントによる練習問題やテキストの予習（単語調べ、訳の作成）を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

平常点50%、定期試験50%
（平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。
・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。
・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Stefan Wundt　本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 part II』　郁文堂 2007年

その他（受講上の注意）
独和辞典および１年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱa (Chinese Ⅱa)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2247	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。簡単な日常会話を聴くこと、話すことと、簡単な作文を書けることを重点において学習し、中国語の検定試験4級のレベルをめざす。

授 業 の 到 達 目 標

1、四声を意識して正しく発音することができる。
2、常用語500語程度を使って、単文及び簡単な複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3、100字程度の作文が書ける。
4、簡単な日常会話ができる。
5、簡単な依頼、買物、旅行の場面でのコミュニケーション能力を有する。

授　業　の　計　画

第1回：中国語Ⅰaの重要事項の確認、復習。
第2回：時量補語。
第3回：時刻の言い方。
第4回：動態助詞“?”。
第5回：選択疑問文“是（A），?是B”。
第6回：年月日の言い方。
第7回：結果補語。
第8回：助動詞“会”（1）。
第9回：介詞“?～”。
第10回：助動詞“能”。
第11回：疑問詞“几”と“多少”。
第12回：副詞“在”。
第13回：曜日の言い方。
第14回：“的”構文。
第15回：学習成果の確認。第1回～第14回の復習とまとめ。
第16回：定期試験。

授 業 外 の 学 習 方 法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配り、見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）　課題練習の成績（30％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

1、四声を正しく発音することができるか。
2、単文及び簡単な複文の中国語訳と日本語訳ができるか。
3、100字程度の作文が書けるか。
4、簡単な依頼、買物、旅行の場面での事項確認や自分の意思を伝えられるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

佐藤　晴彦　監修　徐　送迎　著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語（初級）』　朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱb (Chinese Ⅱb)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2248	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。少々長い会話聴く、話す、書くことを重点において学習し、中国語の検定試験3級のレベルをめざす。

授 業 の 到 達 目 標

1、多音語、軽声を正しく発音することができる。
2、常用語500～1000語を使って、複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3、200字程度の作文が書ける。
4、簡単な依頼、買物、旅行の場面での演習を通して、相手に自分の意思を正確に伝え、「会話力」を高めることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：中国語Ⅱaの復習。
第2回：助動詞“可以”。
第3回：“是～的”構文。
第4回：禁止を表わす副詞“别“。
第5回：介詞“从～”。
第6回：様態補語。
第7回：単純方向補語。
第8回：助動詞“要”。
第9回：挿入語“听?～”。
第10回：介詞“?～”。
第11回：動量補語。
第12回：動態助詞“着”。
第13回：二重目的語。
第14回：使役表現。
第15回：第1回～第14回の復習。中国語Ⅱabの学習成果の確認とまとめ。
第16回：定期試験。

授 業 外 の 学 習 方 法

各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配り、見直しながら復習し次の講義に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　課題練習の成績(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

1、多音語、軽声を正しく発音することができるか。
2、少々長い中国語訳と日本語訳ができるか。
3、200字程度の作文が書けるか。
4、相手の話を聞き取れる、自分の意思を正確的に伝えられるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

佐藤　晴彦　監修、 徐　送迎　著　『たのしくできる　Ｗｅ　Ｃａｎ！　中国語(初級)』 朝日出版社

その他（受講上の注意）
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2249	4単位	2年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

カリフォルニア州立大学フラトン校American Language Program（ALP）で語学研修に参加する。現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回（前期）および事後授業5回（後期）も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬～10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2153	2 単位	1年前期･2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授 業 の 到 達 目 標

オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Word2016）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（文書作成）に合格できる能力レベルを目標としている。

文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。
既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。

授　業　の　計　画

第１回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題
第２回：文書の作成、書式設定 p.1～47
第３回：文章のオプション、印刷、保存 p.48～86
第４回：文字列、段落 p.87～121
第５回：文字列段落の並び替え、表作成 p.122～157
第６回：表の設定、リスト作成・変更 p.158～198
第７回：参考資料の作成と管理 p.199～236
第８回：グラフィック要素の挿入と書式設定 p.237～285
第９回：総合練習問題１
第10回：総合練習問題２
第11回：総合練習問題３
第12回：総合練習問題４
第13回：総合練習問題５
第14回：総合練習問題６
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、文書作成ソフトウェアWordを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できるか。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
『MOS攻略問題集 Word 2016』　日経BP　2017年
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
情報リテラシーa　の受講を終えていることを前提とします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用b (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川　祐一、佐々木　裕子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2154	2単位	1年後期･2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

オフィスソフトの１つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。

授　業　の　到　達　目　標

オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験（Excel2016）や、日本商工会議所の日商PC検定試験２級（データ活用）に合格できる能力レベルを目標としている。

表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。
既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。

授　業　の　計　画

第１回：実力診断用練習問題（日商PC検定試験問題）
第２回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～39
第３回：ワークシートやブックのオプション、印刷設定 p.40～81
第４回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.82～125
第５回：書式設定、データの整理 p.126～174
第６回：テーブル、数式 p.175～227
第７回：関数を使用した演算、グラフ p.228～258
第８回：グラフやオブジェクトの書式設定 p.259～274、模擬テストについて
第９回：総合練習問題１
第10回：総合練習問題２
第11回：総合練習問題３
第12回：総合練習問題４
第13回：総合練習問題５
第14回：総合練習問題６
第15回：復習問題（特に、不得意なスキルについて）
第16回：定期試験

授　業　外　の　学　習　方　法

予習　授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。
　　その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。
復習　特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。
　　テキスト付録の練習問題に取り組むこと。（これによって、着実にスキルは向上します）

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　提出課題（20%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
限定した時間内（50分）で、表計算ソフトウェアExcelを使って下記のような処理などができるか。 関連する検定試験（日商PC検定　MOS試験）の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できるか。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができるか。 複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができるか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
『MOS攻略問題集 Excel 2016』　日経BP　2017年
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
情報リテラシーb　の受講を終えていることを前提とします。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2251	2 単位	2年前期･3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験（iパス）」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。

参考　IT パスポート試験シラバス
（https：//www.jitec.ipa.go.jp/ 1 _13download/syllabus_ip_ver 3 _0.pdf）

授　業　の　計　画

テキストに従って進めるが、毎授業の20分間程度は演習問題を採りいれる。
第 1 回：第 1 章 企業と法務（1）
第 2 回：第 1 章 企業と法務（2）
第 3 回：第 1 章 企業と法務（3）
第 4 回：第 2 章 経営戦略
第 5 回：第 3 章 システム戦略
第 6 回：第 4 章 開発技術
第 7 回：第 5 章 プロジェクトマネジメント
第 8 回：第 6 章 サービスマネジメント
第 9 回：第 7 章 基礎理論（1）
第10回：第 7 章 基礎理論（2）
第11回：第 7 章 基礎理論（3）
第12回：第 8 章 コンピュータシステム（1）
第13回：第 8 章 コンピュータシステム（2）
第14回：第 9 章 技術要素（1）
第15回：第 9 章 技術要素（2）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。
テキスト付録の過去問題を各自実行すること。
（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）　演習課題（10%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキスト 『ITパスポート試験対策テキスト＆過去問題集　平成30-31年度版』 FOM出版　2018年 参考図書 『ITパスポート試験直前対策　1週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『平成30年度　栢木先生のITパスポート教室』 技術評論社　2017年 『平成30年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2017年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習b (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2252	2単位	2年後期･3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験（iパス）」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。

参考　IT パスポート試験シラバス
（http：//www.jitec.ipa.go.jp/ 1 _13download/syllabus_ip_ver 3 _0.pdf）

授　業　の　計　画

授業は、ITパスポート試験の過去問題演習や問題研究、さらに問題作成に取り組むことを主体とし、前期授業の補足も併せて行う。
第１回：第１章 企業と法務
第２回：第２章 経営戦略
第３回：第３章 システム戦略
第４回：第４章 開発技術
第５回：第５章 プロジェクトマネジメント
第６回：第６章 サービスマネジメント
第７回：第７章 基礎理論
第８回：第８章 コンピュータシステム
第９回：第９章 技術要素
第10回：過去問題研究（１）
第11回：過去問題研究（２）
第12回：知識問題作成演習（１）
第13回：知識問題作成演習（２）
第14回：知識問題作成演習（３）
第15回：作成した知識問題の検証
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。
　　指示したITパスポート試験問題（過去問題）を解いて授業に臨むこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
　　採り上げた演習例題については完全理解に努めること。
　　テキスト付録の過去問題を各自実行すること。
　　（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　CBT模擬テスト等（20%）　レポート課題（30%）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験対策テキスト＆過去問題集　平成30-31年度版』 FOM出版　2018年 参考図書 『ITパスポート試験直前対策　1週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『栢木先生のITパスポート試験教室』 技術評論社 2017年 『平成30年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2017年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ (Career Design Ⅱ)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2261	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会の中での役割を主体的に果たしたながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。

授 業 の 到 達 目 標

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ライフストーリー①
第3回：ライフストーリー②
第4回：ライフストーリー③
第5回：仕事理解①
第6回：仕事理解②
第7回：仕事理解③
第8回：「はたらく」とは
第9回：スキルアップ
第10回：インターンシップ
第11回：就職活動①
第12回：就職活動②
第13回：自己分析
第14回：労働法
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物（70%）、平常点（30%）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

その他（受講上の注意）
リアクション・ペーパー（授業中作成）の内容については、最終授業においてフィードバックします。なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	水田　敏郎、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2164	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

4～7月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
8～9月　　現地にて研修
10～11月　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み(50%)　レポート(20%)　プレゼンテーション(30%)

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2165	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

原則としてカリフォルニア州立大学フラトン校での集中講義（2週間）の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（2週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第3回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第4回：事前授業（現地活動の企画等）①
第5回：事前授業（現地活動の企画等）②
第6回：事前授業（現地活動の準備等）①
第7回：事前授業（現地活動の準備等）②
第8回：事前授業（現地活動の準備等）③
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜集中講義（9月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。
学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書

特になし

その他（受講上の注意）
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校集中講義以外の履修について】 履修要件：　英語教育センターで（1）～（4）を行うこと （1）留学相談（留学先・方法など決定） （2）審査　　（本科目としての適切性） （3）事前指導（提出書類準備・渡航準備） （4）事後指導（必要な課題提出・単位認定審査） 研修期間：　夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：　夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏季休暇中の実施のみ
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅰ (Basic Experiments in Psychology Ⅰ)			担当教員	山本　雅代、水上喜美子、森本　文人、 青井　利哉、島田　浩二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2205	2単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学が科学であることを理解し、心理的問題をどのように研究していくのか、心理学研究の実験的実証的技法における基本的方法について学ぶ。
受講者はグループごとに、ミューラリヤー錯視、鏡映描写、認知的葛藤、反応時間、触2点閾の測定、単純接触効果(対人魅力)などの様々な実験にあたる。(数名のグループに分かれ、順次全6課題の実験を体験する)。また、実験者と被験者の両方の役割を体験する。
上記テーマについて先行研究などの情報収集を行い、各自で研究目的に従いデータをとり、収集したデータや情報の整理、分析、考察する方法を学ぶ。また、各実験ごとにレポートを提出する。これにより卒業論文を書く上で重要な科学論文の形式を習得することを目指す。

授　業　の　到　達　目　標

1)心理学における実験方法や実証方法を習得する。
2)実験結果についての整理、分析や考察ができるようになる。
3)科学論文の執筆ができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：課題1(ミューラリヤー；山本・水上・森本・青井・島田)①
第3回：課題1(ミューラリヤー；山本・水上・森本・青井・島田)②
第4回：課題1(ミューラリヤー；山本・水上・森本・青井・島田)③
第5回：課題1(ミューラリヤー；山本・水上・森本・青井・島田)④
第6回：課題2(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第7回：課題2(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第8回：課題3(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第9回：課題3(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第10回：課題4(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第11回：課題4(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第12回：課題5(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第13回：課題5(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②
第14回：課題6(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))①
第15回：課題6(全5課題：鏡映描写(島田)・認知的葛藤(青井)・反応時間(森本)・触2点閾の測定(水上)・対人魅力(山本))②

授　業　外　の　学　習　方　法

それぞれの実験について予習しておくことが望ましい。
実験レポートが訂正されたり、返却された場合には必ず見直し、復習してください。

成　績　評　価　方　法
実験終了後に提出する実験レポート、実験、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【実験レポート 60％　実験、授業への参加態度 40％】
成　績　評　価　基　準
心理学における実験方法や実証方法を習得できているか。 実験結果についての整理、分析や考察ができているか。 科学論文の執筆ができているか。
テキスト、参考図書
（1）『心理学論文の書き方』 松井豊　河出書房新社　2010年 （2）『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』 心理学実験市道研究会　培風館　1985年 その他、授業時プリント配布
その他（受講上の注意）
第1回目の授業（オリエンテーション）には必ず出席すること。 教員やTAの紹介、受講に際しての注意事項を行います。 各実験ごとに必ずレポート提出があります。各教員の指示に従って提出してください。またレポートの提出期限は必ず守ること。再提出等の指示がありますので掲示には注意して下さい。連絡を直接メールで行うことがありますので、自分の携帯アドレスを変更した場合には必ず大学に登録したアドレスも変更下さい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅱ (Basic Experiments in Psychology Ⅱ)			担当教員	大森　慈子、水田　敏郎、森本　文人、 氏田　麻美、伏田　幸平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBO-2206	2単位	2年後期	実験	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学における実験の意義を学習すると同時に、少人数グループで基本的な心理学実験をすることによって、実験に含まれる様々な問題にふれる。また、レポートの作成を繰り返すことによって、実験結果を科学的事実として報告する方法を習得する。

授 業 の 到 達 目 標

■心理学実験の基礎的技術を身につける
■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解する
■心理学における実験論文の書き方を習得する

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：課題1（心的回転、または、対人距離）①
第3回：課題1（心的回転、または、対人距離）②
第4回：課題1（心的回転、または、対人距離）③
第5回：課題1（心的回転、または、対人距離）④
第6回：課題2（対人距離、または、心的回転）①
第7回：課題2（対人距離、または、心的回転）②
第8回：課題2（対人距離、または、心的回転）③
第9回：課題2（対人距離、または、心的回転）④
第10回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）①
第11回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）②
第12回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）③
第13回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）④
第14回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）⑤
第15回：課題3（虚偽検出・ラットの学習・ストレス反応の中から1つ選択）⑥
＜第1回は全教員、第2～9回は大森・水田・森本・伏田、第10～15回は大森・氏田・伏田が担当＞
＜課題1～2は学生をグループに分けて2つの課題を各4週行う＞

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各実験課題に関連する部分と関連図書を読み、あらかじめ疑問点などを考えておく
復習として、授業時の板書やプリントおよび添削して返却されたレポートを見直し、授業とレポート作成に臨む

成　績　評　価　方　法

4課題に対するレポート（60%）　平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■心理学実験の基礎的技術が身についているか
■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解しているか
■心理学における実験論文の書き方を習得しているか

テキスト、参考図書
＜参考図書＞ 日本心理学会認定心理士資格認定委員会「実験・実習で学ぶ心理学の基礎」(金子書房) 心理学実験指導研究会編「実験とテスト－実習編－」(培風館)
その他(受講上の注意)
■心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰの単位を修得していること ■原則として、遅刻、欠席およびレポート提出の遅延は認めない
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅰ (Psychological Assessment Methods Ⅰ)			担当教員	森　俊之、吉水　ちひろ、青井　利哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2209	2単位	2年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

タイプの異なる4種の検査を体験する。全体で一つの検査を体験した後、3グループに分かれ、3人の教員のもとで3タイプの心理検査を交互に実習する。4種の検査それぞれに対して、講義、実習、実習結果をまとめたレポート提出が課せられる。

授業の到達目標

・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できる。
・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できる。
・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　【担当：森、吉水、青井】
第2回：知能検査(京大NX15)①【担当：森、吉水、青井】
第3回：知能検査(京大NX15)②【担当：森、吉水、青井】
第4回：質問紙検査(TEG等)①【担当：青井】；投映法検査①【担当：吉水】；作業検査①【担当：森】
第5回：質問紙検査(TEG等)②【担当：青井】；投映法検査②【担当：吉水】；作業検査②【担当：森】
第6回：質問紙検査(TEG等)③【担当：青井】；投映法検査③【担当：吉水】；作業検査③【担当：森】
第7回：質問紙検査(TEG等)④【担当：青井】；投映法検査④【担当：吉水】；作業検査④【担当：森】
第8回：投映法検査(バウムテスト等)①【担当：吉水】；作業検査①【担当：森】；質問紙検査①【担当：青井】
第9回：投映法検査(バウムテスト等)②【担当：吉水】；作業検査②【担当：森】；質問紙検査②【担当：青井】
第10回：投映法検査(バウムテスト等)③【担当：吉水】；作業検査③【担当：森】；質問紙検査③【担当：青井】
第11回：投映法検査(バウムテスト等)④【担当：吉水】；作業検査④【担当：森】；質問紙検査④【担当：青井】
第12回：作業検査(内田クレペリン検査等)①【担当:森】；質問紙検査①【担当:青井】；投映法検査①【担当:吉水】
第13回：作業検査(内田クレペリン検査等)②【担当:森】；質問紙検査②【担当:青井】；投映法検査②【担当:吉水】
第14回：作業検査(内田クレペリン検査等)③【担当:森】；質問紙検査③【担当:青井】；投映法検査③【担当:吉水】
第15回：作業検査(内田クレペリン検査等)④【担当:森】；質問紙検査④【担当:青井】；投映法検査④【担当:青井】
※第4回～第15回については、4回ずつ3タイプの検査を実習するが、グループにより、体験する検査の順番が異なる。
※知能を測定する心理検査は3名の教員が共同して担当する。検査質問紙による心理検査は青井が、投映法による心理検査は吉水が、単純作業による心理検査は森が、3グループを通してそれぞれ担当する。
第16回：期末試験

授業外の学習方法

検査の実施、分析の作業は、授業時間だけでは足りないこともあり、その都度、次回までの作業の指示があるので、作業を遂行して次回の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

検査毎に作成するレポート(20%×4)と学期末に行う筆記試験(20%)により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準

・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。
・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。
・自分自身の性格について多角的に分析し、他者に説明できるか。

テキスト、参考図書
＜テキスト＞願興寺礼子・吉住隆弘編「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版、2011年発行) そのほか、各検査毎に必要な資料を配付したり、参考図書を指示する。
その他(受講上の注意)
・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理調査法 (Psychological Questionnaire Methods)			担当教員	竹村　明子、杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBC-2211	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学の研究手法である質問紙調査法について理解し、実際の質問紙調査を通じて、調査票の作成から統計解析ソフトでの分析方法、レポートの書き方までを修得する。
講義前半では、既成の調査票を利用した調査を行い，基礎的な統計解析の仕方や，レポートの「方法と結果」の書き方を学ぶ。
講義後半では、質問項目および調査票の作成方法を学び，自分たちで作成した質問紙を用いた調査を実施，解析を行う。同時にレポートの「目的と考察」の書き方を学ぶ。

授業の到達目標

①質問紙調査法の基礎的知識を習得する
②コンピュータを利用して基本的な統計解析を行うことができる。
③解析結果を基に，レポート（目的・方法・結果・考察）を作成できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：質問紙調査法の基礎知識
第3回：統計解析の基礎1
第4回：統計解析の基礎2
第5回：統計解析の基礎3
第6回：レポートの書き方1（方法）
第7回：レポートの書き方2（結果）
第8回：心理調査票作成の基礎知識
第9回：心理調査票の作成1
第10回：心理調査票の作成2
第11回：データ解析1
第12回：データ解析2
第13回：レポートの書き方3（目的）
第14回：レポートの書き方4（考察）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

統計解析について，各自何度も練習をし，自分で解析できるようになってください

成　績　評　価　方　法

授業参加の態度（30%）や，2回のレポートの内容（70%）により，総合的に評価をします

成　績　評　価　基　準

①質問紙調査法の基礎的知識を充分習得している。
②コンピュータを利用して基本的な統計解析を行うことができ，その解析方法が適切である。
③解析結果を基にレポート（目的・方法・結果・考察）を作成することができ，その内容が適切である。

テキスト、参考図書

参考文献：小塩真司・西口利文（編）「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
参考文献：鎌原雅彦・他（編）「心理学マニュアル・質問紙法）北大路書房

その他（受講上の注意）
授業時間以外にも，統計解析やレポート作成等の学習が必要になります。 各自，自律的・積極的に学習することが求められます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理面接法 (Clinical Interviewing Methods)			担当教員	水上 喜美子、稲木 康一郎、渡辺　克徳
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2212	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学分野で用いられる面接法(調査的面接法・臨床的面接法)について学ぶ。具体的には、心理面接法に関する基礎知識についての講義を行い、演習によって学生が体験的に学習する。

授 業 の 到 達 目 標

①心理面接法(調査的面接法・臨床的面接法)の基本的な理論や技法を理解する。②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につける。③積極的な演習への参加を通して、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につける。

授　業　の　計　画

※第3週から第14週はグループに分かれてA～Cの演習を行う(3種類×4週)
A：調査的面接法　〔水上喜美子〕
B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)　〔稲木康一郎〕
C：臨床的面接法2(面接の実際例)　〔渡辺克徳〕

第1回：オリエンテーション　〔水上喜美子・稲木康一郎・渡辺克徳〕
第2回：心理面接法についての概説　〔水上喜美子・稲木康一郎・渡辺克徳〕

第3回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)①
第4回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)②
第5回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)③
第6回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)④
第7回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)①
第8回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)②
第9回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)③
第10回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)④
第11回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)①
第12回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)②
第13回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)③
第14回：A：調査的面接法、B：臨床的面接法1(ロールプレイ基礎演習)、C：臨床的面接法2(面接の実際例)④

第15回：演習全体の振り返りとまとめ　〔水上喜美子・稲木康一郎・渡辺克徳〕

授 業 外 の 学 習 方 法

授業で提示される課題について、次の授業までに必ず完成させておくこと。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加(出席・態度・発言)50%、課題内容50%で総合的に評価する。
また演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。

成　績　評　価　基　準

①心理面接法(調査面接法・臨床的面接法)の基礎的かつ実践的な知識が身についているか。②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につけているか。③演習に積極的に参加し、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につけているか。

テキスト、参考図書
テキストは、オリエンテーション時に示す。
その他（受講上の注意）
3グループに分かれ、順次ローテーションにて3つの演習を行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅰ (Clinical Psychology Ⅰ)			担当教員	片畑　真由美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識やその視点について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

臨床心理学の基礎的理論について理解し、自分でその内容について説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：臨床心理学の歴史と成り立ち
第3回：臨床心理学の理論①(精神分析)
第4回：臨床心理学の理論②(自我の防衛機制)
第5回：臨床心理学の理論③(分析心理学)
第6回：臨床心理学の理論④(来談者中心療法)
第7回：臨床心理学の理論⑤(行動論的アプローチ)
第8回：心理アセスメント①(観察法・面接法)
第9回：心理アセスメント②(検査法①)
第10回：心理アセスメント③(検査法②)
第11回：心理アセスメント④(事例検討)
第12回：人の発達と心の問題①(乳児期～幼児期)
第13回：人の発達と心の問題②(児童期～思春期)
第14回：人の発達と心の問題③(青年期～成人期)
第15回：人の発達と心の問題④(中年期～老年期)
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：オリエンテーションで示す書籍を参考に、各回のテーマについて学習する。
復習：授業終了後、当該部分の配布資料を見直して重要な用語や概念について学習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)、復習テスト(20%)、授業参加態度(20%)

成　績　評　価　基　準

臨床心理学の基礎的理論に関して、重要な用語や概念を理解し説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

レジュメや資料を配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅱ (Clinical Psychology Ⅱ)			担当教員	片畑　真由美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2222	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識やその視点について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

臨床心理学の基礎的理論について理解し、自分でその内容について説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：悩みと心の病①(精神障害の分類)
第3回：悩みと心の病②(身体に現れる心の問題)
第4回：悩みと心の病③(子どもの障害と家族の病理)
第5回：悩みと心の病④(事例検討)
第6回：臨床心理面接のプロセス
第7回：臨床心理面接が目指すもの
第8回：さまざまな心理療法①(力動論的心理療法)
第9回：さまざまな心理療法②(来談者中心療法)
第10回：さまざまな心理療法③(認知行動療法)
第11回：さまざまな心理療法④(表現を用いた心理療法)
第12回：さまざまな心理療法⑤(集団を用いた心理療法)
第13回：心理臨床の現場①(教育・医療)
第14回：心理臨床の現場②(福祉・司法)
第15回：臨床心理学の研究とは
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：オリエンテーションで示す書籍を参考に、各回のテーマについて学習する。
復習：授業終了後、当該部分の配布資料を見直して重要な用語や概念について学習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)、復習テスト(20%)、授業参加態度(20%)

成　績　評　価　基　準

臨床心理学の基礎的理論に関して、重要な用語や概念を理解し説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

レジュメや資料を配布する。

その他(受講上の注意)

-

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅰ (Developmental Psychology Ⅰ)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2227	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育，福祉，医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し，実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1．本講義では，人生の前半期（胎児期から児童期）の身体的変化および心理的変化について学ぶ。
2．生涯発達に関する主要理論について学ぶ。
3．発達心理学を科学的に研究する方法について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。
・誕生から児童期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。
・多様な生き方を理解し，互いに認め合う態度を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：生涯発達心理学とは
第2回：発達の主要理論
第3回：発達の規定要因（遺伝要因，環境要因，相互作用）
第4回：発達心理学の研究方法（発達メカニズムを解明する方法と発達過程を記述する方法）
第5回：乳児期の発達①（身体と運動機能）
第6回：乳児期の発達②（知覚能力）
第7回：乳児期の発達③（愛着・親子の心の絆）
第8回：主な発達理論のまとめと中間評価
第9回：幼児期の発達①（言語とコミュニケーション）
第10回：幼児期の発達②（遊び）
第11回：児童期の発達①（認知）
第12回：児童期の発達②（記憶と思考）
第13回：児童期の発達③（自己・自我）
第14回：児童期の発達④（社会性）
第15回：発達に関連する問題（発達障がい）
第16回：まとめと期末評価

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として，次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み，あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として，授業と配布するプリントに基づき，各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

成績評価には，①毎回提出する小レポート（30%），②中間評価（30%）　期末評価（40%）で総合的に評価をする。

成　績　評　価　基　準

・人間の生涯を通して展開される発達について，生涯発達的視点から理解しているか。
・誕生から児童期における各発達の特徴と心理的問題を説明することができるか。
・これまでの自分自身や他者の生き方をみつめ直し，生涯発達心理学の視点から考察できるか。

テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は，必要に応じて講義の中で紹介する。
その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので，必ず講義に出席し小レポートを提出すること。講義では，自分の意見をまとめ表現できるよう，心がけてほしい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅱ (Developmental Psychology Ⅱ)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2228	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育，福祉，医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し，実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1. 本講義では，人生の後半期（青年期から高齢期）の身体的変化および心理的変化について学ぶ。
2. 身体的な加齢と，心理的変化との関係について学ぶ。
3. 社会的変化が個人の発達にどのように影響するのかについて学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

①生涯を通して展開される発達について理解し解説できる
②青年期から成人後期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。
③多様な生き方について知識を習得し，心理的支援の方法について考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：青年期から成人後期にかけての発達の特徴
第2回：青年期の発達①　青年期の心理の特徴
第3回：青年期の発達②　自我アイデンティティの確立
第4回：青年期の発達③　職業選択
第5回：成人初期の発達①　セクシュアリティ
第6回：成人初期の発達②　恋愛と結婚
第7回：成人初期の発達③　子育て
第8回：青年期から成人初期のまとめと中間評価
第9回：成人中期の発達①　　中年期の危機とライフサイクル
第10回：成人中期の発達②　身体的機能の衰退と社会活動
第11回：成人中期の発達③　認知機能と記憶の加齢変化
第12回：成人中期の発達④　知的能力の加齢変化と英知
第13回：成人後期の発達①　超高齢社会
第14回：成人後期の発達②　喪失と死
第15回：成人後期の発達③　サクセスフルエイジング
第16回：まとめと期末評価

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として，次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み，あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として，授業と配布するプリントに基づき，各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

成績評価には，①毎回提出する小レポート（30%），②中間評価（30%）　期末評価（40%）で総合的に評価をする。

成　績　評　価　基　準

①生涯を通して展開される発達について，どの程度正しく理解し適切に解説できるのか
②青年期から成人後期までの各発達段階の特徴と心理的問題について，どの程度適切に説明するできるのか
③多様な生き方について，どの程度正しく知識を習得し，心理的支援の方法について考えることができるのか

テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は，必要に応じて講義の中で紹介する。
その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので，必ず講義に出席すること。講義では，自分の意見をまとめ表現できるよう，心がけてほしい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知心理学 (Cognitive Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2230	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

知覚・記憶・言語・思考など、人間の認知に関するトピックについて学ぶ。認知心理学とは、環境との対応と環境に対する働きかけ、あるいは他者とのコミュニケーションといった、我々が生活していく上でその根幹となる機能について考えていく領域である。現象としてではなく、認知に関する理論や研究法について考察し、日常生活や社会における問題解決能力を身につけることを目指す。

授業の到達目標

・認知に関する理論について理解できる。
・認知に関する研究法について考察することができる。
・他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができる。
・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：認知心理学とは
第2回：知覚［1］
第3回：知覚［2］
第4回：注意
第5回：記憶［1］記憶の基本過程
第6回：記憶［2］短期記憶とワーキングメモリー
第7回：記憶［3］長期記憶(意味記憶、エピソード記憶、手続記憶)
第8回：知識と記憶
第9回：スキーマとメタ記憶
第10回：言語の学習［1］言語習得のメカニズム
第11回：言語の学習［2］言語と思考
第12回：言語の理解
第13回：概念と推理
第14回：思考と問題解決
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)

成　績　評　価　基　準

・認知に関する理論について説明することができるか。
・認知に関する研究法について考察することができるか。
・他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができるか。
・認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。
その他（受講上の注意）
授業には積極的に参加し、指示されたことや自分の考えをブリーフレポートに書きこんでください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生理心理学 (Psychophysiology)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBC-2231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

人を含めた動物全般の心的活動には脳が大きくかかわっています。この授業では、様々な心理機能の基盤となる脳を中心とした生理学的メカニズムを理解するために、前半では脳や身体の基本構造と働きについて、後半では心的活動と関連の深い生理的活動について、そのアプローチ法とともに解説します。

授業の到達目標

脳の基本構造と働きについて理解する。生理心理学的アプローチの基本について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション（授業の進め方と概要）
第2回：脳の構造①
第3回：脳の構造②
第4回：脳の信号①：神経細胞のはたらき
第5回：脳の信号②：神経系のはたらき
第6回：知覚のメカニズム
第7回：記憶の脳内メカニズム
第8回：学習の脳内メカニズム①
第9回：学習の脳内メカニズム②
第10回：情動がおこる仕組み①
第11回：情動がおこる仕組み②
第12回：睡眠・覚醒の神経メカニズム
第13回：生理心理学の応用①
第14回：生理心理学の応用②
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

脳の基本構造と働きについて説明することができるか。生理心理学的アプローチの基本について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。資料の取得方法については、その都度指示します。
参考図書：「新生理心理学」全3巻　宮田洋監修　北大路書房

その他（受講上の注意）
身体と心の関係に対する基礎的な理解ができます。実験的な心理学研究に関心のある方には受講をすすめます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅰ (Industrial and Organizational Psychology Ⅰ)			担当教員	重森　雅嘉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2233	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会や組織で必要とされる心理的スキルや知識を講義する。またコメントシートにより各自が当該事項について考え、グループディスカッションにより、それらを共有することにより深い理解をめざす。

授 業 の 到 達 目 標

社会や組織で必要とされる心理的なスキルや知識を理解し、簡潔に説明できる。またそれらについて自分の考えや疑問を示せる。積極的に社会や組織活動に取り組める。

授　業　の　計　画

第1回：職場で必要とされる心理スキルを考える
第2回：ノンテクニカルスキル
第3回：社会人基礎力
第4回：企業、経営理念が組織行動に与える影響
第5回：チームワーク
第6回：集団決定の問題（社会的手抜き、集団思考、集団極性化、会議の問題）
第7回：不確実な状況での判断
第8回：グループディスカッション手法
第9回：リーダーシップ
第10回：属人主義
第11回：職業的自尊心
第12回：評価と公正感
第13回：企業安全と組織のレジリエンス
第14回：組織の安全文化の醸成
第15回：ピアレビューチェック

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の授業に関する考察（事後学習シート）を課します（各回2時間分）。レポートの作成、修正を課します（30時間分）。

成　績　評　価　方　法

レポート（30%）　ピアレビュー（10%）　事後学習シート（20%）授業コメント（30%）授業への取り組み（10%）

成　績　評　価　基　準

学習項目を簡潔に説明できるか、学習項目について自分の考えや疑問を示せるか、積極的に授業に取り組めるか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストはありません。毎回資料を配布します。

その他(受講上の注意)

携帯電話は使用禁止です。レポートは手書きは不可です。状況により座席指定の可能性があります。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅱ (Industrial and Organizational PsychologyⅡ)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OOC-2234	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、ストレス、ワークモチベーション、勤労観等について解説する予定である。また、それぞれの課題においてディスカッションを行う。

授 業 の 到 達 目 標

産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。

授　業　の　計　画

1.オリエンテーション
2.モチベーション（1）
3.モチベーション（2）
4.モチベーション（3）
5.リーダーシップ（1）
6.リーダーシップ（2）
7.個人と組織（1）
8.個人と組織（2）
9.職場のコミュニケーション
10.組織とストレス（1）
11.組織とストレス（2）
12.組織とストレス（3）
13.職場のメンタルヘルス（1）
14.職場のメンタルヘルス（2）
15.ワーキングプア

授 業 外 の 学 習 方 法

各回に関連する心理学的事象について講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。その際、関連論文・参考文献等講義内にて指示する。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　課題レポート40%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

適宜授業で配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。

その他(受講上の注意)

基本的に講義形式で行う。各授業において適宜解説を加えながら、より理解を深めるため、関連VTR視聴・ゲーム等を行う。その際、意見を求めたり、グループディスカッションを行う事が有る。それらに積極的に参加することが望ましい。課題の提出にスマートフォンやPCを使用する事があるが、授業に関連のない使用は認められない。関連の無い画面、サイトやアプリの使用を発見した場合、退出を願う場合が有る。トイレは授業前に済ませ、意味のない入退出が無いようにする事。授業に15分以上遅れた場合欠席になることがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅰ (Social Psychology Ⅰ)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2235	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。
社会心理学Ⅰでは、社会の中の個人に注目し、自己意識、自己概念がどのように形成され、また個人が他者をどのように認知、理解し、自己の行動を表出させるのか、といった問題について解説する。
授業ではできるだけ実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。

授業の到達目標

（1）社会心理学における基本的な概念について理解する。
（2）集団の中の個人の行動を理解する。
（3）現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：社会心理学について
第2回：自己意識
第3回：自己概念
第4回：自己呈示
第5回：没個性化
第6回：原因帰属
第7回：対人認知とステレオタイプ
第8回：対人魅力（1）
第9回：対人魅力（2）
第10回：対人魅力（3）
第11回：対人魅力（4）
第12回：社会的動機
第13回：異文化交流ゲーム（1）
第14回：異文化交流ゲーム（2）
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　　課題レポート40%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

社会心理学の基本的概念について説明できるか。
集団の中の個人の行動を理解できているか。
現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜資料を配布する。

その他（受講上の注意）
基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。また、講義中にQRコードを読み取り、回答を送信するシステムを利用し、受講者の実際の行動について即座に回答を求め講義内容とのリンクを試みる。その際、スマートフォン又はPCが必要となる（現在、殆どの学生がスマートフォンで対応）。回答時以外でのスマートフォンの利用は不可。 ゲームには必ず出席すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅱ (Social Psychology Ⅱ)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2236	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。
社会心理学Ⅱでは、社会の中の個人、集団の中の個人に注目して授業を行う。
現実社会で起こる様々な人間行動について過去の実験や研究を紹介しながら解説していく。
主なテーマは、社会的動機、集団や群衆行動、リーダーシップ、援助行動、攻撃行動、同調と服従などである。
また特別講義として、模擬社会ゲームに参加してもらうこととする。模擬社会ゲームは社会でおこる様々な現象や構造を理解するゲームであり、これに参加することにより大学生活ではあまり遭遇しない社会、集団の概念を理解し、心理的葛藤、集団間葛藤等を体験し、問題解決能力を向上させることができる。このような社会生活に近い体験学習を通じ人間の行動に対する理解をより深め、社会や社会の中の一部である自己を探求し、自己成長することを目指す。

授　業　の　到　達　目　標

1）社会心理学における基本的な概念について理解する。
2）集団葛藤やコミュニケーションスキルについて理解する。
3）日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：状況の力とは
第2回：個人と集団
第3回：集団の凝集性
第4回：集団意思決定
第5回：リーダーシップ
第6回：同調と服従（1）
第7回：同調と服従（2）
第8回：囚人と看守実験
第9回：流言
第10回：パニック行動
第11回：援助行動
第12回：攻撃行動（1）
第13回：攻撃行動（2）
第14回：ゲーム理論
第15回：模擬社会ゲームについて

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　　課題レポート40%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準
社会心理学における基本的概念について説明できるか。 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて説明できるか。 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解できているか。
テキスト、参考図書
授業中に資料配布。
その他（受講上の注意）
基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。また、講義中にQRコードを読み取り、回答を送信するシステムを利用し、受講者の実際の行動について即座に回答を求め講義内容とのリンクを試みる。その際、スマートフォン又はPCが必要となる（現在、殆どの学生がスマートフォンで対応）。回答時以外でのスマートフォンの利用は不可。 また特別講義として模擬社会ゲームを実施する（ゲームには出席することが望ましい）。 ゲームは数時間を要する。実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別講義 (Topics in Psychology)			担当教員	片畑真由美、西村　則昭、大森　慈子、 水田　敏郎、山本　雅代、三脇　康生、 水上喜美子、森　　俊之、森本　文人、 吉水ちひろ、竹村　明子、渡辺　克徳、 稲木康一郎、杉島　一郎、氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2239	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学科の全教員が1回の持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業である。各専任教員が専門とする心理学の諸分野を解説する。

授 業 の 到 達 目 標

心理学の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、心理学に対する関心を高める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション(学科ガイダンス時に実施する)片畑真由美
第2回：各教員が専門とする内容① 竹村　明子
第3回：各教員が専門とする内容② 大森　慈子
第4回：各教員が専門とする内容③ 西村　則昭
第5回：各教員が専門とする内容④ 杉島　一郎
第6回：各教員が専門とする内容⑤ 水上喜美子
第7回：各教員が専門とする内容⑥ 水田　敏郎
第8回：各教員が専門とする内容⑦ 森本　文人
第9回：各教員が専門とする内容⑧ 氏田　麻美
第10回：各教員が専門とする内容⑨ 山本　雅代
第11回：各教員が専門とする内容⑩ 森　　俊之
第12回：各教員が専門とする内容⑪ 渡辺　克徳
第13回：各教員が専門とする内容⑫ 三脇　康生
第14回：各教員が専門とする内容⑬ 稲木康一郎
第15回：各教員が専門とする内容⑭ 吉水ちひろ
＊担当教員全員が一回ずつ担当する授業になる。担当者の順はオリエンテーション時に伝える。

授 業 外 の 学 習 方 法

毎回担当教員が変わるため、疑問や予め知っておきたい事項があるときには、時間外(オフィスアワーなど)を活用して、担当教員に質問などをするようにして、予習・復習をする。

成　績　評　価　方　法

小レポート(50%)　平常点(50%)
(毎回、授業後に小レポートを課す。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

各授業において担当教教員の説明する心理学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用しない

その他（受講上の注意）
①３年生から始まるゼミ（心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ）の担当教員や４年生の卒業研究のテーマを決めるうえで、重要な授業となります。週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。 ②実際の授業スケジュールは、学科ガイダンス（オリエンテーション）にて説明し、心理学科掲示板に掲示するので必ず事前に確認して臨んでください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化a (Japanese Language and Culture a)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2205	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

近代以降の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、言語と文化・社会の変化について考える。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に着目しながら、作中の日本語や文化・社会の表現について考察する。

授 業 の 到 達 目 標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：森鴎外
第3回：小説「舞姫」(1)
第4回：小説「舞姫」(2)
第5回：小説「舞姫」(3)
第6回：映画「舞姫」(監督：篠田正浩)
第7回：泉鏡花
第8回：小説「外科室」
第9回：映画「外科室」(監督：坂東玉三郎)
第10回：小林多喜二
第11回：小説「蟹工船」(1)
第12回：小説「蟹工船」(2)
第13回：小説「蟹工船」(3)
第14回：映画「蟹工船」(監督：SABU)
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておく。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行う。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景の関係が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

森鴎外『舞姫・うたかたの記 他三篇』・岩波文庫・1981年
泉鏡花『外科室・海上発電 他五篇』・岩波文庫・1991年
小林多喜二『蟹工船・党生活者』・新潮文庫・1954年

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語コミュニケーション論 (Verbal Communication)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2206	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションにおける言語の役割について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

円滑な人間関係を維持する上で、必要となる言語的要素について学ぶ。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ことばと社会
第3回：方言（1）
第4回：方言（2）
第5回：呼称（1）
第6回：呼称（2）
第7回：対人関係の親密化（1）
第8回：対人関係の親密化（2）
第9回：自己開示（1）
第10回：自己開示（2）
第11回：自己呈示（1）
第12回：自己呈示（2）
第13回：ポライトネス理論（1）
第14回：ポライトネス理論（2）
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

コミュニケーションにおいて、言語が果たす役割を説明することができるか。

テキスト、参考図書

参考図書　町田健・籾山洋介　『よくわかる言語学入門』 1996年　バベルプレス
その他、適宜プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・必ず国語辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報社会論 (Information and Society)			担当教員	景山　千愛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2207	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■?他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力□課題解決能力

授　業　の　内　容

メディア論や相互作用論を中心に、情報をめぐる社会学的理論を学ぶ。また、これらの理論を用いて実社会の現象を考察する。

授 業 の 到 達 目 標

法治国家、資本主義などの現代社会を構成するマクロな原理原則と、日常生活における情報（機器）の活用と弊害に関するミクロな事例を往還しながら思索することで、潜在的な社会問題を含む現代社会の課題解決能力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：身の回りのさまざまな「情報」
第3回：コミュニケーションのモデル
第4回：メディア（1）メディアの発展とコミュニケーションモデルの変容
第5回：メディア（2）マスメディアをめぐる現象と理論
第6回：メディア（3）言説分析
第7回：メディア（4）事例としての「報道被害」
第8回：メディア（5）事例としてのアーカイブズ
第9回：メディア（6）新しいメディアの誕生
第10回：コミュニケーション（1）日常会話を中心に
第11回：コミュニケーション（2）相互行為論の紹介
第12回：コミュニケーション（3）「制度的場面」という見方
第13回：コミュニケーション（4）SNSをめぐる現象
第14回：コミュニケーション（5）インターネットが生みだす言論空間
第15回：これまでのまとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

講義で説明したことを、自分の身の回りの現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート（50%）　小レポート（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

身の回りのさまざまな情報について主体的に読み解くことができるか。
情報の発信者として適切な姿勢を身に付けているか。
実社会でのさまざまな事例に関して、授業で学んだことを支えに解釈を行うことができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用しない。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公共政策 (Public Policy)			担当教員	澤崎　敏文
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−T−2208	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎A群

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

地域社会における公共政策のあり方について、民間企業等との違いを明らかにしながら、具体的な事例等を用いて理解を深める。また、それら事例における諸問題についてグループ討論および発表による意見交換を行う。

授 業 の 到 達 目 標

公共政策と民間施策との違いについて理解し、説明することができる。
地域課題における公共政策の必要性を説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：総論：公共と民間の違い（公共、民間の違いについて、具体的な事例も踏まえてその理解を深めます。）
第2回：公共政策の必要性、公共性と公平性の概念（なぜ公共政策が必要で、そもそも公共とは何かを、公平という概念と比較しながら考えます。）
第3回：行政機関が担う役割と組織体系（公共政策を実現するための組織である行政機関の役割を体系的に理解します。）
第4回：各論：公共政策の種類（公共政策には具体的にどのようなものがあるのかを、県、市の仕組みから学びます。）
第5回：（1）教育に関する公共政策（教育に関する公共政策のあり方について検討・議論を行います。）
第6回：（1）教育政策に関する事例検証（グループごとに事例を用いて討論を深め、意見の比較・検討を行います。）
第7回：（2）環境に関する公共政策
第8回：（2）環境政策に関する事例検証
第9回：（3）社会・福祉等に関する公共政策
第10回：（3）社会政策に関する事例検証
第11回：（4）経済（産業）に関する公共政策
第12回：（4）経済（産業）政策に関する事例検証
第13回：地域における課題と公共政策の関わり（地域と公共政策との関わり方、その限界などを議論します。）
第14回：課題解決のための議論（各自が考える地域の課題と、それらの解決方法について公共政策という立場から検討します。）
第15回：課題解決についての発表および討論（検討された結果を発表し、意見交換により理解を深めます。）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

福井県および越前市のホームページ等で各行政施策において、どのような事業を行っているかを調べ、それらの課題等について整理すること。また、指定された課題に対する小レポート（5回を予定）の提出があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（30%）　小レポート（50%）　平常点（20%）

成　績　評　価　基　準

地域における諸課題を、公共という観点から理解・整理することができるか。また、その解決策を公平かつ合理的に提示することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定の教科書は使用しないが、福井県および越前市のホームページを利用する。

その他（受講上の注意）
連絡先等：sawazaki@jin-ai.ac.jp
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法 (Presentation Skills)			担当教員	北神　慎司
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−S−2212	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学基礎B群

求める学習成果(教育目標)

言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

Power Pointを用いて、プレゼンテーションのための技法を習得する演習を行う。その前段階として、図表をはじめとして、情報をわかりやすく伝えるための手段の一つであるビジュアライゼーション(視覚化)についての解説と絵集を行う。さいごに、まとめとして、グループによるプレゼンテーションと相互評価を実施する。

授 業 の 到 達 目 標

ビジュアライゼーションのスキルやPower Pointの基本的な操作スキルを習得するだけでなく、自らのアイデアと適切な情報収集によって、プレゼンテーションの企画立案を行い、説得的なコミュニケーションという位置づけにおいて、魅力あるプレゼンテーションを実現できる能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション(プレゼンテーションとは？)
第2回：ビジュアル・コミュニケーションって何？
第3回：ビジュアル・コミュニケーションの概説(1)
第4回：ビジュアル・コミュニケーションの概説(2)
第5回：ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(1)
第6回：ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(2)
第7回：ビジュアル・デザインの演習(1)
第8回：ビジュアル・デザインの演習(2)
第9回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(1)
第10回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(2)
第11回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(3)
第12回：プレゼンテーション演習と評価(1)
第13回：プレゼンテーション演習と評価(2)
第14回：プレゼンテーション演習と評価(3)
第15回：プレゼンテーション演習と評価(4)

授 業 外 の 学 習 方 法

授業時に授業時間外に行うべき課題(予習・復習も含めて)について指示する。具体的に、予習については、次の授業で扱う内容について教科書の該当部分を読み、あらかじめ質問等を考えておくこと。また、復習については、Power Point の操作を含め、指示するビジュアライゼーションの練習課題等を行っておくこと。

成　績　評　価　方　法

課題等の提出物を30%、授業における発表を50%、平常点を20%として評価する。なお、平常点は、授業への参加状況・受講態度・授業中の発言等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

ビジュアライゼーションの考え方を理解しそれを実践できること、Power Point を操作することによって、プレゼンテーションのスライド(資料)を作成することができること、また、そのスライドを用いて、プレゼンテーションの評価項目に留意しながら、魅力あるプレゼンテーションを行うことができることについて、受講生の評価も考慮に入れつつ評価する。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

ワイルマン、R.E.・井上智義・北神慎司・藤田哲也 『ビジュアル・コミュニケーション』 北大路書房 2002年

その他（受講上の注意）
授業の中では、グループワークも予定しているため、できるだけ欠席をすることのないように留意すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発論Ⅰ (Study of Planning and Development Ⅰ)			担当教員	早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2216	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本科目では、「企画開発」に必要となる知識の修得を目指します。国内外における地域活性化のケーススタディをおこないながら、アイディア発想と論理的思考のためのフレームワーク、および「検索」の技術について考えます。

授 業 の 到 達 目 標

・アイディアを発想するための具体的方法をいくつか修得する
・ものごとを企画する（くわだてる）ための論理的思考の基礎を修得する
・「検索」の意義と基本的方法を理解する

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション（講義の目的とマインドセット）
第2回：アイディア発想の方法①――バグリスト、ノンストップライティングなど
第3回：アイディア発想の方法②――なぜなぜ分析、コンセプト・ファンなど
第4回：アイディア発想の方法③――仮定破壊、問題逆転など
第5回：アイディア発想の方法④――オズボーン・チェックリストなど
第6回：論理的思考の方法①――MECE、ロジックツリー、マトリクスなど
第7回：論理的思考の方法②――PEST分析、3C分析、SWOT分析など
第8回：論理的思考の方法③――セグメンテーションとターゲッティングなど
第9回：論理的思考の方法④――バランス・スコア・カードなど
第10回：中間テスト
第11回：中間テストの返却とリフレクション
第12回：「検索」の方法①――「検索」とは何か
第13回：「検索」の方法②――ズームとフォーカス
第14回：「検索」の方法③――シソーラス
第15回：講義のまとめとデブリーフィング

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：事前課題がある場合は、必ず取り組んでください。
復習：各講義回の資料およびノートを見直し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べてください。
その他、講義で説明したことを自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

中間テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）。
平常点は授業への参加状況、受講態度、リアクションペーパーの内容、小課題等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・アイディア発想の知識を理解しているか
・論理的思考の知識を理解しているか
・「検索」の重要性を理解し、情報を適切に検索できるか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定のテキストは指定しません。講義中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
他者の学ぶ時間を奪ったり、学ぶ姿勢を阻害するような行動に対しては厳しく対処します。各自、講義を通じて問題意識を醸成してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン文化論 (Design and Culture)			担当教員	舩山　俊克
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2217	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

近代日本の隆盛を支えたデザインの世界。西欧社会や我が国のデザイン教育および社会的なデザイン活動における歴史的検証から今後のデザイン活動のあり方について考察する。

授 業 の 到 達 目 標

デザインに関する本質的概念の理解と、日常生活やそれを取り巻く生活環境におけるデザイン（行為も含む）の存在意義や効果について多様な視点を持てるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：デザイン・designの意味
第3回：デザインの歴史①
第4回：デザインの歴史②
第5回：デザイン基礎：文字
第6回：デザイン基礎：色彩
第7回：デザイン基礎：レイアウト
第8回：実習①
第9回：実習②
第10回：実習③
第11回：プレゼンテーション
第12回：振り返り
第13回：コンシリエンスデザインについて
第14回; 未来創成としてのデザイン
第15回：総括

授 業 外 の 学 習 方 法

大学生ならではの行動力を生かし、生活環境や周辺社会での観察を活発に行う。

成　績　評　価　方　法

レポート50%、平常点50%（平常点は，授業への参加状況、受講態度、レポートの提出等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

デザインおよびデザイン思考に関して自らの観点や考察を行えるかどうか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて紹介する。

その他(受講上の注意)

授業時以外の調査などの作業を要する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域経済論 (Regional Economics)			担当教員	江南　健志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOC-2223	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、地域社会学的な視点から、地域の経済活動を「人びとの営み」として包括的に理解するために必要な理論と知識の枠組みを学びます。そのうえで、具体的事例をもとに地域のこれからの経済のあり様に対する考えを深めます。

授 業 の 到 達 目 標

・地域活動に関する経済学、社会学および地域開発を理解する知識を修得する
・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいて意見を述べ、説明できる
・講義で学んだ内容を実社会と関連付けて議論することができる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：経済活動と社会・地域
第3回：「地域活動」を捉える視角①
第4回：「地域活動」を捉える視角②
第5回：「地域活動」を捉える視角③
第6回：地域開発の理論①
第7回：地域開発の理論②
第8回：地域開発の理論③
第9回：日本の地域開発の歴史① ── 地域間格差の是正と全国総合開発計画
第10回：日本の地域開発の歴史② ── バブル経済とそれ以降の地域開発
第11回：「来るべき経済」を考える ── 具体的な事例を考えてみる
第12回：具体的な地域経済①
第13回：具体的な地域経済②
第14回：具体的な地域経済③
第15回：講義のまとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：事前課題がある場合は、必ず取り組んでください。
復習：各講義回の資料およびノートを見直し、講義内で示された事例や専門用語を図書館等で調べてください。
その他、講義で説明したことを自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

レポート(70%)　平常点(30%)
平常点は授業への参加状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断します。
internet上のデータを安易に引用したり、他者の論文・レポートなどを盗用・剽窃したりした場合は、不可になることもあります。

成　績　評　価　基　準

・経済学、社会学および地域開発を理解する知識を修得しているか
・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいて意見を述べ、かつ説明できるか
・講義で学んだ内容を実社会と関連付けて議論することができるか

テキスト、参考図書
特定のテキストは指定しません。講義中に適宜紹介します。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報システム論 (Introduction to Sociology b)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2224	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

情報システムを支える基盤技術（データベース、ネットワーク、セキュリティ、認証など）の概念と原理を現実社会の例と照らし合わせて学ぶ。
講義の内容によっては座学だけでなく、ディスカッション等も取り入れる場合がある。

授 業 の 到 達 目 標

情報システムに関する知識を習得した上で、利用者、導入者、管理者、開発者等の様々な視点から情報システムを分析し、提案できる能力を身に着ける。

授　業　の　計　画

第1回：チュートリアル　情報とは何か
第2回：コンピューターと情報システム～システムと構造～
第6回：システムの基本法則
第5回：アルゴリズムとプログラム
第3回：知能とコンピューター
第4回：情報システムとデザイン
第7回：マルチメディア基礎
第8回：ネットワーク基礎
第9回：セキュリティと認証
第10回：データベースの基礎
第11回：情報システムの管理
第12回：情報システムの設計と開発
第13回：社会システムの本質と構造
第14回：物流システム～ダッバーワーラーの事例から～
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

参考図書を適宜紹介する。

成　績　評　価　方　法

定期試験70%、授業内小テスト30%

成　績　評　価　基　準

情報システムの仕組みやネットワーク、コンピュータ、それらを制御する基盤技術について理解できているかを評価の基準とする。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

授業は自作スライドを中心に行う。特定のテキストは指定しないが、参考図書については講義中に適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化b (Japanese Language and Culture b)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2226	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

近代以降の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、コミュニケーションの問題を考える。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に着目しながら、作中のコミュニケーションの様相や文化・社会の表現について考察する。

授 業 の 到 達 目 標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：宮沢賢治
第3回：童話「銀河鉄道の夜」(1)
第4回：童話「銀河鉄道の夜」(2)
第5回：童話「銀河鉄道の夜」(3)
第6回：映画「銀河鉄道の夜」(監督：杉井ギサブロー)
第7回：野坂昭如
第8回：小説「火垂るの墓」(1)
第9回：小説「火垂るの墓」(2)
第10回：映画「火垂るの墓」(監督：高畑勲)
第11回：小川洋子
第12回：小説「博士の愛した数式」(1)
第13回：小説「博士の愛した数式」(2)
第14回：映画「博士の愛した数式」(監督：小泉堯史)
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』・新潮文庫・1989年
野坂昭如『アメリカひじき・火垂るの墓』・新潮文庫・1968年
小川洋子『博士の愛した数式』・新潮文庫・2005年

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学Ⅱ (English Linguistics Ⅱ)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2230	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

英語学への理解を深め、体系的な英語の知識を身に付ける。

授 業 の 到 達 目 標

英語という言語の概要・背景を学び、異文化理解力および英語力を多面的に向上させる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：英語と社会的属性（1）　地域方言
第3回：英語と社会的属性（2）　社会階層
第4回：英語と社会的属性（3）　ジェンダー
第5回：英語の発話行為（1）　語用論とは
第6回：英語の発話行為（2）　依頼
第7回：英語の発話行為（3）　侘び
第8回：英語のポライトネス（1）協調の原理
第9回：英語のポライトネス（2）Brown & Levinson（1987）
第10回：英語のポライトネス（3）日米比較
第11回：談話分析とは
第12回：英語文化とコミュニケーションスタイル（1）　異文化コミュニケーション
第13回：英語文化とコミュニケーションスタイル（2）　文化モデル
第14回：英語文化とコミュニケーションスタイル（3）　日英コミュニケーション
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直して復習をしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

英語学の基礎が理解できているのか。
英語コミュニケーションの観点より、異文化への理解ができているのか。

テキスト、参考図書

テキスト：平賀正子(著)　『ベーシック新しい英語学概論』　2016年　ひつじ書房

その他(受講上の注意)

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読 a (English Reading a)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2232	2 単位	2 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. 多読 (reading for pleasure) に親しむ。
2. 望ましい読書習慣を理解し、身につける。
3. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。
4. 詩やスピーチを読んで暗唱できる。
5. 効果的な語彙学習の方法を知り、語彙力を高めることができる。
6. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができる。
7. 英文パラグラフの構成を理解し、トピック、メインアイディアを把握できる。
8. 必要な情報を読み取り、その内容について自分の意見を述べることができる。

授　業　の　計　画

第 1 回：多読：目的と読み方、望ましい読書習慣
第 2 回：多読：読書レポート、読書記録、本の選択
第 3 回：プレビューイング
第 4 回：スキャニング
第 5 回：レシテーション：英詩
第 6 回：スキミング
第 7 回：読みのストラテジー
第 8 回：語彙学習：辞書の活用
第 9 回：語彙学習：品詞、語形成、文脈による語義の推測
第10回：情報収集のための読みとディスカッション：環境問題
第11回：推論、レシテーション：スピーチ
第12回：パラグラフの理解：トピック、メインアイディア
第13回：パラグラフの理解：パラグラフの構成
第14回：情報収集のための読みとディスカッション：社会問題
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

1. テキストの予習・復習を行うとともに、自分に適した多読用の英語の本を選んで読む。
2. 語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。
3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験 (50%)、課題 (25%)、平常点 (25%)
(平常点は、授業の受講態度から判断する。)

成 績 評 価 基 準

1. 多読（reading for pleasure）に親しむことができたか。
2. 望ましい読書習慣を理解し、身につけることができたか。
3. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。
4. 詩やスピーチを読んで暗唱できるか。
5. 効果的な語彙学習の方法を知り、語彙力を高めることができるか。
6. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができるか。
7. 英文パラグラフの構成を理解し、トピック、メインアイディアを把握できるか。
8. 必要な情報を読み取り、その内容について自分の意見を述べることができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：MORE READING POWER Mikulecky, B.S., and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company.
参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌等の記事、NetAcademy

その他（受講上の注意）

なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読b (English Reading b)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2233	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。
2. 読んだ物語を英語で話すことができる。
3. 英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できる。
4. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
5. 読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べることができる。
6. 速読の方法を理解し、英文を速読できる。
7. 正確に深く精読して、読んだ内容について感想を述べることができる。

授　業　の　計　画

第1回：リーディング・ストラテジー
第2回：ストーリーテリング
第3回：英文構成パターン：列挙・連続（時系列）・比較のパターン
第4回：英文構成パターン：因果関係・問題解決のパターン
第5回：英字新聞の読み方：記事の構成、見出しのルール、リード
第6回：英字新聞の読み方：スキャニング、レポート
第7回：ニュース・レポーティングとディスカッション：社会問題
第8回：レシテーション：スピーチ
第9回：速読：目的と読み方
第10回：速読：読むスピードの測定方法・記録
第11回：ニュース・レポーティングとディスカッション：教育問題
第12回：精読の方法
第13回：精読：説明文
第14回：精読：小説
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

1.テキストの予習・復習を行うとともに、興味のある新聞記事を選択し、継続的に読む。
2.語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。
3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題（25%）、平常点（25%）
（平常点は、授業の受講態度から判断する。）

成 績 評 価 基 準

1. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できるか。
2. 読んだ物語を英語で話すことができるか。
3. 英文パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できるか。
4. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができるか。
5. 読んだニュースを英語でレポートし、その内容に関して自分の意見を述べることができるか。
6. 速読の方法を理解し、英文を速読できるか。
7. 正確に深く精読して、読んだ内容について感想を述べることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：MORE READING POWER　Mikulecky, B.S., and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company.
参考図書：英字新聞、インターネット・雑誌・BBC・CNN等の記事、NetAcademy

そ の 他（受 講 上 の 注 意）

なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文化論 (Anglo-American Cultural Studies)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2234	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

英国および米国の文化と、世界の多様な文化とを対比しながら学んでいく。本授業では、「食」を手がかりに、英国・米国に加え、世界各国の食にまつわる伝統・文化についての知識と理解を深める。

授 業 の 到 達 目 標

・「食」を切り口とした、英国・米国を含む世界の多様な文化について学ぶ。
・上記の事柄に関し、調べ学習を通して理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：Why are Jewish dietary laws so strict?
第3回：The reason why Muslims will not eat pork
第4回：Christianity did away with food taboos
第5回：The meat and drink taboos of Buddhism
第6回：America was once the world's leadning whaling nation
第7回：Mussels are a "must" with spaghetti
第8回：Is Paris best for tuna, and Southeast Asia best for red sea bream?
第9回：Cultures that eat dog meat
第10回：Snails are sold at fish shops
第11回：Don't say "It's only an egg".
第12回：Shabu-shabu and fondue
第13回：Which is tastier, sukiyaki or gyunabe
第14回：The relation between cacao and chocolate
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

講義を受けた後は、当該分野の配布資料等を見直して復習をしてください。各講義において示された参考資料も読み、理解を深めましょう。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、授業内レポート(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業の受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・「食」を切り口とした、英国・米国を含む世界の多様な文化に関する知識を身につけたか。
・上記の事柄に関し、調べ学習ができたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

大橋久利、Baxter, Blake (2016)『食文化で知る東洋、西洋』成美堂

その他(受講上の注意)

本講義を受ける前に、「異文化理解a」「異文化理解b」の単位を取得すること。
5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなします。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発演習Ⅰ (Practice in Planning and Development Ⅰ)			担当教員	冨永　良史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2252	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

仲間とのコラボレーション（対話、触発、協働）によって、他者にとって有意義なコト（イベント、ゲームなど）を企画開発し、プロトタイピング（試作試行）し、磨き、振り返り、改善・革新へと結びつける体験を繰り返すことで、企画開発力を実践的に学ぶ。

授　業　の　到　達　目　標

1．チームワークによって自他の創造性を高めあい、斬新かつ発展性のある企画の実現ができる。
2．自分とは価値観が異なる他者にとって、有意義であるとはどういうことかへの想像力を獲得する。
3．企画の実現にとって事前、最中、事後にそれぞれ必要なことがわかる。

授　業　の　計　画

第1回：これからの世界と企画開発力の関係を理解する
第2回：有意義なコトを起こした事例に学ぶ
第3回：イベントの種子を見つける　「着想」
第4回：種子を刺激し発芽させる「膨張」
第5回：芽から幹に育てる「コンセプト」
第6回：あらかじめ果実を描く「ゴールイメージ」　※全体的に、進捗に応じた柔軟な変更がありえる
第7回：枝を伸ばし、葉を繁らせる「プロセス」
第8回：実った果実を先取りして見せる「プレゼンテーション」
第9回：果実が実ることを確かめる「実現」
第10回：他者の実現から学ぶ「相対化」
第11回：果実の魅力の源泉を探る「深化」
第12回：着想と実現の間をつなぐものは何か「収穫」
第13回：さらなる展開を生み出すには「変異」
第14回：すべてをふりかえる「省察」
第15回：企画開発力は世界をどう変えるか「展望」

授　業　外　の　学　習　方　法

企画の準備を授業だけで完結させるのは困難であるため、授業外での仲間との密接なコミュニケーションによって随時準備を進行させることが必要になる。授業外での取り組み方が授業内での成果に大きく影響する。

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み姿勢（50%）、課題の成果（30%）、最終レポート（20%）

成　績　評　価　基　準

1．チームの成果に貢献するために何をすべきかという視点を獲得できているか。
2．自分の価値観を保留して、他者の価値観にとって有意義であるとはどういうことかを想像できるか。
3．着想から実現、さらなる展開までの思考・実行プロセスを自分の言葉で表現できるか。

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じてレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

「企画開発基礎演習」「企画開発論1」をベースとして、発展的に学ぶ科目であるため、両科目の受講を終えていることを推奨する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅰ (Communication Techniques Ⅰ)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2254	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

日常的・実用的な文章例、またレポート・論文の文章例をもとに、その例の問題点を自分たちで考え、修正し、発表する。どのような人にどのような情報をどのような順序で書くか、読む人の側に立って書く力を身につける。

授　業　の　到　達　目　標

・対象や目的に沿った書き方を理解し、実践することができる。
・読む人の側に立った書き方を理解し、実践することができる。

授　業　の　計　画

第1回：お知らせのメール
第2回：レストランのメニュー
第3回：問い合わせのメール
第4回：注意書きやサービス案内
第5回：お願いのメール
第6回：お店やイベントの広告
第7回：わかりやすいマニュアル
第8回：場所や交通の案内
第9回：企画や提案を出す
第10回：ニュースレターを作る
第11回：アンケート用紙を作る
第12回：日本語弱者のことを考えて書く
第13回：レポートや論文を書く（1）
第14回：レポートや論文を書く（2）
第15回：レポートや論文を書く（3）

授　業　外　の　学　習　方　法

予習：テキストの文章例を読み、あらかじめ問題点を考えておく。
復習：授業内容を確認し、課題を行う。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・対象や目的に沿った書き方を理解し、実践することができるか。
・読む人の側に立った書き方を理解し、実践することができるか。

テキスト、参考図書

『日本語を書くトレーニング』　第2版　野田尚史・森口稔著　ひつじ書房　2014年

その他(受講上の注意)

受身ではなく、自分たちで問題点を発見し、解決することが求められる。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅱ (Communication Techniques Ⅱ)			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2255	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションの原点は相手の気持ちを察しながら自分の考えを的確に伝えること。それを紡ぐのが「言葉」である。
授業では、話す・きくの基本に加え、報告、説明、説得、発表などの演習を通し、言葉による自己表現力、コミュニケーション能力の向上をめざす。

授　業　の　到　達　目　標

・言葉を使って、自分の考えや情報を的確に過不足なく相手に伝える。
・人前で分かりやすく、相手の心をつかむ自己紹介、説明、報告、発表ができる。
・グループワークを通して他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：コミュニケーション・スキルを身につける→必要性と理由
第3回：コミュニケーションは難しい→なぜギャップが生じるのか
第4回：非言語コミュニケーション・スキルを磨く
第5回：演習①
第6回：話を聴くためのスキル→傾聴する
第7回：話を訊くためのスキル→観察する、共感する
第8回：演習②
第9回：理解を深めるためのスキル→質問する、確認する
第10回：分かりやすい「説明」
第11回：演習③
第12回：分かりやすい「報告」「連絡」
第13回：演習④
第14回：プレゼンテーションの基本→流れ、準備、発表
第15回：演習⑤
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・予習として、演習の課題発表の際には自分の考えをまとめ、実際に声に出して練習しておくこと。
・復習としては、授業時の内容をまとめ、次の授業で発表できるようにしておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(50%)　演習(25%)　平常点(25%)
＊平常点は出席状況、授業への参加態度、グループワーク演習への取り組み姿勢等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・言葉を使って、自分の考えや情報を的確に過不足なく相手に伝えることができるか。
・人前で分かりやすく、相手の心をつかむ自己紹介、説明、報告、発表ができるか。
・グループワークを通して他者とのコミュニケーションを円滑に行う能力を磨いているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。(適時プリント資料を配布する)

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ライティング技法 (Writing Strategies)			担当教員	野尻　昌明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2256	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

メディアにおけるライティングの違いを検証。各メディア特性を確認しながらメディア（ライティング）を制作し効果を学ぶ。
最終的にデジタルメディアに集結するコミュニケーションを、企画制作する。

授 業 の 到 達 目 標

コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高める。
コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得する。

授　業　の　計　画

第1回：コミュニケーションとコピーライティング
第2回：コピーライティング概論
第3回：コピーライティングの制作実践
第4回：作品におけるミーティング
第5回：コンセプトの必要性（クライアント設定～制作～効果）
第6回：コンセプト・ライティングの制作発表
第7回：表現における企画書制作
第8回：各種メディアとライティング（平面媒体）
第9回：各種メディアとライティング（放送媒体）
第10回：各種メディアとライティング（web展開）
第11回：制作実践（1/ライティング）
第12回：制作実践（2/ビジュアル・映像）
第13回：制作実践（3/編集）
第14回：制作実践（4/企画書）
第15回：制作実践（5/チェック）
第16回：最終プレゼンテーション（※状況により変更の場合あり）

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関する情報（時事・映画・小説・雑誌・資料文献・web・テレビ・ラジオ等）の素材収集など。

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み・最終プレゼンテーション（50%）　課題成果（30%）　平常点（20%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

メディアを利用しての実践的制作プロセス（ライティング・コンセプトメイキング・企画）のスケジュール把握とデジタルツールへの効果的・効率的な情報運用。
コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高めることができているか。
コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得することができているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用しない

その他（受講上の注意）
原則としてコミュニケーション技法Ⅰ（２年前期）を履修したものに限る。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア･コミュニケーション論 (Study of Media Communication)			担当教員	江南　健志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2257	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて社会のあり様を大きく変えている。授業では、情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、および表現する力の向上を狙いとする。

授　業　の　到　達　目　標

・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができる。
・メディアと社会の変容について分析することができる。また、自身の意見をもち考えを述べることができる。

授　業　の　計　画

授業では、メディアとコミュニケーションや社会の変容という側面から、社会の諸問題及び社会との関わりについて考察するとともに、社会と繋がっていくために必要なコミュニケーションのあり方を考えていく。
第1回：メディア・コミュニケーションとは
第2回：リアルとバーチャルのコミュニケーション①
第3回：リアルとバーチャルのコミュニケーション②
第4回：リアルとバーチャルのコミュニケーション③
第5回：メディア・リテラシー①
第6回：メディア・リテラシー②
第7回：メディアと地域活性化①
第8回：メディアと地域活性化②
第9回：メディアの軌跡と社会の変容①
第10回：メディアの軌跡と社会の変容②
第11回：自分というメディア①
第12回：自分というメディア②
第13回：自分というメディア③
第14回：グローバル・メディア
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物(70%)、平常点(30%)
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断

成　績　評　価　基　準

・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができるか。
・メディアと社会の変容について分析することができるか。また、自身の意見をもち考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
その他（受講上の注意）
リアクション・ペーパー（授業中作成）の内容については、次回授業においてフィードバックします。なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア・デザイン (Media Design)			担当教員	吉村　正照
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2258	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

映像表現を用いたコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。メディア（テレビ、ウェブ等）や目的（PV、CM等）に応じた映像表現の基本ルールの理解と平行して、コンピュータ（Mac）／スマートフォンのアプリケーションを用いた映像表現の技法を習得していく。

授業の到達目標

現在において動画コンテンツが有効とされている理由を理解する。映像表現の基本ルール・手法について理解する。コンピュータを用いた映像表現の技法を習得する。映像表現を駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。

授　業　の　計　画

第1回：制作ツールの紹介、データの管理方法、映像制作の流れ、著作権について
第2回：映像技法の種類とその紹介
第3回：撮影の技法と練習
第4回：編集の技法と練習
第5回：音に関する技法と練習
第6回：映像技法の実践：ストップモーション①　撮影、編集
第7回：映像技法の実践：ストップモーション②　編集、発表
第8回：映像メディアの種類とその特性について
第9回：ウェブ動画①戦略に基づいた企画手法
第10回：ウェブ動画②掲載サービスに応じた表現方法
第11回：期末課題制作① オリエンテーション、制作フローの確認、企画会議、絵コンテの作成
第12回：期末課題制作② 撮影、編集
第13回：期末課題制作③ 編集、中間チェック
第14回：期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出
第15回：期末課題制作⑤ プレゼンテーション

授業外の学習方法

日常の生活である映像をいいと感じたら、その理由を考えてみる。
スマートフォンのアプリを活用すれば撮影から編集・公開までが無料で可能。スキルアップのために自主制作を試みること。

成　績　評　価　方　法

期末課題作品（40%）　授業毎の作品（30%）　授業毎の小テスト・レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

・映像表現の基本ルールが理解できているか。
・ツールを適切に使用できているか。
・映像表現の基本ルールを理解した上で、課題作品の制作ができているか。

テキスト、参考図書

テキスト：使用しない
参考図書：授業内で紹介する

その他（受講上の注意）
撮影は必要に応じて授業時間外に実施することがある。 授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プロジェクト・デザイン基礎 (Fundamentals of Project Design)			担当教員	冨永　良史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2262	2単位	2年	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

2年生～4年生の3年間という長期的展望に立って、年度を重ねながら最終的に学年を超えたコラボレーションでプロジェクトを生み出し、実現する授業に育てていく。プロジェクトはチーム単位で学内外の諸課題の解決に取り組み、学生自らが主体的にアイディアを出し、目標・計画を立て、実行し、評価し、改善・革新していく。

授 業 の 到 達 目 標

学生自ら授業・プロジェクトを生み出し、展開していけること。学生相互に学び合うだけでなく、異なるプロジェクトの間で学び合い、多様な学生・プロジェクトが触発しあいながら、次年度の授業・プロジェクトに向けた基盤・展望・意欲が形成できること。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションとモデル事業のプレゼンテーション
第2回：プロジェクトチームの編成と運営指針の確認
第3回：プロジェクト別企画検討（1：発想触発の場の形成）
第4回：プロジェクト別企画検討（2：発想増幅の場の形成）
第5回：プロジェクト別企画検討（3：発想から企画への具現化）
第6回：進捗状況プレゼンテーション
第7回：プロジェクト別企画検討（4：実施計画策定）
第8回：プロジェクト実施（社会実験含む）および検証　　※全体的に、進捗に応じた柔軟な変更があり得る
第9回：プロジェクト別総括（1：結果と成果の明確化）
第10回：プロジェクト別総括（2：評価と課題の明確化）
第11回：プロジェクト別総括（3：組織マネジメント）
第12回：活動報告プレゼンテーション（レポート作成）
第13回：授業運営に関するディスカッション（レポート提出）
第14回：次年度活動計画立案（1：継続・新規検討）
第15回：次年度活動計画立案（2：プレゼンテーション準備計画策定）

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関連する情報や素材の収集など。地域での連携事業に関連した活動は、授業時以外（休暇中含む）においても発生する。

成　績　評　価　方　法

課題に対する取組み内容・提出物（80%）　、平常点（20%）

成　績　評　価　基　準

・プロジェクトを生み出し、展開できているか。
・プロジェクトチームに貢献できているか、また、プロジェクトチームとして成果がでているか。
・プロジェクトの進め方（基本）について説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特に使用しない。参考となる資料は必要に応じて配布する。

その他（受講上の注意）
一貫してチーム編成にて作業を進行する。価値観の違いを面白がり、触発しあい、生み出しあう姿勢を持つこと。授業の進捗に応じて柔軟に内容を変更していく。詳細説明は第１回に行うので、必ず出席すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡa (Oral Communication Ⅱa)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2265	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初にテキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイディアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。

授 業 の 到 達 目 標

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また物事を批評する力を身につけることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：四季の描写、日本とアメリカ　(文章の理解、語彙の確認)
第2回：四季の描写、日本とアメリカ　(課題を踏まえての討論)
第3回：国内旅行　(文章の理解、語彙の確認)
第4回：国内旅行　(課題を踏まえての討論)
第5回：ハンバーガーの生い立ち　(文章の理解、語彙の確認)
第6回：ハンバーガーの生い立ち　(課題を踏まえての討論)
第7回：中間試験
第8回：ファースト・フードと健康　(文章の理解、語彙の確認)
第9回：ファースト・フードと健康　(課題を踏まえての討論)
第10回：世界で最も幸せな国　(文章の理解、語彙の確認)
第11回：世界で最も幸せな国　(課題を踏まえての討論)
第12回：間接喫煙　(文章の理解、語彙の確認)
第13回：間接喫煙　(課題を踏まえての討論)
第14回：甘い飲み物　(文章の理解、語彙の確認)
第15回：甘い飲み物　(課題を踏まえての討論)
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.

成　績　評　価　方　法

積極的な授業態度及び課題(25%)　中間試験(25%)　期末試験(50%)

成　績　評　価　基　準

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。
物事を批評する力を身につけているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Life Topics：A Critical Thinking Approach to English Proficiency（総合英語ライフトピックス）
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2012. NAN' UN-DO ISBN 978-4-523-17689-3
（島岡丘, ジョナサン・バーマン著　出版社：南雲堂　2012）

その他（受講上の注意）
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡb (Oral Communication Ⅱb)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2266	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

最初にテキストのトピック内の記事を読み、英文を読む訓練を行う。続いて語彙の確認や記事の背景を理解し、自分の意見やアイディアを整理する。各ユニットの最後に討論を行う。

授 業 の 到 達 目 標

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できることを目指す。また物事を批評する力を身につけることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：幽霊　(文章の理解、語彙の確認)
第2回：幽霊　(課題を踏まえての討論)
第3回：宇宙人とUFOは存在するか　(文章の理解、語彙の確認)
第4回：宇宙人とUFOは存在するか　(課題を踏まえての討論)
第5回：インターネットの発達　(文章の理解、語彙の確認)
第6回：インターネットの発達　(課題を踏まえての討論)
第7回：中間試験
第8回：インターネットで買い物(文章の理解、語彙の確認)
第9回：インターネットで買い物　(課題を踏まえての討論)
第10回：クレジットカードの罠　(文章の理解、語彙の確認)
第11回：クレジットカードの罠　(課題を踏まえての討論)
第12回：遺伝子組換え　(文章の理解、語彙の確認)
第13回：遺伝子組換え　(課題を踏まえての討論)
第14回：整形　(文章の理解、語彙の確認)
第15回：整形　(課題を踏まえての討論)
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.

成　績　評　価　方　法

積極的な授業態度及び課題(25%)　中間試験(25%)　期末試験　(50%)

成　績　評　価　基　準

自分の意見やアイディアを英語で話すだけでなく、他人の意見やアイディアを英語で聞いて理解し、さらにその意見やアイディアに対して建設的な考えを英語で発言できるか。
物事を批評する力を身につけているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Life Topics：A Critical Thinking Approach to English Proficiency　(総合英語ライフトピックス)
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2012. NAN' UN-DO ISBN 978-4-523-17689-3
(島岡丘, ジョナサン・バーマン著　出版社：南雲堂　2012)

その他（受講上の注意）
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

TOEIC英語Ⅰ （TOEIC English Ⅰ）			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2269	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果（教育目標）

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

TOEICテストの各パートの出題形式を理解し 、問題に取り組むためのテクニックを学ぶ。TOEIC600点レベルの語彙400語を習得する。

授 業 の 到 達 目 標

リスニング力・リーディング力の向上を図り、TOEICテストのスコアアップを目指す。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション
第２回：Listening Part 1 写真描写問題（１）
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題（１）
第３回：Listening Part 1 写真描写問題（２）
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題（２）
第４回：Listening Part 1 写真描写問題（３）
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題（３）
第５回：Listening Part 2 応答問題（１）
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題（１）
第６回：Listening Part 2 応答問題（２）
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題（１）
第７回：Listening Part 2 応答問題（３）
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題（２）
第８回：Listening Part 3 会話問題（１）
　　Reading Part 7 １つの文書（１）
第９回：Listening Part 3 会話問題（２）
　　Reading Part 7 １つの文書（２）
第10回：Listening Part 3 会話問題（３）
　　Reading Part 7 １つの文書（３）
第11回：Listening Part 4 説明文問題（１）
　　Reading Part 7 複数の文書（１）
第12回：Listening Part 4 説明文問題（２）
　　Reading Part 7 複数の文書（２）
第13回：Listening Part 4 説明文問題（３）
　　Reading Part 7 複数の文書（３）
第14回：Listening Part 4 説明文問題（４）
　　Reading Part 7 複数の文書（４）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

・TOEICを実際に受験すること（学内外を問わず）
・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法
定期試験（50％）　授業内レポート（30％）　平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
成　績　評　価　基　準
TOEIC600点レベルに関わる語彙・文法・解答技術を習得したか。
テキスト、参考図書
塚田幸光『はじめてのTOEIC? L&Rテスト 全パート総合対策』アスク　2017年 TEX加藤　『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版　2017年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
その他（受講上の注意）
・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア英語 (Media English)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2274	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

メディアに関わる英語とその文化的背景を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

メディアに関わる英語に関し、その言語特徴および文化的背景を理解する能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：Victoria, Canada
第3回：Cameroon
第4回：North Island, New Zealand
第5回：Nepal
第6回：Birmingham, England
第7回：Review
第8回：Nice, France
第9回：Wisconsin, USA
第10回：Rio, Brazil
第11回：Wicklow, Ireland
第12回：Geneva, Switzerland
第13回：Gold Coast, Australia
第14回：St. Andrews, Scotland
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

メディア英語の言語的特徴と文化背景に基づき、英文を分析的に理解することができるか。

テキスト、参考図書

Lander, J. S.(2007)"World Exploler" Asahi Press

その他(受講上の注意)

5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなします。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。
必ず英和辞書(電子辞書可)を持参してください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英作文演習 (English Writing)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2275	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

パラグラフ・ライティングに焦点を当て、意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を学習する。このプロセスにはペア・グループでの学習も含まれ、様々な言語活動を通して、ライティングにおける流暢さと正確さを追及する。

授 業 の 到 達 目 標

1．意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができる。
2．10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができる。
3．簡単な日本語の随筆から1文程度を、書き手の意味することを伝える文に英訳できる。

授　業　の　計　画

第1回：トピックセンテンス / The Topic sentence
第2回：サポーティングセンテンス / Supporting sentences
第3回：コンクルーディングセンテンス / The Concluding sentence
第4回：描写のパラグラフ / Descriptive paragraphs
第5回：物語のパラグラフ / Narrative paragraphs
第6回：説明のパラグラフ / Expository paragraphs
第7回：復習（第1回～第6回）
第8回：まとまり / Unity
第9回：結束 / Cohesion
第10回：プロセス / Process
第11回：理由と結果 / Reasons and Results
第12回：意見 / Opinions
第13回：復習（第8回～第13回）
第14回：英作文発表の準備
第15回：英作文の発表
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

1．予習では、テキストの語彙等について、わからないところを辞書などで調べておくこと。
2．復習として、授業で書いたパラグラフで添削を受けたものを書き直し、E-learningに提出すること。
3．毎週、E-learning上で“My Opinion Forum”に参加し、授業で学習したパラグラフ・ライティングの方法を確認しながら自分の考えを80語ぐらいの英文で述べ、また、他の学生の意見に英文でコメントを述べること。

成　績　評　価　方　法

授業での言語活動15%、毎時間の小テスト20%、課題15%、定期試験50%

成　績　評　価　基　準
1．意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができるか。 2．10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができるか。 3．簡単な日本語の随筆の一文を、書き手の意味することを伝える文に英訳できるか。
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』R. Murphy. Cambridge. 2013.
そ　の　他（受　講　上　の　注　意）
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族社会学 (Sociology of the Family)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2279	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

「家族」について、さまざまな視点から考える。また、多様な家族のあり方を知る。

授 業 の 到 達 目 標

「家族」はあまりに身近な存在であるがために、自分の知る「家族」だけが、当たり前のものだと考えがちである。しかし「家族」は普遍的なものではなく、時代や社会によって大きく異なり、また同じ社会の中でもさまざまである。授業を通じて、家族を社会学的な視点からみつめ、家族の歴史や多様性を理解することをめざす。
また、さまざまなライフイベント（就職・結婚・育児・離婚など）に関する制度や法律について適切に理解することをめざす。

授　業　の　計　画

第1回：イントロダクション：「家族」とは何か？
第2回：「家族」を捉える
第3回：ジェンダー：男は仕事、女は家庭？
第4回：「近代家族」の誕生①
第5回：「近代家族」の誕生②
第6回：パートナーシップ①：結婚，事実婚，同棲
第7回：パートナーシップ②：未婚化・晩婚化・非婚化，婚活
第8回：パートナーシップ③：異性，同性，SOGI
第9回：妊娠・出産・子育て①：リプロダクティブヘルス・ライツ，妊活
第10回：妊娠・出産・子育て②：育児の社会化，少子化
第11回：妊娠・出産・子育て③：マミートラック，マタニティハラスメント
第12回：パートナーシップ④：離婚，再婚，ひとり親，ステップファミリー
第13回：貧困とジェンダー
第14回：暴力：DV，児童虐待，性暴力，セクシュアルハラスメント
第15回：まとめ：社会の中の家族，家族をめぐる「選択」
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業中に適宜紹介する参考文献を積極的に読むこと。また授業ではさまざまな事例を紹介するが、授業後に、インターネットや文献を検索し、他の事例を調べたり、確認したりして、理解を深めてほしい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、平常点（50%）
※平常点は受講態度、小テスト、小レポート、授業への参加状況等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

現在の家族に関する制度や法律について正しく理解できているか。
家族の多様性や歴史的な変化を正しく理解し、具体的な事例を用いて説明することができるか。

テキスト、参考図書
テキストは指定しない。 参考図書として、落合恵美子『21世紀家族へ（第３版）』有斐閣（2004年） 中野円佳『「育休世代」のジレンマ ── 女性活用はなぜ失敗するのか？』光文社（2014年） 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族（第３版）』有斐閣（2013年）　など。 また、授業中に適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
受講生の関心に応じて、「授業の計画」に提示した内容から若干変更する可能性がある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査法 (Social Research Methods)			担当教員	中村　昇平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2280	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、調査データの整理などを学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・調査票調査の手順を理解する。
・調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解する。
・適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得する。
・無作為抽出の意義を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：調査方法の選択
第3回：アンケート調査の進め方（1）　リサーチクエスチョン，仮説を構成する
第4回：アンケート調査の進め方（2）　調査の企画
第5回：調査票作成の基礎（1）　仮説と質問項目
第6回：調査票作成の基礎（2）　ワーディング
第7回：調査票作成の基礎（3）　質問文の形式と選択肢の構成
第8回：サンプリング（1）　ランダム・サンプリングがなぜ必要か
第9回：サンプリング（2）　サンプリングと調査票の配布から回収まで
第10回：模擬調査
第11回：調査データの作成（1）　エディティング，コーディング
第12回：調査データの作成（2）　データ入力，データクリーニング
第13回：データ分析（1）　記述統計
第14回：データ分析（2）　クロス表分析
第15回：報告書の作成
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

指定された教科書の各回の内容について，予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。

成　績　評　価　方　法

・定期試験（50%）
・課題提出・受講態度（50%）

成　績　評　価　基　準

・調査票調査の手順を理解できているか。
・調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解できているか。
・適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得しているか。
・無作為抽出の意義を理解できているか。

テキスト、参考図書
『入門・社会調査法』（第三版）轟・杉野編　法律文化社　2017年
その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【B】〔調査設計と実施方法に関する科目〕に相当する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報・社会調査基礎 (Fundamentals of Information and Social Research)			担当教員	織田　暁子、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2281	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義は、社会調査(量的調査・質的調査)に関する本の論文を読み、社会調査に関する基礎的な理解を目指す。毎回の講義をとおして、情報・社会調査の基礎体力を習得することを目的とする。なお、読む論文の順序は入れ替わることがある。

授業の到達目標

情報・社会調査のスキルと概念を理解したうえで、現代社会を分析する視角として用いることができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション(織田・早川)
第2回：論文講読方法の指導、担当者決定(織田・早川)
第3回：【講義】課題論文の解説(織田)
第4回：論文報告(1)(2)(織田)
第5回：論文報告(3)(4)(織田)
第6回：論文報告(5)(6)(織田)
第7回：論文報告(7)(8)(織田)
第8回：論文報告(9)(10)(織田)
第9回：【講義】課題論文の解説(早川)
第10回：論文報告(11)(12)(早川)
第11回：論文報告(13)(14)(早川)
第12回：論文報告(15)(16)(早川)
第13回：論文報告(17)(18)(早川)
第14回：論文報告(19)(20)(早川)
第15回：まとめ(織田・早川)

授業外の学習方法

新しく学んだ語彙や概念を「社会学辞典」などを用いて調べ、要約し、自分なりに説明できるようにする。

成　績　評　価　方　法

レジュメの作成(40%)、プレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加(20%)

成　績　評　価　基　準

情報・社会調査の基礎体力を習得できたか。講義中に扱った概念を用いて、日常生活世界の分析ができるようになったか。

テキスト、参考図書

必要な場合は講義内で指示します。

その他(受講上の注意)

講義で使用する論文は、保管場所を別途指示します。
必ず各自印刷の上で論文を読み、講義時に持参してください。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査方法論 (Social Data Analysis)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2283	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義では、量的なデータを読み、正しく理解するために必要な統計学の知識について、基礎から説明していく。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶことで、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読めるようにする。

授 業 の 到 達 目 標

・必要に応じて、官庁統計を探し、それを読みこなせるようになる。
・基礎的な統計量について理解できるようになる。
・データをグラフなどを用いて要約できるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：統計データとはなにか
第3回：統計データの入手方法　官庁統計を利用する
第4回：統計データの読み方（1）　単純集計・度数分布
第5回：統計データの読み方（2）　基本統計量：代表値・分散・標準偏差
第6回：小テスト
第7回：統計データをグラフにする（1）　円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ
第8回：統計データをグラフにする（2）　ヒストグラム、散布図
第9回：関連性を探る（1）　相関係数
第10回：関連性を探る（2）　クロス集計表
第11回：関連性を探る（3）　クロス集計表
第12回：小テスト
第13回：相関係数と因果関係　みかけの相関に騙されないために
第14回：質的データのまとめ方
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業中に出された課題に取り組むこと。また、参考書やレジュメを読んで十分に復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）
平常点・小テスト・課題提出（50%）
（平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します）

成　績　評　価　基　準

・必要に応じて、適切な官庁統計を探せているか。また、それを読みこなせているか。
・基礎的な統計量について理解できているか。
・データをグラフなどを用いて要約できるようになっているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

『社会調査のための統計データ分析』　廣瀬毅士・寺島拓幸　オーム社　2010年

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【C】〔基本的な資料とデータの分析に関する科目〕に相当する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

統計学 (Statistics)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2284	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会調査の統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的統計学を学ぶ。まず推測統計の論理として確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論を学び、その後変数間の関連を表す統計量として、クロス表の統計量、相関係数、回帰分析についての基礎を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・統計的データをまとめることができる。
・推測統計に必要な知識と方法を理解している。
・変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っている。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：記述統計と推測統計との違い
第3回：部分から全体を推測する　社会を知るための諸条件
第4回：確率分布について（1）　二項分布・ポアソン分布
第5回：確率分布について（2）　正規分布・t分布
第6回：確率分布について（3）　カイ二乗分布・F分布
第7回：推定の論理（1）　中心極限定理
第8回：推定の論理（2）　信頼区間
第9回：推定の論理（3）　帰無仮説の考え方
第10回：検定の論理（1）　t検定
第11回：検定の論理（2）　カイ二乗検定
第12回：相関係数
第13回：回帰分析
第14回：回帰係数の検定
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めるようにしてください。また、練習問題を解くなど、計算やコンピュータ操作のスキル向上を心がけて下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、授業中の小レポートと受講態度（50%）

成　績　評　価　基　準

・統計的データをまとめることができるか。
・推測統計に必要な知識と方法を理解しているか。
・変数間の関係性を表す統計量の知識と方法を持っているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

『社会調査のための統計学 ── 生きた実例で理解する ──』　神林博史・三輪哲 著　技術評論社　2011年

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【D】〔社会調査に必要な統計学に関する科目〕に相当する。 数学的知識を必要とするが、全員あまり数学的知識を持っていないものとして授業をすすめる。 なお、「社会調査方法論」で学ぶ記述統計学の知識を前提とする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法a (Qualitative Data Analysis a)			担当教員	江南　健志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2285	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

この講義では、まず、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説をおこなう。具体的には、聞き取り調査、参与観察法、会話分析の他、活字や映像などのメディア・テクスト(コンテンツ)に関する質的データの分析法について、実例を通して学ぶ。そのうえで、実習として、インタビュー調査の経験をしてもらう。

授業の到達目標

質的データの収集や分析方法を理解したうえで、実際にインタビュー調査を企画し、実施、報告をおこなうことができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：量的調査の限界
第3回：質的データとは何か
第4回：質的調査の手法(1)　インタビュー調査
第5回：質的調査の手法(2)　参与観察法
第6回：質的調査の手法(3)　会話分析
第7回：質的調査の手法(4)　内容分析(活字メディア)
第8回：質的調査の手法(5)　内容分析(映像メディア)
第9回：インタビューをおこなう(1)　インタビューを企画する
第10回：インタビューをおこなう(2)　対象者を決める
第11回：インタビューをおこなう(3)　インタビューをおこなう
第12回：調査結果をまとめる(1)
第13回：調査結果をまとめる(2)
第14回：質的データの問題点と質的調査の限界
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読する。
インタビューの実施にあたっては、班のメンバーと協力しながら、自主的にこれをすすめていく。

成　績　評　価　方　法

中間テスト(55%)および発表、レポート(40%)と平常点(5%)による。
平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

質的調査法を理解し、インタビュー調査を企画、実施、報告できるか。

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

観光社会学 (Sociology of Tourism)			担当教員	早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2291	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、「観光」という現象を理解するために必要な知識の枠組みを主に社会学・文化人類学の観点から学びます。また地域と観光の関係について、グループワークと個人ワークを通じて考えを深めます。

授 業 の 到 達 目 標

・観光における複数の立場を理解し、観光現象を論じることができる
・自ら必要なデータを収集し、事実に基づいた議論ができるようになる
・コミュニケーション・ツールを活用し、グループワークを運営できる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：観光研究の輪郭 ── 観光社会学と観光人類学
第3回：社会現象としての観光の構造 ── 構成要素と変遷
第4回：RESAS(地域経済分析システム)からみる福井の観光動向
第5回：オルタナティヴ・ツーリズム、エコ・ツーリズム　、Pro-Poor Tourism
第6回：Special Interest Tourism①ー教育志向のツーリズム
第7回：Special Interest Tourism②ー体験志向のツーリズム
第8回：観光とまちづくり、あるいは観光まちづくり
第9回：グループワーク① ── テーマ設定とリサーチ
第10回：スタディ・ツーリズム実習(バスツアー)
第11回：グループワーク② ── データの整理
第12回：グループワーク③ ── コンセプト・メイキング
第13回：グループワーク④ ── ブラッシュアップ
第14回：グループ課題の発表
第15回：講義のまとめデブリーフィング

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：事前課題がある場合は、必ず取り組んでください。
復習：各講義回の資料およびノートを見直し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べてください。
その他、グループワークでは、授業外にもメンバーと連絡を取りながら進めてください。

成　績　評　価　方　法

グループ課題(20%)　最終レポート(50%)　平常点(30%)
平常点は授業への参加状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・観光現象における複数の立場を理解できたか
・各種統計や観察データをもとに観光現象を論じることができたか
・グループのメンバーと共同し、魅力的な観光プランを計画できたか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定のテキストは指定しません。講義中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
・受講者の理解度により講義内容を変更することがあります ・固定メンバーによるグループワークがあるため、責任ある受講を求めます
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲa (English Ⅲa)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2341	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授 業 の 到 達 目 標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授　業　の　計　画

第1回：Introductions
第2回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia　①
第3回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia　②
第4回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline　①
第5回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline　②
第6回：Energy-hungry Nepal：Urban Area　①
第7回：Energy-hungry Nepal：Urban Area　②
第8回：Mid-term Examination / East Timor Now：Medical Situation　①
第9回：East Timor Now：Medical Situation　②
第10回：Born This Way in Thailand：Gender Identity　①
第11回：Born This Way in Thailand：Gender Identity　②
第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums　①
第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums　②
第14回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music　①
第15回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music　②
第16回：Final Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final evaluations.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

English from NHK World TV
Akira Morita, Yukinobu Satake, et al.
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN978-4-7773-6471-8

その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲb (English Ⅲb)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2342	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授 業 の 到 達 目 標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

授　業　の　計　画

第1回：Introductions
第2回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia　①
第3回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia　②
第4回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency　①
第5回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency　②
第6回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas　①
第7回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas　②
第8回：Mid-term Examination / East Timor Now：Mobile Clinics　①
第9回：East Timor Now：Mobile Clinics　②
第10回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women　①
第11回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women　②
第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life　①
第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life　②
第14回：Vietnam's Cultural Revival：Preserving Cultural Assets　①
第15回：Vietnam's Cultural Revival：Preserving Cultural Assets　②
第16回：Final Examination

授 業 外 の 学 習 方 法

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書

English from NHK World TV
Akira Morita, Yukinobu Satake, et al.
MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
ISBN978-4-7773-6471-8

その他（受講上の注意）
Active participation in class is essential for success in this course.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2249	4単位	2年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

カリフォルニア州立大学フラトン校American Language Program（ALP）で語学研修に参加する。現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回（前期）および事後授業5回（後期）も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬～10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2251	2 単位	2年前期･3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験（iパス）」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。

参考　IT パスポート試験シラバス
（https：//www.jitec.ipa.go.jp/ 1 _13download/syllabus_ip_ver 3 _0.pdf）

授　業　の　計　画

テキストに従って進めるが、毎授業の20分間程度は演習問題を採りいれる。
第 1 回：第 1 章 企業と法務（1）
第 2 回：第 1 章 企業と法務（2）
第 3 回：第 1 章 企業と法務（3）
第 4 回：第 2 章 経営戦略
第 5 回：第 3 章 システム戦略
第 6 回：第 4 章 開発技術
第 7 回：第 5 章 プロジェクトマネジメント
第 8 回：第 6 章 サービスマネジメント
第 9 回：第 7 章 基礎理論（1）
第10回：第 7 章 基礎理論（2）
第11回：第 7 章 基礎理論（3）
第12回：第 8 章 コンピュータシステム（1）
第13回：第 8 章 コンピュータシステム（2）
第14回：第 9 章 技術要素（1）
第15回：第 9 章 技術要素（2）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
　　授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。
　　テキスト付録の過去問題を各自実行すること。
　　（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）　演習課題（10%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキスト 『 ITパスポート試験対策テキスト＆過去問題集　平成30-31年度版』 FOM出版　2018年 参考図書 『ITパスポート試験直前対策　1 週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『平成30年度　栢木先生のITパスポート教室』 技術評論社　2017年 『平成30年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2017年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習b (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川　祐一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2252	2単位	2年後期･3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　情報科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。

授 業 の 到 達 目 標

一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。
本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験（iパス）」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。

参考　IT パスポート試験シラバス
（http：//www.jitec.ipa.go.jp/ 1 _13download/syllabus_ip_ver 3 _0.pdf）

授　業　の　計　画

授業は、ITパスポート試験の過去問題演習や問題研究、さらに問題作成に取り組むことを主体とし、前期授業の補足も併せて行う。
第１回：第１章 企業と法務
第２回：第２章 経営戦略
第３回：第３章 システム戦略
第４回：第４章 開発技術
第５回：第５章 プロジェクトマネジメント
第６回：第６章 サービスマネジメント
第７回：第７章 基礎理論
第８回：第８章 コンピュータシステム
第９回：第９章 技術要素
第10回：過去問題研究（１）
第11回：過去問題研究（２）
第12回：知識問題作成演習（１）
第13回：知識問題作成演習（２）
第14回：知識問題作成演習（３）
第15回：作成した知識問題の検証
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。
　　指示したITパスポート試験問題（過去問題）を解いて授業に臨むこと。

復習：重要語句などの確認をすること。
　　採り上げた演習例題については完全理解に努めること。
　　テキスト付録の過去問題を各自実行すること。
　　（延べ所要時間　約30時間以上）

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　CBT模擬テスト等（20%）　レポート課題（30%）

成　績　評　価　基　準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキスト 『 ITパスポート試験対策テキスト＆過去問題集　平成30-31年度版』 FOM出版　2018年 参考図書 『ITパスポート試験直前対策　1 週間完全プログラム　シラバスVer3.0準拠』FOM出版　2016年 『栢木先生のITパスポート試験教室』 技術評論社 2017年 『平成30年度　ITパスポート合格教本』 技術評論社　2017年
その他（受講上の注意）
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(インターンシップ) (Fieldwork Practice (Internship))			担当教員	片畑　真由美、升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2361	2単位	3年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・フィールドワーク科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本授業は、主として「福井県インターンシッププログラム」(3年生対象)に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験(原則として5日間)を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者(福井県外での参加者含む)は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。

授業の到達目標

民間企業や各種団体・自治体等で就業体験(実習)を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。

授　業　の　計　画

●出願・調整期間
4月上旬：インターンシップガイダンス(学内)
4月上旬：志望動機書提出(学内)
4月下旬：面接(学内)　※5月上旬 結果発表
4月下旬：受入企業合同ガイダンス(学外)
5月中旬：エントリーシート締切(学内)
6月上旬：インターンシップ事前研修会(学内)
6月下旬：研修先等の決定
7月中旬：インターンシップ事前研修会(学外)
●研修・就業体験期間
7月上旬～：研修先と事前打合せ
8月上旬～9月末：企業・団体にて就業体験
10月下旬：事後研修会
●レポート提出
11月下旬　※テーマ：インターンシップで学んだこと

授業外の学習方法

予習として、インターンシップ参加までに受入先企業・団体の企業概要や事業内容について事前に調べておくこと。就業体験中は、その日の実習で気づいたことや体験したことを見直して次の日に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

インターンシップ先の評価(35%)、レポート(30%)、平常点(35%)
平常点は事前研修(ガイダンス・面接を含む)の参加状況、参加意欲(志望動機)等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。
就業体験をとおして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。
民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ・受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。 ・授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。 ・第１回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	水田　敏郎、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2164	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授業の到達目標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

4～7月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
8～9月　　現地にて研修
10～11月　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授業外の学習方法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み(50%)　レポート(20%)　プレゼンテーション(30%)

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2165	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

原則としてカリフォルニア州立大学フラトン校での集中講義（2週間）の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（2週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第3回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第4回：事前授業（現地活動の企画等）①
第5回：事前授業（現地活動の企画等）②
第6回：事前授業（現地活動の準備等）①
第7回：事前授業（現地活動の準備等）②
第8回：事前授業（現地活動の準備等）③
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜集中講義（9月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書
特になし
その他（受講上の注意）
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校集中講義以外の履修について】 履修要件：　英語教育センターで（1）～（4）を行うこと （1）留学相談（留学先・方法など決定） （2）審査　　（本科目としての適切性） （3）事前指導（提出書類準備・渡航準備） （4）事後指導（必要な課題提出・単位認定審査） 研修期間：　夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：　夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏季休暇中の実施のみ
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅱ (Psychological Assessment MethodsⅡ)			担当教員	片畑　真由美、渡辺　克徳、青井　利哉
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−F−2310	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学基礎

求める学習成果(教育目標)

心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、実際に検査者と被検者の双方を体験する。これを通して、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。

授　業　の　到　達　目　標

・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できる。
・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できる。
・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができる。
・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。

授　業　の　計　画

この授業では、さまざまな心理検査について体験的学習を行うためにグループ別にて演習を行う。以下のように4週ごとに異なる検査について学ぶ。
第1回：オリエンテーション
第2回：アセスメントにおける心理検査法の役割・レポートの書き方についての説明
第3回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第4回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第5回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第6回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第7回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第8回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第9回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第10回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第11回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）①
第12回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）②
第13回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）③
第14回：質問紙法検査（YG、CMI）・投影法検査（風景構成法・P-Fスタディ）・知能検査（WAIS-Ⅲ）④
第15回：演習の振り返りとまとめ

※各検査の担当者は［　　］に示す通りである。質問紙法検査［青井］、投影法検査［片畑］、知能検査［渡辺］

授　業　外　の　学　習　方　法

予習：テキストおよび参考文献を用いて各回で取り上げる心理検査について予習し、基本的な事柄について理解しておくこと。
復習：授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらない場合は、残った作業を遂行して次回の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

授業への参加状況や受講態度（60%）、検査ごとに作成する課題レポート（30%）、演習全体を通した小レポート（10%）などから総合的に評価する。心理検査を用いた演習を行うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準
・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できるか。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できるか。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができるか。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できるか。
テキスト、参考図書
＜テキスト＞願興寺礼子・吉住隆弘（編）「心理検査の実施の初歩」（ナカニシヤ出版,2011年発行） そのほか、各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。
その他（受講上の注意）
・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理（授業時に説明）を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅰ (Psychiatry Ⅰ)			担当教員	三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2323	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

精神医学は日本が近代化される中で構築された。そこには日本の近代化の遅れが投影されている。その歴史を学び改善をする方向性について、外国のシステムを参考にしながら考える。具体的な病気についても、重い病気を中心に学ぶが、それが軽症化してきている現代社会の特徴についても考える。

授業の到達目標

歴史をふまえて日本の精神医療がどのように成立したか説明でき、他国と比較でき、これからの姿を各自で考えられること。さらに疾患の基礎知識を獲得すること。

授　業　の　計　画

第1回：精神病院の様子の紹介
第2回：近代精神医学の歴史　日本1
第3回：近代精神医学の歴史　日本2
第4回：近代精神医学の歴史　ヨーロッパ1
第5回：近代精神医学の歴史　ヨーロッパ2
第6回：精神障害と犯罪
第7回：統合失調症1
第8回：統合失調症2
第9回：地域と病院の協力のしかた1
第10回：地域と病院の協力のしかた2
第11回：気分障害（躁鬱病）1
第12回：気分障害2
第13回：気分障害3（若者の鬱）
第14回：パニック障害1
第15回：パニック障害2
第16回：定期試験

授業外の学習方法

精神医療に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、まず精神医療の歴史に関する本を図書館で探すとよい。病気に関しては、病名が本の題名になっている本を探すとよい。

成　績　評　価　方　法

レポートも期末テストと同時に提出。期末テスト70%レポート30%で評価する。
テストにはかならずテキストを持ち込むこと。持ち込まないと、テストは受けられない。

成　績　評　価　基　準

日本の精神医療がどのように成立したかレポートを書かせ確認する。疾患の基礎知識についてテストを行い確認する。

テキスト、参考図書

テキスト・多賀茂　三脇康生「医療環境を変えるー制度を使った精神療法の実践と思想」京都大学学術出版会2008年
テキストの購入方法：
下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が2割引きされます。
http：//www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784814000296
クーポンコード：CS1805（有効期限2018/ 5 /31）
なお、学内でのテキスト販売にて購入の場合は定価（6,156円）になります。

その他（受講上の注意）

学則上は5回まで欠席は認められているが、この講義では文系理系の多様な分野を扱うので3回までしか認めない。公式の用事がある場合は欠席に数えない。証明書を提出すること。まずこれをクリアーしたらテストを受けられる。
私語は一切禁じる。二度注意されたら自ら教室を去ること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅱ (Psychiatry Ⅱ)			担当教員	三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOO-2324	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

精神医学1は原因がわからない重病について学んだが、精神医学2ではその原因が現代社会で問題になっている病について学ぶ。災害や職場や学校での暴力から生じる病について学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

現代はハラスメント社会とも呼ばれる状況にある。この外的なトラウマと精神分析的な精神的なトラウマの関係はフロイトですら明確には出来なかった。この二つのトラウマについて考え、各自の意見をこの問題に持てるようになり、ハラスメント社会を生き抜く方法を考える、

授　業　の　計　画

第1回：PTSDとは何か1
第2回：PTSDとは何か2
第3回：PTSDとは何か3
題4回：PTSDとは何か4
題5回：PTSDとは何か5
題6回：解離と多重人格1
題7回：解離と多重人格2
第8回：人格障害1
題9回：人格障害2
第10回：社会的ひきこもり（摂食障害の説明も含む）1
題11回：社会的引きこもり2
第12回：社会的引きこもり3
第13回：東日本大震災特講
第14回：性同一性障害
第15回：現代社会において、それぞれ個人でできることは何だろうか？
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

PTSDやハラスメントに関する本を図書館で読むこと。自分がバイトさきなどで経験したことを分析して考察することも出来る。

成　績　評　価　方　法

平常点20パーセント　期末テスト50パーセント　レポート30パーセント
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

ハラスメント社会を深く理解し、それを切り抜ける方法を身につけたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

参考図書　就労と教育システムに関して：
大野正和『自己愛化する仕事』l労働調査会　2011年　（レポートを書くとき必ず必要）
参考書　PTSDへのアートセラピーに関して：
三脇康生他　『アート×セラピー潮流』　フィルムアート社　2002年

その他（受講上の注意）
私語は厳禁とする。二度注意を受けたら自から教室を去ること。東日本大震災の講義は実施時期がゲスト講師の都合により変わり得るので注意すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABO-2332	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

教育とは、子どもの発達と自己形成の支援を行うものである。このような「教育」について、心理学の視点から考える学問が教育心理学である。
本講義では，児童・生徒の発達や学習、人間関係に関する特徴について学び、各子どもに適切な学習指導や生徒指導について考察する。また標準的発達とは異なる特徴を示す児童・生徒についても，知識や理解を深め，彼らへの支援法について考えていく。

授業の到達目標

①児童・生徒の発達や学習の特徴，障害について，基本的な知識を習得できる
②教育心理学の理論や知見を基に学校教育について考えることができる
③現在の教育上の問題について，考察することができる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　教育と発達
第2回：学習（条件づけ）
第3回：記憶
第4回：動機づけ（欲求と意欲）
第5回：動機づけ（動機づけ要因）
第6回：学習指導法
第7回：知能
第8回：まとめと中間評価
第9回：教育評価
第10回：認知的発達
第11回：社会性の発達
第12回：学校不適応行動の理解
第13回：学級集団の心理学
第14回：キャリア教育
第15回：発達障がいと特別支援教育
第16回：まとめと期末評価

授業外の学習方法

予習について，日頃から教育に関連する書籍・新聞を読み，興味を持って授業に臨むこと。
復習について，授業ごとに課題を出すので，授業や配布された資料を基に課題をまとめること。

成　績　評　価　方　法

成績評価には，①毎回提出する小レポート（30%），②中間評価（30%）　期末評価（40%）で総合的に評価をする。

成　績　評　価　基　準

①児童・生徒の発達や学習の特徴，障害について，基本的な知識をどの程度習得できているか
②教育心理学の理論や知見を基に学校教育について，どの程度適切に考えることができるか
③現在の教育上の問題について，どの程度論理的・具体的に考察することができるか

テキスト、参考図書
・テキストは指定しない。授業ごとに資料を配布する。 ・参考図書：櫻井茂男（編）たのしく学べる教育心理学　図書文化　ISBN978-4-8100-7690-5 2000円+税 ・参考図書：富永大介他（編）　教職をめざすひとのための発達と教育の心理学　ナカニシヤ出版　ISBN978-4-7795-1067-0　2200円+税
その他（受講上の注意）
毎回の講義に小レポートの提出を課すので，必ず講義に出席し小レポートを提出すること。講義では，自分の意見をまとめ表現できるよう，心がけてほしい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族心理学 (Family Psychology)			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2337	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

1. 家族の定義と，現在の家族の状況について学ぶ。
2. 家族の発達過程と，各発達段階に生じる問題について学ぶ。
3. 家族を対象とした臨床的援助について学ぶ。
4. 時代や社会により異なる家族像を知り，地域（福井）に対する理解を深める

授 業 の 到 達 目 標

・家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について説明することができる。
・現在社会の家族が抱える問題について分析し，心理学的視点から考察することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーションおよび序論
第2回：家族とは何か（テキスト第1章）
第3回：家族の健康とは（テキスト第2章前半部）
第4回：家族のライフコースと発達段階（テキスト第2章後半部）
第5回：家族づくりの準備段階（テキスト第3章）
第6回：夫婦の発達（テキスト第4章）
第7回：主要理論のまとめと中間評価
第8回：子どもが育つ場としての家族（テキスト第5章）
第9回：変化する社会の中の家族1（テキスト第6章前半部）
第10回：変化する社会の中の家族2（テキスト第6章後半部）
第11回：家族療法の理論と技法（テキスト第7章）
第12回：家族の変化に役立つ臨床的援助技法（テキスト第8章）
第13回：家族への臨床的アプローチの実際（テキスト第9章）
第14回：福井県の人々の心理的社会的特徴
第15回：福井県の家族の心理的社会的特徴
第16回：まとめと期末評価

授 業 外 の 学 習 方 法

予習について，家族に関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み，興味を持って授業に臨むこと。
復習について，授業ごとに課題を出すので，授業内容と配布するプリントに基づき課題をまとめておくこと。課題に対する評価は，中間評価や期末評価を用いて判断する。

成　績　評　価　方　法

成績評価には，①毎回提出する小レポート（30%），②中間評価（30%）　③期末評価（40%）をもって総合的に評価をする。

成　績　評　価　基　準

・家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について，心理学用語を用いて説明することができるか。
・現在社会の家族が抱える問題について分析・考察し，自分の意見を適切に表現できるか。

テキスト、参考図書

平木典子・中釜洋子（共著）家族の心理－家族への理解を深めるために－　梅本堯夫・大山　正（監修）ライブラリ実践のための心理学3　サイエンス社　ISBN4-7819-1144-7

その他（受講上の注意）
本講義はCOC+開講科目である。 授業内では，仲間と説明をし合ったり，話し合いをする時間を設ける。よって，単に授業を聞くだけでなく，自分の意見をまとめ人に説明するような積極的態度を持って授業に臨むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツ心理学 (Sport Psychology)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBC-2338	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　基幹科目　心理学専門

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

スポーツ心理学は応用科学としてスポーツ行動における心理学的事象を解明し、それらに対処できるようにすることを目的としたものである。スポーツ全般における心理学的な諸問題をとりあげ今日までの研究成果に基づいて学習する。

授 業 の 到 達 目 標

運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて理解できる。

授　業　の　計　画

第1回：スポーツ心理学とは
第2回：スポーツと発達
第3回：運動の制御機構①
第4回：運動の制御機構②
第5回：運動の学習と指導①
第6回：運動の学習と指導②
第7回：スポーツにおける動機づけ
第8回：スポーツの社会心理
第9回：運動による健康の増進
第10回：競技心理①
第11回：競技心理②
第12回：メンタルトレーニング①
第13回：メンタルトレーニング②
第14回：スポーツ臨床①
第15回：スポーツ臨床②
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、身の回りにおけるスポーツや運動に観察される事象にあてはめて理解を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて説明できる。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。参考図書　中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著「よくわかるスポーツ心理学」ミネルヴァ書房 2012、荒木雅信編著「これから学ぶスポーツ心理学」大修館書店 2011

その他(受講上の注意)

スポーツや運動に関するできごとや情報に積極的に関心を向けること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法論Ⅰ (Theory of Psychotherapy Ⅰ)			担当教員	森　　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2351	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

さまざまな心理療法の考え方について学ぶとともに、そうした考え方を参考に自分自身の心の健康をめざすための方略について考える。

授 業 の 到 達 目 標

・代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解する。
・自分自身の心の健康法について考える。

授　業　の　計　画

第1回：心理療法とは
第2回：無意識を理解する（精神分析的心理療法）①
第3回：無意識を理解する（精神分析的心理療法）②
第4回：クライエントを尊重する（来談者中心療法）①
第5回：クライエントを尊重する（来談者中心療法）②
第6回：行動を変える（行動療法）①
第7回：行動を変える（行動療法）②
第8回：認知を変える（認知行動療法）
第9回：身体をリラックスさせる（自律訓練法）
第10回：人間関係を分析する（交流分析）
第11回：自己を表現する（芸術・表現療法）
第12回：家族で解決する（家族療法）
第13回：集団で解決する（集団療法）
第14回：日本生まれの心理療法を考える（森田療法・内観療法）
第15回：まとめ
第16回：期末試験

授 業 外 の 学 習 方 法

授業の終わりに、次の授業までにしておいてほしいことを指示する。
とくに指示がない場合も、複数の心理療法の説明の中で共通することはないか、自分なりに考えること。また、心の健康にとって何が大切かを自分なりに考えること。
授業内容に関する質問等がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験（80%）と、授業中に指示する課題や授業中の態度（20%）から、評価する。

成　績　評　価　基　準

・代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解し、説明できるか。
・自分自身の心の健康法について考えることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。
参考書は授業中、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法論Ⅱ (Theory of Psychotherapy Ⅱ)			担当教員	稲木　康一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2352	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

各領域における心理療法（心理学的支援法）の実践事例を学習する。また、臨床実践における留意点を理解する。

授 業 の 到 達 目 標

代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応を概説できる。地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、プライバシーへの配慮、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について概説できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：精神分析療法（代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界）
第3回：来談者中心療法と行動療法（同上）
第4回：受理面接①：ラポール・主訴・経過の聴き方（良好な人間関係を築くコミュニケーション）
第5回：受理面接②：援助構造・面接記録・守秘義務（プライバシーへの配慮）
第6回：医療①：抑うつに対する認知行動療法
第7回：医療②：抑うつに対する認知行動療法（プライバシーへの配慮と多職種連携）
第8回：産業①：バーンアウトに対する評価と介入
第9回：産業②：バーンアウトに対する評価と介入（論理情動行動療法にもとづく心の健康教育）
第10回：教育①：スクールカウンセリングの実際（良好な人間関係を築くコミュニケーション）
第11回：教育②：高校生に対するストレスマネジメント（心の健康教育）
第12回：教育③：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（要支援者の関係者への支援）
第13回：福祉①：ぜんそく予防の応用行動分析（地域支援の意義）
第14回：福祉②：ぜんそく予防の応用行動分析（心の健康教育）
第15回：まとめと定期試験対策
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

講義ノートや補助資料をもとに復習してください。参考図書（文献）を読み、自学自習に取り組んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（30%）　小レポート（30%）　平常点（40%）
（小レポートは講義中に指示します。平常点は受講態度やリアクション・ペーパーの提出状況などを総合評価します。）

成　績　評　価　基　準

講義で取り上げた心理療法について説明できる。地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について理解できる。また、プライバシーへの配慮と関係者との情報共有のかねあいについて意見を持つ。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて補助資料を配布します。参考図書（文献）は講義中に、適宜、紹介します。

その他(受講上の注意)

講義ノートを作成してください。講義終了後、成績評価対象となるリアクション・ペーパーの提出を求めます。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

アイデンティティ心理学 (Identity Psychology)			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2353	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

「本当の自分」とは何か、深層心理学の立場から考える。

授 業 の 到 達 目 標

・「本当の自分」とか「本当の幸福」が何か、自ら論理的(心理学的＝哲学的)に考え、イメージとしても思い描くことができる。
・本来的自己と非本来的自己、性別など、アイデンティティの問題について自ら考えたことに基づいて、自分の将来像や人生設計を構築することができる。
・アイデンティティの問題が心の病理と本質的な繋がりのあることを理解し、心を病んだ人の気持ちを理解し、寄り添うことができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ラカンの鏡像段階
第3回：ラカンの現実界
第4回：話す主体はどのように成立するか
第5回：幻想
第6回：欲望
第7回：離人症
第8回：解離性障害
第9回：摂食障害(拒食)
第10回：摂食障害(過食)
第11回：境界性パーソナリティ障害
第12回：本来的自己とは何か
第13回：女性とは何か
第14回：宗教的アイデンティティ
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象と重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・深層心理学の考え方を自ら思索し直しつつ、「本当の自分」や「本当の幸福」を思索できるか。
・その上で、自分の将来像や人生設計を構築し、その意義を論理的(心理学的＝哲学的)に説明することができるか。
・心を病む人におけるアイデンティティの問題が何かを理解し、その心に寄り添う姿勢を持つことができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない。プリント資料を配布する。

その他（受講上の注意）
質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

犯罪心理学 (Criminal Psychology)			担当教員	廣井　亮一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2354	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

講義内容を3部で構成する。
第1部では、少年犯罪の現状をもとに現代の少年犯罪の特徴を考察する。
第2部では、少年非行の歴史的変遷をもとに、非行や犯罪につながる「攻撃性」の質的変質を説明したうえで、現代の社会問題になっている児童虐待と非行、現代型いじめについて講義する。
第3部では、ストーカー犯罪についての解説を行いながら司法臨床の必要性を明?する。
＊以上について、ワークとディスカッションを行いながら講義をすすめる。

授　業　の　到　達　目　標

・非行少年や犯罪者を十分に理解して、彼らの更生の援助ができる。
・人と人との関係性を修復することができる。

授　業　の　計　画

第1回：講義の進め方、犯罪心理学への導入
第2回：現代の少年犯罪の特徴　ワークとディスカッション
第3回：少年犯罪の現状　ワークとディスカッション
第4回：非行少年　ワークとディスカッション
第5回：少年事件と家庭裁判所、犯罪者と地方裁判所
第6回：少年非行の歴史的変遷－その1
第7回：なぜ人を殺してはいけないのか　ワークとディスカッション
第8回：少年非行の歴史的変遷－その2　ワークとディスカッション
第9回：愛着障害と非行－広島少女遺体遺棄事件
第10回：現代型いじめ　ワーク
第11回：現代の子どもの死生観　とディスカッション
第12回：ストーカー犯罪の理解と対応 ── 逗子ストーカー事件をもとに
第13回：ストーカー犯罪の検証 ── 大阪府警の100ケースをもとに
第14回：非行・犯罪と攻撃性と依存性
第15回：テストとまとめ

授業外の学習方法

予習として、テキストの各回に関連する該当頁を読んでおくこと。
復習として、テキストを再読し、配布された資料で再確認すること 。

成　績　評　価　方　法

テスト(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
平常点は、受講マナー、授業の取り組み等を総合的に判断

成　績　評　価　基　準

テストは授業の理解度、小レポートは論旨を明瞭に記述できるか、平常点は出席と授業態度

テキスト、参考図書

テキスト：『司法臨床入門－第2版』廣井亮一著 日本評論社 2012 1800円＋税
ISBN978-4-535-56307-0

その他（受講上の注意）
＊テキストは講義とテストに使用するので、各自必ず準備すること。テストでは、テキストの現物のみ持ち込み可（コピー等は不可）。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理演習 (Clinical Psychology Training)			担当教員	森　　俊之、片畑　真由美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABO-2355	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

3クラスに分かれ、いずれかの教員の指導のもと、ペアまたは少人数のグループで、いろいろな対話や表現を体験する。これらの体験を通して、自己理解・他者理解を促すとともに、傾聴などカウンセリングの基本的態度を身に付ける。

授業の到達目標

カウンセリングにおける話の聴き方の基本を理解する。
自分自身のコミュニケーションの特徴について理解する。
ものの捉え方や考え方、コミュニケーションの仕方などの多様性について考える。
他者と円滑にコミュニケーションできる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　【担当：森、片畑】
第2回：自他理解のためのグループ体験①　【担当：森、片畑】
第3回：自他理解のためのグループ体験②　【担当：森、片畑】
第4回：自他理解のためのグループ体験③　【担当：森、片畑】
第5回：自他理解のためのグループ体験④　【担当：森、片畑】
第6回：自他理解のための表現体験①　【担当：森、片畑】
第7回：自他理解のための表現体験②　【担当：森、片畑】
第8回：自他理解のための表現体験③　【担当：森、片畑】
第9回：自他理解のための表現体験④　【担当：森、片畑】
第10回：傾聴のための基本技法と実践①　【担当：森、片畑】
第11回：傾聴のための基本技法と実践②　【担当：森、片畑】
第12回：傾聴のための基本技法と実践③　【担当：森、片畑】
第13回：傾聴のための基本技法と実践④　【担当：森、片畑】
第14回：傾聴のための基本技法と実践⑤　【担当：森、片畑】
第15回：まとめ　【担当：森、片畑】
※第1回の際にグループ分けを行い、第2回以降については、いずれかの教員のもとで演習を行う。

授業外の学習方法

授業時に、随時、次の授業までにしてきてほしい課題を指示する。

成　績　評　価　方　法

授業中に課す課題(60%)と授業への参加態度(40%)で評価する。
授業への参加態度については、演習活動への積極性や授業中の発言の内容などから総合的に評価する。
授業への出席を重視し、欠席は厳しく減点する。

成　績　評　価　基　準

カウンセリングにおける話の聴き方の基本について説明できるか。また、それを模擬的に実践できるか。
自分自身の考え方やコミュニケーションなどの特徴について説明できるか。
考え方やコミュニケーションの仕方の多様性について考えられるか。
他者と円滑にコミュニケーションが行えるか。

テキスト、参考図書
授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。
その他（受講上の注意）
授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

比較心理学 (Comparative Psychology)			担当教員	氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBO-2361	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

動物の行動や認知機能について比較分析した諸研究を紹介しながら，比較心理学がどのような学問であるかの理解を深める。

授 業 の 到 達 目 標

科学原則に則った心理学の研究法を説明できる。
様々な認知機能について，ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できる事。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス・比較心理学とは
第2回：比較心理学の歴史
第3回：比較心理学の研究手法
第4回：動物の感覚の特徴
第5回：動物の知覚過程
第6回：動物の学習について
第7回：動物の学習過程
第8回：動物の記憶－1－
第9回：動物の記憶－2－
第10回：動物の思考過程－1－
第11回：動物の思考過程－2－
第12回：動物の概念形成
第13回：動物のコミュニケーション
第14回：動物の社会的認知
第15回：動物の心の理論
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：次回の講義内容について，参考図書などを用いて関連箇所を調べておくこと。
復習：毎回の授業内容を各自ノート等にまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験(65%)　小テスト3回(10%)　平常点(25%)
(平常点は，授業への参加状況，受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

科学原則に則った心理学の研究法を説明できるか。
様々な認知機能において，ヒトとヒト以外の動物におけるそれぞれの特徴を説明できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要な資料を随時配布する。
参考図書：「比較認知科学への招待～こころの進化学～」藤田和生著 ナカニシヤ出版
「心の進化～人間性の起源をもとめて～」松沢哲郎・長谷川寿一編 岩波書店

その他(受講上の注意)

質問等があった場合は出欠カードの裏に書いてもらえれば次回の授業で回答していきますので，積極的に質問をしてください。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

神経心理学 (Neural Psychology)			担当教員	森本　文人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABO-2362	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

様々な心的活動と神経系の機能との関連性について、身近な医療臨床場面で見られる症状や身近な知覚・認知の例（錯覚など）、あるいは最新の脳科学および実験心理学の知見を通して概観します。

授 業 の 到 達 目 標

■局在論に基づいた脳の基礎的な構造と心的機能の関連について基礎的な知識を獲得する。
■高次脳機能障害として扱われる代表的な症例を理解する。
■認知神経心理学的観点から，脳機能を測定する実験研究について理解する。

授　業　の　計　画

臨床神経心理学および認知神経心理学と呼ばれる神経系と心理過程の関連を探求する分野の各種トピックについて、各回で取り上げ紹介します。
第1回：オリエンテーション
第2回：脳外観
第3回：全体論と局在論
第4回：脳神経科学研究法　脳機能測定法
第5回：神経系の構造　ニューロン
第6回：視覚神経系
第7回：聴覚神経系
第8回：半側空間無視・失認
第9回：嗅覚・味覚神経系
第10回：共感覚・だまされる脳
第11回：錯覚と神経系
第12回：高次脳機能障害
第13回：認知症
第14回：失行 言語障害
第15回：記憶障害
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の講義終了後、スライドおよび板書に基づいてその内容を各自で整理してください。講義で扱うトピックは日々の生活の中に溢れているため、身近な日常に当てはめて、さらに理解を深められるように心構えしておいてください。また、脳科学および医療臨床における最新の知見は、各種メディアなどで取り上げられることも多いため、それらにアンテナを張って、貪欲に知識を得る心構えを日常的にしておくことが望ましいです。

成　績　評　価　方　法

定期試験（85%）平常点（15%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合評価する）

成　績　評　価　基　準

■局在論に基づいた脳の基礎的な構造と心的機能の関連について理解しているか。
■高次脳機能障害として扱われる代表的な症例を理解しているか。
■認知神経心理学的観点から，脳機能を測定する実験研究について理解しているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅰ (Experiments in Psychology Ⅰ)			担当教員	水田　敏郎、大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBO-2363	2単位	3年前期	実験	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学、特に生理心理学的実験研究の全過程について実習を行う。実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画の立案と実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。特定の心理機能に注目し、その働き、メカニズムや変化を反映する指標とその記録や分析の方法を実習を通じて学ぶ。本授業では、感情・コミュニケーション・言語・注意・認知・記憶などの心理機能を主題として扱う。実験上の独立変数は先行研究（文献）の講読を通じて学生自身が選択し、従属変数にはテーマに即した生理心理学的指標・各種行動指標・質問紙などによる認知尺度（いずれも必須）を用いる。これらの過程で、生理心理実験で用いる機器・装置類の取り扱い方や、各種刺激づくりを学生自らが体験、習得する。また、実験内容をレポートにまとめ、最終発表会を行うことで論文作成とプレゼンテーションのスキルを培う。

授　業　の　到　達　目　標

自ら進んで課題を設定する。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき履修者同士が協力して実行することができる。生理心理学的指標を中心に、様々な心理機能の評価に適した従属変数や尺度を用いることが出来る。実験結果に対して理論的に考察をすることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：生理心理学実験の基礎とその技術
第3回：生理心理学実験の応用とその技術
第4回：生理心理学実験に関する文献検索と講読（目的と実験計画の設定＊1）
第5回：コンピュータによる実験刺激の作製①、実験計画発表①
第6回：コンピュータによる実験刺激の作製②、実験計画発表②、レポートの書き方①
第7回：予備実験①、生理心理学的指標のデータ分析①、レポートの書き方②
第8回：予備実験②、生理心理学的指標のデータ分析②、行動指標・認知系尺度の分析、実験計画発表③
第9回：本実験①＊1、2
　　A（感情・コミュニケーション・言語）　B（注意・認知・記憶）
　　＊1：学生は4～5人のグループに分かれ、上記AまたはBの中からテーマを選び実験を実施する。
　　＊2：生理心理学的指標、行動指標、認知系尺度（質問紙）を全グループが記録・分析する。
第10回：本実験②、データ分析①
第11回：本実験③、データ分析②
第12回：本実験④、データ分析③
第13回：本実験のデータ分析④と中間発表
第14回：研究発表会の準備、レポートと抄録の作成準備
第15回：研究発表会（プレゼンテーション・ソフトを使用）

全15回すべてを2名の教員が担当する。

授　業　外　の　学　習　方　法

生理心理学的実験に関する論文や卒業研究などに触れることで、課題設定の方向性や具体的な実験方法について知ることができます。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）　平常点（40%）
（平常点は、授業の参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準
自ら進んで課題を設定することができるか。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づきj実験者同士が協力して実験を実施することができるか。生理心理学的指標を中心に、様々な心理機能の評価に適した従属変数や尺度を用いることが出来るか。実験結果に対して理論的に考察をすることができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ巻　堀忠雄・尾崎久記監修　北大路書房 認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　日本心理学会認定心理士資格認定委員会編　金子書房
その他（受講上の注意）
原則として、心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。少人数グループでの活動が多くなります。個人の役割が明確になるので、責任感をもって課題に取り組んでください。実験実験は長時間におよぶこともあります。授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要があります。２年次の生理心理学を履修し、人間の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅱ (Experiments in Psychology Ⅱ)			担当教員	水田　敏郎、大森　慈子、氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBO-2364	2単位	3年後期	実験	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学における実験的研究のなかで用いられる行動指標の記録方法と解析技術を、実験実習を通じて身につける。具体的には、人や動物（ラット）を対象にして行われる心理学実験を数週間にわたり実施する。その中で、行動観察・記録に用いる測定装置に関する基本的知識、取り扱い技術を学び、実際に記録したデータを解析し、結果に対する考察を行う。

授 業 の 到 達 目 標

■自ら進んで課題が設定できる。
■実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。
■実験で用いる装置の基本的な知識をもち、適切に取り扱うことができる。
■人や動物の様々な行動を客観的に分析できる。
■関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
　①心理学実験で用いられる行動指標について（授業全般、テーマ共通の概要）
　②学生を方法論に基づいて設けられたテーマ別に3グループ（A：単一被験者を対象とした実験、B：2人以上の小集団を対象とした実験、C：動物（ラット）を対象とした実験）に分け、オリエンテーションを行う。

テーマは以下のA、B、C。
履修学生は5週間ごとに、3テーマ（小クラス）を移動（ローテーション）する。

A：単一被験者を対象とした実験（担当：水田）
　①単一被験者を対象とした実験で用いられる行動指標（文献講読）・・・・・1週
　②単一被験者を対象とした実験で用いられる行動指標の測定（モーションキャプチャー、データグローブ等を用いた各種身体運動の記録、バイオセンサー等を用いた活動量の記録）・・・・・1週
　③実際の実験を計画・実施・・・・・2週
　④③で行った実験データの行動解析と考察・・・・・1週（次週レポート提出）

B：2人以上の小集団を対象とした実験（担当：大森）
　①2人以上の小集団を対象とした実験で用いられる行動指標（文献講読）・・・・・1週
　②2人以上の小集団を対象とした実験で用いられる行動指標の測定（アイマークレコーダ――等を用いた視線行動の記録、小集団活動場面のＡＶ記録に基づく会話分析と行動解析）・・・・・1週
　③実際の実験を計画・実施・・・・・2週
　④③で行った実験データの行動解析と考察・・・・・1週（次週レポート提出）

C：ラットを対象とした実験（担当：氏田）
　①ラットなどの動物を対象とした実験で用いられる行動指標（文献講読）・・・・・1週
　②ラットを対象とした実験で用いられる行動指標の測定（オープンフィールドや回転輪等を用いた活動量の記録、各種迷路を用いた学習実験での移動軌跡等の記録）・・・・・1週
　③実際の実験を計画・実施・・・・・2週
　④③で行った実験データの行動解析と考察・・・・・1週（次週レポート提出）

授業外の学習方法

実験心理学や生理心理学に関連する文献や卒業研究などを参考に、課題設定の方向性や具体的な実験方法について調べておくこと。
得られた実験データは、その都度、ノートにまとめたりパソコンなどに入力しておくこと。

成績評価方法

実験レポート（60％）、平常点（40％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）

成績評価基準

■自ら進んで課題が設定できるか。
■実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。
■実験で用いる装置の基本的な知識をもち、適切に取り扱うことができるか。
■人や動物の様々な行動を客観的に分析できるか。
■関連文献を適切に講読し、実験結果に対して理論的な考察をすることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しないが実験実習マニュアルを配布する。
参考図書：「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ巻　堀忠雄・尾崎久記監修　北大路書房
認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　日本心理学会認定心理士資格認定委員会編　金子書房

その他（受講上の注意）

原則として、心理学特殊実験Ⅰの単位を修得していること。実験は長時間に及ぶこともあり、授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要がある。また、人や動物の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

高齢者心理学 (Psychology of Aging)			担当教員	水上　喜美子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2365	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

高齢者の心理を理解するために、人間関係や社会参加などの社会的側面および身体機能やもの忘れなどの生理的側面についても知識を深め、高齢者と関わる上で必要な知識を習得することを目的とする。また、高齢期は「喪失の時期」であるとも言われており、このような喪失体験に対して、どのような心理的な援助ができるのかについても考えていく。

授業の到達目標

・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解する。
・高齢期における加齢の変化について理解し、自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができる。

授　業　の　計　画

講義形式ですすめる。必要に応じて視聴覚教材を用いながら、高齢期の心理的特徴と行動について学んでいく。
第1回：オリエンテーション
第2回：高齢社会とエイジズム
第3回：生涯発達と高齢期
第4回：加齢による変化①身体機能
第5回：加齢による変化②記憶・知能・知恵
第6回：加齢による変化③人格
第7回：高齢期の人間関係①家族・きょうだい
第8回：高齢期の人間関係②友人・近隣
第9回：高齢期の心理的問題①死
第10回：高齢期の心理的問題②性
第11回：高齢期の心理的問題③うつ・不安
第12回：高齢期の心理的問題④認知症
第13回：高齢者に対する心理的援助①
第14回：高齢者に対する心理的援助②
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

授業の計画を参考に、次回の授業テーマについて、関連のある書籍や論文などに目を通すことが望ましい。また、日常生活の中で、高齢者に関するニュースなどに関心を持つだけでなく、身近な高齢の方々と接する機会を大切にしてほしい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)、平常点(40%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、小課題などから総合的に判断します)

成　績　評　価　基　準

・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解できたか。
・高齢期における加齢の変化について理解し、説明できるか。
・自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

消費者心理学 (Consumer Psychology)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBC-2371	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

私たちは毎日何気なく消費行動を行っている。一方で企業は、どのようなモノやサービス、状況であれば消費行動が行われるのか研究し、戦略を練る。消費者マインドがどのような法則に従って変動するのか、企業はそれをどのように捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れながら解説する。
講義では消費者行動の基礎的な知識を習得するとともに、国内外における企業のマーケティング戦略をとりあげながら応用について学んでいくこととする。

授業の到達目標

1）消費者心理学における基本的な概念を理解する。
2）消費行動や意思決定について理解する。
3）消費者リスクについて理解する。
4）実社会における企業戦略について理解する。

授　業　の　計　画

第1回：消費者心理について
第2回：行動経済と心理学
第3回：消費者の意志決定（1）
第4回：消費者の意思決定（2）
第5回：消費者の意思決定（3）
第6回：消費者の意思決定（4）
第7回：消費者の態度（1）
第8回：消費者の態度（2）
第9回：消費者の態度（3）
第10回：広告と消費行動（1）
第11回：広告と消費行動（2）
第12回：インターネット上の消費行動
第13回：企業戦略と悪徳商法
第14回：口コミと消費行動消費ゲーム
第15回：まとめ

授業外の学習方法

講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。
各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　課題レポート40%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

消費者行動についての基本的概念が理解できたか。
消費者リスクについて説明できたか。
実社会における企業戦略を分析できたか。

テキスト、参考図書

授業中に資料を配布する

その他（受講上の注意）
基本的に講義形式。より理解を深めるため、必要に応じてVTRなどの考察、実際の消費行動についての分析、グループ討議を行うことがある。その際、レポート課題の提出を求めることがある。また、QRコードを読み込み、回答を送信するシステムを利用し、受講者の行動について即座に回答を求める事がある。その際、スマートフォン又はPCが必要となる（現在、殆どの学生がスマートフォンで対応）。回答時以外でのスマートフォンの利用は不可。 よって、携帯持参、又はPCにより課題を閲覧できるようにしておくことが必要。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

対人心理学 (Interpersonal Psychology)			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2372	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会動物であるヒトが生活していくうえで欠かせない人間関係における心理、すなわち、心の対人的側面について学ぶ。対人認知、対人行動、他者存在といった主要なテーマに加え、発達過程や文化的な問題まで、さまざまな先行研究や実験例を概観しながら理解を深める。

授 業 の 到 達 目 標

■人間関係における心理について理解を深める
■心理学の対人的な領域に関する主要な人物および成果の知識を得る
■心理学の対人的分野における基本的な用語や内容の説明ができる

授　業　の　計　画

第1回：対人心理学とは
第2回：対人認知と印象形成（1）
第3回：対人認知と印象形成（2）
第4回：コミュニケーションと対人行動（1）
第5回：コミュニケーションと対人行動（2）
第6回：コミュニケーションと対人行動（3）
第7回：感情と表情（1）
第8回：感情と表情（2）
第9回：視線行動（1）
第10回：視線行動（2）
第11回：対人距離とタッチ（1）
第12回：対人距離とタッチ（2）
第13回：他者存在と自己呈示（1）
第14回：他者存在と自己呈示（2）
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍などを読み、予備知識を得ておく
復習として、講義内容に基づいて各自が記したノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める

成　績　評　価　方　法

期末レポート(60%)　コメントペーパー(20%)　平常点(20%)
（平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

■人間関係における心理について理解しているか
■心理学の対人的な領域に関する主要な人物および研究成果を知っているか
■心理学の対人分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しない
参考図書については適宜紹介する

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅠ (Industrial Counseling Ⅰ)			担当教員	稲木　康一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2374	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

産業領域の心理臨床について、職場のメンタルヘルス対策の実際を学習する。ストレス理論を理解し、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」にそって、セルフケアの知識と方法について理解を深める。

授 業 の 到 達 目 標

職場のメンタルヘルス対策について概説できること。
ストレス理論を理解し、自身のストレスに気づき、対処・軽減して、必要に応じて支援を求めることを身につける。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：メンタルヘルス対策の実際①(ストレス調査事例)
第3回：メンタルヘルス対策の実際②(事業場支援事例)
第4回：職場環境の理解①(目標管理と動機づけ理論)
第5回：職場環境の理解②(リーダーシップと人事評価)
第6回：メンタルヘルス対策の意義①(労働者のストレスと安全配慮義務)
第7回：メンタルヘルス対策の意義②(心の健康づくり計画)
第8回：ストレスの理解①(ストレス理論)
第9回：ストレスの理解②(ストレスによる健康障害)
第10回：セルフケア①(セルフケアの重要性)
第11回：セルフケア②(ストレスへの気づき・産業臨床で用いる心理アセスメント)
第12回：セルフケア③(ストレスへの対処)
第13回：セルフケア④(自発的相談と活用できる資源)
第14回：職場復帰支援
第15回：まとめとレポート対策

授 業 外 の 学 習 方 法

テキストや補助資料をもとに講義ノートを充実させてください。自身のメンタルヘルスに関心を持ち、セルフケアに取り組んでください。マスコミ報道を通じて、経済状況や労働環境について情報収集してください。

成　績　評　価　方　法

中間レポート(30%)＋最終レポート(30%)＋平常点(40%)
(レポートは講義中に指示します。平常点は受講態度やリアクション・ペーパーの提出状況などを総合評価します。)

成　績　評　価　基　準

職場のメンタルヘルス対策について説明できる。自身のメンタルヘルスについて関心を持ち、セルフケアを計画できる。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト(第4版)[Ⅲ種セルフケアコース]』
大阪商工会議所編　(株)中央経済社　1,944円　ISBN978－4－502－21491－2　2017年

その他（受講上の注意）
講義ノートを作成してください。講義終了後、適宜、成績評価対象となるリアクション・ペーパーの提出を求めます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅡ (Industrial Counseling Ⅱ)			担当教員	吉水　ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-AOC-2375	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

産業カウンセリングの実際や職場のメンタルヘルス対策について学習する。

授 業 の 到 達 目 標

産業カウンセリングの実際を理解し、職場のメンタルヘルス対策について具体的な説明や対応策が考えられる。

授　業　の　計　画

第1回：現代社会と労働者のストレス
第2回：産業メンタルヘルスの考え方
第3回：職業性ストレス
第4回：ストレス関連疾患
第5回：職場のメンタルヘルス①── 4つのケアの推進
第6回：職場のメンタルヘルス②── 関連する法律・指針
第7回：職場のメンタルヘルス③── 事例から学ぶ
第8回：職場のメンタルヘルス④── 活用できる資源
第9回：職場のメンタルヘルス⑤── ストレス評価の進め方
第10回：職場のメンタルヘルス⑥── セルフケア
第11回：職場のメンタルヘルス⑦── 過重労働・自殺の予防と対策
第12回：家族の対応
第13回：職場の人間関係づくり①── アサーティブネス・コミュニケーションⅠ
第14回：職場の人間関係づくり②── アサーティブネス・コミュニケーションⅡ
第15回：産業カウンセリングの実際

授 業 外 の 学 習 方 法

社会情勢、職場環境、メンタルヘルス等に関する情報に関心を持ち、授業で学んだ知識や経験に関連付けて知識を整理し理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

中間レポート（20%）＋期末レポート（40%）＋平常点（40%）
（平常点は授業の参加状況、受講態度、質問カードの提出内容などで総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

産業カウンセリングの実際について理解し説明できるか。
職場のメンタルヘルス対策を理解し適切な提案が考えられるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて授業中に資料配布する。

その他(受講上の注意)

特になし。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

多変量解析演習 (Multivariate Statistical Analysis)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-OBC-2373	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学のデータを用いて、多変量解析（因子分析，重回帰分析など）の基本的な考え方を理解した上で、実際の心理調査データを用いて分析手法を学ぶ。また、各自がテーマを決定し調査票を作成し、得られたデータを統計解析ソフトで分析し、その結果に対する解釈や考察の方法を学ぶ。

授業の到達目標

調査票を作成し、統計解析ソフトを利用して多変量解析（因子分析，重回帰分析）を行える知識を修得することを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：多変量解析とは？
第2回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読1
第3回：多変量解析を用いた心理学研究論文の講読2
第4回：因子分析1
第5回：因子分析2
第6回：因子分析3
第7回：重回帰分析1
第8回：重回帰分析2
第9回：重回帰分析3
第10回：オリジナル調査の調査票作成1
第11回：オリジナル調査の調査票作成2
第12回：オリジナル調査のデータ解析1
第13回：オリジナル調査のデータ解析2
第14回：オリジナル調査のレポート作成
第15回：講義のまとめ

授業外の学習方法

各回の授業を受けた後で、関連する資料などを熟読し、理解を深めてください。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、小課題などから総合的に判断します）

成　績　評　価　基　準

多変量解析（因子分析・重回帰分析など）について理解し、説明ができるか。

テキスト、参考図書

＜テキスト＞山際勇一郎・服部環（2016）．文系のためのSPSSデータ解析　ナカニシヤ出版

その他(受講上の注意)

受講には、2年次の「心理調査法」の単位を取得していることが必要です。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。真に、多変量解析をマスターしたい学生のみ受講してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅰ (Special Psychology SeminarⅠ)			担当教員	渡辺　克徳、竹村　明子、大森　慈子、 西村　則昭、水田　敏郎、森本　文人、 山本　雅代、水上喜美子、森　　俊之、 片畑真由美、吉水ちひろ、稲木康一郎、 杉島　一郎、氏田　麻美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2381	4単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の準備段階として、学生自ら研究課題を設定することを目標にして演習を行います。テーマの設定に必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(配属先のゼミの担当教員によって演習内容は異ります。)

授業の到達目標

自らの研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。

授　業　の　計　画

第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく

授業外の学習方法

研究課題の設定のために必要と思われる、本演習以外の授業を履修する。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
(レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

テキスト、参考図書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

担当教員から指示されます。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス能力論 (Study of Business Skills)			担当教員	吉田　史朗
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2318	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会人として求められる原則、基本的な姿勢について学習し、コミュニケーションの重要性を認識する。
学習に必要な習慣を身に着ける。

授 業 の 到 達 目 標

自分の得意とする分野を明確にし、他者とのコミュニケーションが主体的に行えることを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：人としての原理原則について－コミュニケーションを学ぶための前提条件
第2回：コミュニケーション力－信頼関係を築くのがコミュニケーションの目的
第3回：人としての原則（プリンシプル）＋原理－先人の教えを学ぶ
第4回：社会人に必要な習慣①
第5回：社会人に必要な習慣②
第6回：自分自身のＳＷＯＴ分析で、自分を理解する
第7回：グリット･スケールで「やりぬく力」を意識する
第8回：「7つの習慣」 すべてのことは自分の中にある（主体性）
第9回：「7つの習慣」 終わりを描いてこれからを考える
第10回：レゴの高積み　Not Yet! まだまだやればできる－の実践
第11回：夢は実現できる－DNAの話
第12回：夢をかなえるためのマーケティングについて
第13回：TKF（つくって語って振り返る）－を学ぶ
第14回：自分のポートフォリオを作る
第15回：成果＝能力×情熱×考え方　＝「人生の方程式」

授 業 外 の 学 習 方 法

授業中にいろんなショートレポートを書きます。そのテーマについて、日々の生活の中で振り返って考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中の課題・小レポート（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

コミュニケーションの定義について説明できるか。
マーケティングの手法、ビジネス用語の知識を使って基礎的な企画ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

オリジナルのテキスト（プリント）を準備

その他(受講上の注意)

授業中の私語（友達との会話など）、スマートフォン、飲食は禁止します。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネスコミュニケーション研究 (Business Communication)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-ABC-2319	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。
異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。

授 業 の 到 達 目 標

・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。
・他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

授業では、集団・組織におけるコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション能力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。
第1回：オリエンテーション
第2回：ビジネスコミュニケーションの特徴
第3回：組織とマニュアル
第4回：現場と管理部門
第5回：職場のコミュニケーション
第6回：打合せ・会議
第7回：折衝・交渉
第8回：企画書①
第9回：企画書②
第10回：企画書③
第11回：書面によるコミュニケーション①
第12回：書面によるコミュニケーション②
第13回：面接のコミュニケーション
第14回：租税と政治
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物（70%）、平常点（30%）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。
・他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
その他（受講上の注意）
リアクション・ペーパー（授業中作成）の内容については、次回授業においてフィードバックします。 なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本文化論 (Japanese Culture)			担当教員	大河　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2327	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　基幹科目　コミュニケーション学専門

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

近代以降に書かれた小説・詩をもとに、〈日本〉について考える。近代国家構築に関する意識や戦前・戦後の〈日本〉の姿、現在の〈日本〉の多様性などへの理解を通して、〈日本〉の歴史・文化を批評的に捉える眼を養う。

授 業 の 到 達 目 標

・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。
・近代と現代の共通点・相違点を考え、自己の〈日本〉観を見直し、認識を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：森鴎外「普請中」
第3回：国木田独歩「武蔵野」(1)
第4回：国木田独歩「武蔵野」(2)
第5回：太宰治「十二月八日」
第6回：中島敦「マリヤン」
第7回：牛島春子「祝という男」(1)
第8回：牛島春子「祝という男」(2)
第9回：金鍾漢「幼年」「辻詩　海」「合唱について」「くらいまつくす」
第10回：小島信夫「アメリカン･スクール」(1)
第11回：小島信夫「アメリカン･スクール」(2)
第12回：目取真俊「水滴」(1)
第13回：目取真俊「水滴」(2)
第14回：伊藤比呂美「母に連れられて荒れ地に住み着く」
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)

成　績　評　価　基　準

課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。
期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。

テキスト、参考図書

飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編『文学で考える〈日本〉とは何か』・翰林書房・2016年

その他(受講上の注意)

授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと･考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発論Ⅱ (Study of Planning and Development Ⅱ)			担当教員	早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2351	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本科目では、「企画開発」のために必要となる情報収集・探索能力修得のために、ユーザインタビューと行動観察の方法について考えます。そして、上記の方法に基づき、「身近な問題」の解決策をグループワークを通じて考えます。

授 業 の 到 達 目 標

・ユーザーインタビューの手法を理解する
・行動観察の手法を理解する
・講義で学んだ手法を用いて身近な課題の解決策を考えられる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション（講義の目的とマインドセット）
第2回：企画開発のために必要な調査・探索能力とは
第3回：ユーザー・インタビューの手法①
第4回：ユーザー・インタビューの手法②
第5回：ユーザー・インタビューの手法③
第6回：行動観察の手法①
第7回：行動観察の手法②
第8回：行動観察の手法③
第9回：中間テスト
第10回：中間テストのリフレクション、チームビルディング
第11回：「身近な問題」の設定
第12回：「身近な問題」の調査
第13回：「身近な問題」の解決策を構想
第14回：プレゼンテーション
第15回：講義のまとめとデブリーフィング

授 業 外 の 学 習 方 法

予習：事前課題がある場合は、必ず取り組んでください。
復習：各講義の資料およびノートを見直し、講義内で示された専門用語を図書館等で調べてください。
その他、グループワークでは、授業外にもメンバーと連絡を取りながら進めてください。

成　績　評　価　方　法

中間テスト（40%）、グループワークの制作物（20%）、期末レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

・ユーザーインタビューの手法を理解しているか
・行動観察の手法を理解しているか
・講義で学んだ手法を用いて身近な課題の解決策を考えられるか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特定のテキストは指定しません。講義中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）
他者の学ぶ時間を奪ったり、学ぶ姿勢を阻害するような行動に対しては厳しく対処します。各自、講義を通じて問題意識を醸成してください。 またこの科目は、後期の「企画開発演習Ⅱ」の受講要件となっています。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発演習Ⅱ (Practice in Planning and Development Ⅱ)			担当教員	早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2353	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本科目は、これまでに修得したアイディア発想や各種制作能力を活用し、実際に「企画を開発する」演習である。今年度は、「仮装」を主題として現代社会における仮装の意義を確認し、コミュニケーション方法としての「仮装」を実践する。具体的には、「ハロウィン」と「欽ちゃん・香取慎吾の仮装大賞」における企画を構想する。

授 業 の 到 達 目 標

・現代社会における「仮装」の意義を理解する
・他者と共同して作品をつくるための「チームで働く力」の重要性を知る
・試行錯誤を繰り返して作品をつくることができる

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション（講義の意味とマインドセット）
第2回：構想
第3回：企画
第4回：準備
第5回：ハロウィン実践
第6回：「欽ちゃん・香取慎吾の仮装大賞」とは何か
第7回：デスクリサーチ
第8回：企画書作成①
第9回：企画書作成②
第10回：プロトタイピング①
第11回：プロトタイピング②
第12回：中間発表
第13回：ブラッシュアップ①
第14回：ブラッシュアップ②
第15回：本発表会とデブリーフィング

授 業 外 の 学 習 方 法

本科目は演習科目であり、グループ活動において授業外の打合せや企画の作業が必然的に発生します。各自、時間管理に努めてください。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は、進捗管理表への記入、グループでの活動への積極性や途中課題、発表の評価等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・現代社会における「仮装」の意義を理解したか
・他者と協働する重要性を理解し、それを行動に移せたか
・試行錯誤を複数回繰り返して作品を作ることができたか

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

適宜指示します。

その他（受講上の注意）
本科目は、「企画開発論Ⅰ」、「企画開発演習Ⅰ」、「企画開発論Ⅱ」に連なる演習科目です。 そのため、受講にあたり上記の科目を修得していることを前提で演習を進めます。なお本年度は、「企画開発論Ⅱ」の単位取得を受講条件とします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

マルチメディア演習 (Practice in Multimedia)			担当教員	吉村　正照
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2359	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ウェブメディアにおけるコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。ウェブメディアの理解と共に、ウェブサイト制作の技法（HTML／CSSによるページ制作、スマートフォン最適化）を習得していく。

授　業　の　到　達　目　標

現在におけるウェブメディアの役割を理解する。ウェブサイトの構築手法および技法を習得する。ウェブを介してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。

授　業　の　計　画

第1回：制作ツールの紹介、データの管理方法、著作権について
第2回：ウェブ概論（歴史、仕組み、端末等）
第3回：ウェブ制作の基礎① レイアウトパターン、スマートフォン最適化
第4回：ウェブ制作の基礎② 見出し、本文、リスト、表、ハイパーリンク、画像、様々なコンテンツの埋め込み
第5回：ウェブ制作の基礎③ ボックスモデル
第6回：ウェブ制作の実践① シングルページ
第7回：ウェブ制作の実践② ナビゲーション、一覧ページと詳細ページ
第8回：ウェブ制作の実践③ フレームワークの利用
第9回：ウェブ企画の実践① リサーチ
第10回：ウェブ企画の実践② 戦略
第11回：期末課題制作① オリエンテーション、制作フローの確認、ラフスケッチ、コンテンツの準備
第12回：期末課題制作② 制作
第13回：期末課題制作③ 制作、中間チェック
第14回：期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出
第15回：期末課題制作⑤ プレゼンテーション

授業外の学習方法

制作ツールはすべて無料で入手できる。スキルアップのために自主制作を試みること。

成　績　評　価　方　法

期末課題作品（40%）　授業毎の作品（30%）　授業毎の小テスト・レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

・ウェブの基本が理解できているか。
・ツールを適切に使用できているか。
・ウェブの基本を理解した上で、課題作品の制作ができているか。

テキスト、参考図書

テキスト：使用しない
参考図書：授業内で紹介する

その他(受講上の注意)

授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン実務演習 (Practice in Business Design)			担当教員	橋本　洋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2360	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構造力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を基に、その伝達手段のエレメントとしての色彩の基本を理解し、その内容と表現について演習を通して試行・研究する。また、プレゼンテーションを行い伝わるデザインかを検証する。

授 業 の 到 達 目 標

コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインにおける色彩の機能性と重要性について説明することができ、効果的かつ新たな提案をすることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション／色彩の基本
第2回：色の機能的役割
第3回：伝わると伝えるについて
第4回：伝わるを試してみよう！
第5回：錯視と形
第6回：タングラム　説明と制作
第7回：タングラム　プレゼンテーション
第8回：ユニバーサルデザインと色
第9回：　最小限の表現　説明と制作
第10回：最小限の表現　プレゼンテーション
第11回：イベント企画（コンセプト・内容）
第12回：役割分担とスケジュール管理
第13回：情報の整理と告知
第14回：情報の伝達と効果
第15回：イベント開催／色彩総括と総評

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関連する情報や素材の収集など積極的に考察・行動し、独自のプレゼンテーションができるように工夫・練習に努めてください。

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み（課程）50%　課題成果（結果）30%　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・授業態度、提出物の状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

身の廻りの環境において、コミュニケーション成立のために、色彩を合理的かつ効果的に活用または、観察および考察することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

中田満雄･北畠耀･細野尚志　『色彩ワークブック　デザインの色彩』　(財) 日本色彩研究所

その他(受講上の注意)

授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プロジェクト・デザイン演習 (Practice in Project Design)			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2363	2単位	3年通年	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画・マネジメントコース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

環境変化のスピードが加速するとともに、予測も困難になってきている今日において、正解を導き出す力よりも、正解のない答え・最善策をメンバーとともに模索していく力が求められている。授業では、多面的・複眼的思考により仮説を設定・プランを策定し、試行錯誤しながら自分達の結論を導き出すための問題解決型のコミュニケーション能力の向上を狙いとする。

授　業　の　到　達　目　標

・現状を把握し、対策を立案することができる。
・アクションプランを策定することができる。
・メンバーとともにプランを実行することができる。
・評価を行い、改善策を検討することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：取組みテーマの検討
第3回：取組み内容の検討
第4回：企画書の作成
第5回：企画書レビュー①
第6回：企画書レビュー②
第7回：現状把握
第8回：課題の抽出・設定
第9回：対策の検討・想定される効果
第10回：目標の設定
第11回：実施スケジュール・体制の検討
第12回：対策の実施
第13回：ふりかえり
第14回：今後の予定
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。
また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物(70%)、平常点(30%)
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・現状を把握し、対策を立案することができるか。
・アクションプランを策定することができるか。
・メンバーとともにプランを実行することができるか。
・評価を行い、改善策を検討することができるか。

テキスト、参考図書
必要に応じて、授業中に提示します。
その他（受講上の注意）
作成した企画書は、レビューを通じてフィードバックします。 また、「授業計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーションa (English Communication a)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2367	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

色々なトピックスに関する十分な理解を深める。四つのスキルを使用、各ユニットの内容を身につけて、学生が英語能力を使用して、自分の意見や考えを伝える力を身につける。これにより、中学校・高校で英語を教える際の特に読書・スピキング能力の向上を目指す。

授 業 の 到 達 目 標

世界から様々な記事を聞く、そして読む。それからその記事の内容から自分の意見や考えが英語で書いて、最後に他者と話し合う。

授　業　の　計　画

第1回：ナウル島の問題（食べ物の選択はどんな影響を与えますか。）
第2回：ナウル島の問題（食べ物の選択はどんな影響を与えますか。）
第3回：情熱（情熱とは何ですか。）
第4回：情熱（情熱とは何ですか。）
第5回：良い教師の影響（良い教師はどんな影響を与えますか。）
第7回：中間試験
第8回：ユーモアと笑い（何が面白いですか。）
第9回：ユーモアと笑い（何が面白いですか。）
第10回：デートの心得（デートのルールは何ですか。）
第11回：デートの心得（デートのルールは何ですか。）
第12回：栄養と運動（栄誉と運動について。）
第13回：栄養と運動（栄誉と運動について。）
第14回：脳の（脳の異なる層について。）
第15回：脳の（脳の異なる層について。）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

For the purpose of discussion and debate, students will be required to search newspapers, magazines, the Internet and other sources for information to support their opinions and refute those of others.

成　績　評　価　方　法

In-class discussion and debate - 25%
Midterm - 25%
Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated not only on the reasons and supports for their own opinions, but also on the refutations of others' opinions, reasons, and supports.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Life Topics：Deeper Connections（総合英語ライフトピックス3）
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2016. NAN'UN-DO ISBN 978-4-523-17823-1

その他（受講上の注意）
Students must be fully prepared and proactively participate in each in-class activity. This is not a lecture course. This course is taught exclusively in English.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーションb (English Communication b)			担当教員	M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2368	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

色々なトピックスに関する十分な理解を深める。四つのスキルを使用、各ユニットの内容を身につけて、学生が英語能力を使用して、自分の意見や考えを伝える力を身につける。これにより、中学校・高校で英語を教える際の特に読書・スピキング能力の向上を目指す。

授 業 の 到 達 目 標

世界から様々な記事を聞く、そして読む。それからその記事の内容から自分の意見や考えが英語で書いて、最後に他者と話し合う。

授　業　の　計　画

第1回：テクノロジー中毒（テクノロジーの弱点。）
第2回：テクノロジー中毒（テクノロジーの弱点。）
第3回：ミラーニューロン（ミラーニューロンとは何ですか。）
第4回：ミラーニューロン（ミラーニューロンとは何ですか。）
第5回：幸福追求の理科（人間はどうやって幸せになるの。）
第6回：幸福追求の理科（人間はどうやって幸せになるの。）
第7回：中間試験
第8回：糖分の中毒（糖分が多くなるとどのような影響が現れるのか。）
第9回：糖分の中毒（糖分が多くなるとどのような影響が現れるのか。）
第10回：結婚の進化（結婚の進化について。 ）
第11回：結婚の進化（結婚の進化について。 ）
第12回：アクティブリスニング（アクティブリスニングについて。）
第13回：アクティブリスニング（アクティブリスニングについて。）
第14回：男性の脳、女性の脳（男性の脳、女性の脳について。）
第15回：男性の脳、女性の脳（男性の脳、女性の脳について。）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

For the purpose of discussion and debate, students will be required to search newspapers, magazines, the Internet and other sources for information to support their opinions and refute those of others.

成　績　評　価　方　法

In-class discussion and debate - 25%
Midterm - 25%
Examination - 50%

成　績　評　価　基　準

Students will be evaluated not only on the reasons and supports for their own opinions, but also on the refutations of others' opinions, reasons, and supports.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Life Topics：Deeper Connections（総合英語ライフトピックス3）
Takashi Shimaoka and Jonathan Berman 2016. NAN' UN-DO ISBN 978-4-523-17823-1

その他（受講上の注意）
Much outside-class preparation is necessary in order to fully participate in this course. This course is taught exclusively in English.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

TOEIC英語Ⅱ (TOEIC English Ⅱ)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2370	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

TOEICテストの問題に取り組むためのテクニックを向上させる。TOEIC730点レベルの語彙300語を習得する。

授　業　の　到　達　目　標

リスニング力・リーディング力の向上を図り、TOEICテストのさらなるスコアアップを目指す。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：Listening Part 1 写真描写問題(1)
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題(1)
第3回：Listening Part 1 写真描写問題(2)
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題(2)
第4回：Listening Part 1 写真描写問題(3)
　　Reading Part 5 短文穴埋め問題(3)
第5回：Listening Part 2 応答問題(1)
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題(1)
第6回：Listening Part 2 応答問題(2)
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題(1)
第7回：Listening Part 2 応答問題(3)
　　Reading Part 6 長文穴埋め問題(2)
第8回：Listening Part 3 会話問題(1)
　　Reading Part 7 1つの文書(1)
第9回：Listening Part 3 会話問題(2)
　　Reading Part 7 1つの文書(2)
第10回：Listening Part 3 会話問題(3)
　　Reading Part 7 1つの文書(3)
第11回：Listening Part 4 説明文問題(1)
　　Reading Part 7 複数の文書(1)
第12回：Listening Part 4 説明文問題(2)
　　Reading Part 7 複数の文書(2)
第13回：Listening Part 4 説明文問題(3)
　　Reading Part 7 複数の文書(3)
第14回：Listening Part 4 説明文問題(4)
　　Reading Part 7 複数の文書(4)
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

・TOEICを実際に受験すること(学内外を問わず)
・予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

期末試験(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
TOEIC730点レベルに関わる語彙・文法・解答技術を習得したか。
テキスト、参考図書
塚田幸光『はじめてのTOEIC? L&Rテスト 全パート総合対策』アスク　2017年 TEX加藤　『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版　2017年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
その他（受講上の注意）
・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。 ・必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語a (Business English a)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2371	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

ビジネスを行う上で必要とされる英語表現とマナーについて学ぶ。主にペアワークを用いて、学生主体の英会話の練習を中心に行う。

授 業 の 到 達 目 標

ビジネスで多用される英語表現を使うことが出来る。
職務上でのやり取りを英語でスムーズに行うことができる。
ビジネス上のマナーを理解している。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction / Business English
第2回：Lesson 1 ：Indtoducing Yourself to a Business Colleague
第3回：Lesson 2 ：Making a Self-Introduction at a business Meeting
第4回：Lesson 3 ：Introducing Business Guests to Colleagues
第5回：Lesson 4 ：Leaving a Message on an Ansering Machine or Voice Mail
第6回：Lesson 5 ：Leaving a Message by Phone
第7回：Lesson 6 ：Taking a Message in Person for a Colleague
第8回：Lesson 7 ：Getting Ready to Go：Checking-In at the Airport
第9回：Lesson 8 ：Getting through Immigration and Customs
第10回：Lesson 9 ：Settling into your Hotel
第11回：Lesson 10：Conducting a Business Meeting
第12回：Lesson 11：Making Appointments with Customers
第13回：Lesson 12：Making Small-Talk with Colleagues
第14回：Lesson 13：Writing and Responding to Business-Related E-Mails
第15回：Lesson 14：Writing and Responding to an Informal E-Mail

授 業 外 の 学 習 方 法

単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加および授業毎の発表内容50%
レポートおよび小テスト等の課題 50%

成　績　評　価　基　準

ビジネス上用いられる英語表現を使用することができるか。
ビジネス上のマナーを理解しているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Leonard, T. J.（2006）"Business as Usual" Seibido

その他(受講上の注意)

5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなす。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語b (Business English b)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2372	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

国内外の企業の歴史について英語で学ぶ。読解能力を高めるための語彙を増やす。

授 業 の 到 達 目 標

各企業の歴史について英語で読むことができる。
各企業の歴史について経営的な観点から理解することができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Lesson 1 ：Kirin
第3回：Lesson 2 ：Edwin
第4回：Lesson 3 ：NPC
第5回：Lesson 4 ：Kobayashi Pharmaceutical
第6回：Lesson 5 ：Itochu
第7回：Lesson 6 ：Kameda Seika
第8回：Lesson 7 ：Urawa Red Diamonds
第9回：Lesson 8 ：Terumo
第10回：Lesson 9 ：Daiseki
第11回：Lesson 10：Kikkoman
第12回：Lesson 11：Shoei
第13回：Lesson 12：Yamaha
第14回：Business Presentation 1
第15回：Business Presentation 2

授 業 外 の 学 習 方 法

単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加および授業毎の発表内容20%
レポートおよび小テスト等の課題 50%　最終発表30%

成　績　評　価　基　準

国内外で活躍する企業の歴史を理解したか。
英語の読解能力が身に付いたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Hayashi, Brenda., 岡田圭子、嶋林昭治、鈴木充夫『Moving ahead in the 21st Century： 12 Forward-looking Companies』 (2009) 松柏社

そ の 他(受講上の注意)

5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなします。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語文章表現法 (English Essay Writing)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2276	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

書くプロセスを重視したコミュニカティブ・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。

授 業 の 到 達 目 標

1. Process Writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができる。
2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができる。
3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができる。
4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
6. 意見パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
7. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
8. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
9. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができる。
10. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
11. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができるか
12. 統一性やまとまりのある英文を書くことができる。

授　業　の　計　画

第1回：プロセス・ライティングの理解
第2回：書く前の活動
第3回：パラグラフの構成について
第4回：パラグラフの展開のしかた
第5回：まとめ①（第1回～4回の内容についての復習）
第6回：記述・プロセスパラグラフの書き方
第7回：意見パラグラフの書き方
第8回：比較・対比パラグラフの書き方
第9回：問題・解決パラグラフの書き方
第10回：まとめ②（第6回～9回の内容についての復習）
第11回：エッセイの構成について
第12回：エッセイのアウトラインの書き方
第13回：序論および結論の書き方
第14回：統一性と首尾一貫性
第15回：まとめ③（第11回～14回の内容についての復習）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

テキストの予習・復習に加えて、与えられた課題について作文を書く。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題（25%）、平常点（25%）
（平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。）

成 績 評 価 基 準

1. Process writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができるか。
2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができるか。
3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。
4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
6. 意見パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
7. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
8. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
9. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。
10. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。
11. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。
12. 統一性やまとまりのある英文を書くことができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Writing Essays：From Paragraph to Essay　Zemach, D. E.　MACMILLAN LANGUAGE HOUSE　2013
他に随時プリントを使う。

そ の 他（受 講 上 の 注 意）

なるべく多く英文を書いて、書くことに対する抵抗が少なくなるよう努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究 (Studies on English Linguistics)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2377	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

言語学観点に基づき、英語を体系的に分析・理解する手法を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

英語という言語の概要・背景を学び、確かな異文化理解力および英語力を育成する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：英語の非言語コミュニケーション（1）近接空間学
第3回：英語の非言語コミュニケーション（2）パラ言語学
第4回：英語の非言語コミュニケーション（3）身体動作学
第5回：語彙からみる英語らしさ（1）歴史的観点
第6回：語彙からみる英語らしさ（2）認知的観点
第7回：語彙からみる英語らしさ（3）婉曲語法と政治的正しさ
第8回：文法からみる英語らしさ（1）文法関係
第9回：文法からみる英語らしさ（2）品詞
第10回：文法からみる英語らしさ（3）構文
第11回：音韻からみる英語らしさ（1）音声学と音韻論
第12回：音韻からみる英語らしさ（2）英語の音声
第13回：音韻からみる英語らしさ（3）英語のアクセント・イントネーション・リズム
第14回：音韻からみる英語らしさ（4）国際共通語的観点
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直して復習をしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

英語学の基礎が理解できているのか。
英語コミュニケーションの観点より、英語の発話を分析することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：平賀正子(著)　『ベーシック新しい英語学概論』　2016年　ひつじ書房

その他(受講上の注意)

遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究 (English and American Literature)			担当教員	原口　　治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OBO-2378	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーションコース

求める学習成果(教育目標)

異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

イギリス文学の主要「四分野（＝小説，詩，演劇，批評）」の著名な作品の解説及び原典（抜粋）を精読することで，英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治，文化的背景等の知識を深めることで，イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する。なお，DVDやVTR等の視聴覚，音声教材等も出来る限り利用する。

授 業 の 到 達 目 標

文学作品における登場人物等の研究を通して，自他の個性の多様性を理解する。また，この理解力をもとに，多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに，課題作成や定期試験により，様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより，一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。

授　業　の　計　画

第１回：テキストＰ１～Ｐ343　本講義のガイダンス，図書館ガイダンス
第２回：テキストＰ217～Ｐ240　イギリス小説（Ⅰ）・『プライドと偏見』，『オリヴァ――・テュイスト』
第３回：Ｐ270～Ｐ292　イギリス小説（Ⅱ）・『嵐が丘』，『ダロウェイ夫人』
第４回：テキストＰ161～Ｐ188　イギリス小説（Ⅳ）・『ロビンソン・クルーソー』，『ガリバー旅行記』
第５回：テキストＰ196～Ｐ216　イギリス詩（Ⅰ）・ワーズワス，キーツ（ロマン派詩人）
第６回：テキストＰ140～Ｐ160　イギリス詩（Ⅱ）・ブレイク，ロバート・バーンズ
第７回：テキストＰ２～Ｐ29　イギリス詩（Ⅲ）・『ベオウルフ』，『カンタベリー物語』，『サーガーウェンと円卓の騎士』
第８回：テキストＰ293～Ｐ308　イギリス演劇（Ⅰ）・『ピグマリオン』，『マイ・フェア・レディ』
第９回：テキストＰ60～Ｐ73　イギリス演劇（Ⅱ）・演劇創世記
第10回：テキストＰ96～Ｐ107　イギリス演劇（Ⅲ）・『ジェームス朝』
第11回：テキストＰ74～Ｐ94，Ｐ310～Ｐ311　イギリス演劇（Ⅳ）・シェイクスピア（Ⅳ）
第12回：テキストＰ284～Ｐ292　『カズオ・イシグロ』
第13回：発表会準備
第14回：発表会（プレゼンテーションⅠ）
第15回：発表会（プレゼンテーションⅡ）
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として，上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み，あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また，復習としては，プレゼンテーション準備と定期試験準備に重点を置いて，各自のノートに講義内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験 60%　　課題 10%
プレゼンテーション（講義内容に関する任意のテーマについてのもの）　30%
以上を総合的に評価し，60%以上の評価の場合に限り，本講義履修単位の習得とする。

成　績　評　価　基　準

文学作品における登場人物等の研究を通して，自他の個性の多様性を理解しているか。
イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。

テキスト、参考図書
秋篠　憲一（他）・『イギリス文学への招待』・朝日出版社・1999年
その他（受講上の注意）
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会研究 (Studies of Contemporary Society)			担当教員	中村　昇平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2382	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力■課題解決能力

授　業　の　内　容

人種概念の成り立ちを概説するとともに、現代社会における人種・民族・エスニシティ状況を各国の事例に触れて紹介する。本講義を通じて、人種問題の現代的重要性を理解した上で、人の分類に関わる問題を比較社会学的視点から考察する力を養う。

授業の到達目標

人の分類と差別にまつわる社会問題に関心をもち、自身の経験や自身をとりまく社会状況にひきつけて考察する発想を身につけること。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：映像鑑賞：エリオット先生の差別体験授業
第3回：人種概念の歴史（1）
第4回：人種概念の歴史（2）
第5回：人種分類と植民地支配（1）
第6回：人種分類と植民地支配（2）
第7回：人種分類と多文化主義（1）
第8回：人種分類と多文化主義（2）
第9回：人種分類と多文化主義（3）
第10回：中間試験
第11回：映像鑑賞：映画「アクト・オブ・キリング」
第12回：「アクト・オブ・キリング」の背景を考える
第13回：差別の経験は理解できるか（1）
第14回：差別の経験は理解できるか（2）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

講義内容に関連する文献を紹介するので、授業後に各自で参照すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験(60%)　平常点(40%)
(平常点は、受講態度や質問用紙の提出状況、中間試験の結果を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

・人種概念の歴史を理解しているか。
・講義中に紹介する事例のうち、少なくとも1つについてよく理解しているか。
・人種・エスニシティの問題を現代的観点から批判的に考察する視点を身につけているか。

テキスト、参考図書

なし。講義内容に合わせて適宜プリントの配布、参考文献の指示を行う。

その他(受講上の注意)

シラバスの内容は受講生の理解度、興味関心に合わせて変更することがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法b (Quantitative Data Analysis b)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2368	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。分散分析や単回帰分析そして重回帰分析を中心に、その考え方と実際の使い方を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できるようになる。
・多変量解析の考え方を理解できるようになる。
・多変量解析の基礎的な手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来るようになる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：復習（1）── 尺度水準、記述統計量
第3回：復習（2）── 検定の考え方
第4回：多変量解析の考え方：変数をコントロールするとは、どういうことか？
第5回：分散分析の理論と演習
第6回：単回帰分析の理論と演習
第7回：重回帰分析の理論と演習（1）
第8回：重回帰分析の理論と演習（2）── 独立変数が2つの場合
第9回：重回帰分析の理論と演習（3）── 独立変数が3つ以上の場合
第10回：カテゴリカル・データの間の連関を探る（1）
第11回：カテゴリカル・データの間の連関を探る（2）
第12回：因子分析と主成分分析
第13回：因子分析の理論と演習（1）
第14回：因子分析の理論と演習（2）
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の授業において配付された資料を見直した上で、次の回の授業に臨むようにして下さい。講義で学んだことを実際の、社会現象の説明に応用できるか考えるようにして下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（30%）　平常点（70%）
（平常点は提出物・小テスト・レポートを総合的に判断します）

成　績　評　価　基　準

・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できているか。
・多変量解析の考え方を理解できているか。
・多変量解析の手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来ているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは定めない。
参考図書として、村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編『SPSSによる多変量解析』オーム社（2007年）
小田利勝『ウルトラ・ビギナーのためのSPSSによる統計解析入門』プレアデス出版（2007年）
また、適宜、授業中に指示を与える。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、社会調査士資格認定科目【E】〔多変量解析の方法に関する科目〕に相当する。 「社会調査方法論」、「統計学（旧カリ：社会統計学）」、SPSSの使い方の知識を前提として、授業をすすめる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プログラミング (Programming)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2387	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

プログラミングの実習では、基礎的なプログラミングについて学んでいきます。前半はプログラミングの知識について学んでいきます。プログラム言語には様々な種類がありますが、本実習ではPythonとVBAを扱います。そして、後半は、実際にプログラミングを行います。プログラミングを行うことで、自身の想像したアルゴリズムをフローチャートとして可視化しそれをコーディングする力を養います。これらの能力を養うことで、企業や地域社会における様々問題を解決するために必要な論理的思考力を育みます。

授業の到達目標

自分の問題解決手段の一つとしてプログラミングを利活用することが可能となること。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス　プログラミングの基本と種類
第2回：プログラミングの基礎　開発環境
第3回：プログラミングの基礎　スクラッチの基礎
第4回：スクラッチを使ったプログラミング実習　フローチャートの記述
第5回：スクラッチを使ったプログラミング実習　プログラミングの実装
第6回：スクラッチを使ったプログラミング実習　プログラミングの検証・実験
第7回：スクラッチを使ったプログラミング発表
第8回：Pythonの基礎
第9回：Pythonを使った手続き型プログラミング
第10回：Pythonを使ったプログラミング　対話型プログラミング　実装
第11回：Pythonを使ったプログラミング　対話型プログラミング　検証・実験
第12回：VBAの基礎
第13回：プログラミングの応用
第14回：プログラミングの応用
第15回：プログラミング発表会

授業外の学習方法

プログラミングの書籍は出版社から様々なものが販売されている。
講義のみで不明瞭な点があった場合は、自分にあった書籍で学習し、補完を行うこと。

成　績　評　価　方　法

授業の評価方法
演習課題・宿題（50%），応用課題（50%）
授業中に演習課題を提出できなかった場合、宿題とする
十分な提出期間を設けているため、必ず提出すること
定期試験は実施しない

成　績　評　価　基　準

・情報システムの仕組みやネットワーク，コンピュータ，それらを制御する基盤技術について理解できているか
・自分の問題解決手段の一つとしてプログラミングを利活用することが可能か
以上の二つを評価の基準とする.

テキスト、参考図書
授業は自作スライドを中心に行う．特定のテキストは指定しないが，参考図書については講義中に適宜紹介する．
その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報・社会調査演習 a (Practice in Information and Social Research a)			担当教員	織田　暁子、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2388	2 単位	3 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収）、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。

授 業 の 到 達 目 標

・社会調査の企画と実施ができるようになる。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。
・統計ソフトを使いこなせるようになる。

授　業　の　計　画

第 1 回：オリエンテーションとグループ決定
第 2 回：グループごとにテーマについての話し合い（1）
第 3 回：グループごとにテーマについての話し合い（2）
第 4 回：テーマについてのグループ発表
第 5 回：テーマについての文献レビュー
第 6 回：仮説構成（1）
第 7 回：仮説構成（2）
第 8 回：仮説の発表
第 9 回：質問作成（1）
第10回：質問作成（2）
第11回：質問案発表
第12回：質問紙の作成（1）
第13回：質問紙の作成（2）
第14回：実査準備（1）
第15回：実査

授 業 外 の 学 習 方 法

各自での文献研究やグループでの議論、発表の準備など、授業時間以外にも作業や準備をしてもらう。

成　績　評　価　方　法

平常点（100%）
（平常点はグループでの活動への積極性や発表の評価等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。
・統計ソフトを使いこなせているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

授業開始時に各教員から指示がある。

その他（受講上の注意）

この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する「社会調査士」資格に必要な標準カリキュラムのG科目に対応するものである。本年度後期に開講される「情報・社会調査演習b」と連続して受講すること。情報・社会調査演習aあるいはbのみの履修は認めない。
また、この授業は授業時間を使って調査を企画・実施する演習科目である。無断欠席は禁じる。事前連絡がある場合も欠席は３回までとする。
初回授業で、質的調査・量的調査のクラス分けを行う。

・質的調査班の履修条件は下記のとおり。
①既に「社会学入門（旧カリ：社会調査法I）」「社会調査法（旧カリ：社会調査法II）」「データ解析法a」を履修済であること。

・量的調査班の履修条件は下記のとおり。
①既に「社会学入門（旧カリ：社会調査法I）」「社会調査法（旧カリ：社会調査法II）」「社会調査方法論」を履修済であること。
②「データ解析法b」を受講すること、もしくは履修済であること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報・社会調査演習b (Practice in Information and Social Research b)			担当教員	織田　暁子、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2389	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収）、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。

授業の到達目標

・社会調査の企画と実施ができるようになる。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。
・統計ソフトを使いこなせるようになる。
・自分の主張を論理的に報告書にまとめられるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：実査①
第2回：実査②
第3回：コーディング・データ整理①
第4回：コーディング・データ整理②
第5回：コーディング・データ整理③
第6回：データ分析①
第7回：データ分析②
第8回：データ分析③
第9回：データ分析④
第10回：データ分析⑤
第11回：報告書作成①
第12回：報告書作成②
第13回：報告書作成③
第14回：報告書作成④
第15回：報告書作成⑤

授業外の学習方法

実査を成功させるために必要な準備について、授業時間以外にも作業などをしてもらう。データ分析においても、限られた授業時間で効率的に分析を進められるように、授業前に入念な準備を行ってもらう。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
（平常点はグループでの活動への積極性や発表や報告書の評価等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。
・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。
・統計ソフトを使いこなせているか。
・自分の主張を論理的に報告書にまとめられているか。

テキスト、参考図書

授業開始時に各教員から指示がある。

その他（受講上の注意）
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な標準カリキュラムのG科目に対応するものである。本年度前期に開講された「情報・社会調査演習a」と継続して受講すること。情報・社会調査演習bのみの履修は認めない。履修者の調査演習報告書の執筆をもって、単位認定を行う。 また、この授業は授業時間を使って調査を企画・実施する演習科目である。無断欠席は禁じる。事前連絡がある場合も欠席は３回までとする。 質的調査班・量的調査班とも、受講条件は下記のとおり。 ・同一年度・同一クラスの「情報・社会調査演習a」の単位を取得していること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企業と情報 (Business Activities and Informatics)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-OOC-2390	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　情報社会コース

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、現代社会での「教育」、「経済」、「政治」、「メディア」を題材とし、その成り立ちや仕組みについて理解を深める。また、その中で多角的な視点から物事を把握できる力の養成と論理的な思考トレーニングを行う。

授 業 の 到 達 目 標

グローバルな視点から現代社会の諸問題を把握し、捉えなおす力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：現代社会と教育の歴史～プロイセン教育から今日へ至るまで～
第2回：現代社会とメディア①～グローバル化するメディア～
第3回：現代社会とメディア②～ソーシャルメディアは新しい？～
第4回：複雑化する通信サービス①（グループワーク・フィールド調査）
第5回：複雑化する通信サービス②（グループワーク・フィールド調査）
第6回：複雑化する通信サービス③（発表）
第7回：現代社会の安心安全～インターネットの観点から～
第8回：現代社会と政治①～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第9回：現代社会と政治②～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第10回：現代社会と政治③～各政党は今どこを目指しているのか～（発表）
第11回：現代社会とこれからの社会（ディスカッション）
第12回：現代社会の諸問題①
第13回：現代社会の諸問題②
第14回：現代社会の諸問題③
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

新聞を日々読み、現代に起きている様々な問題（イスラム紛争、移民問題、少子化問題、メディアリテラシー、国内政治）について目を向け、その背景や主張について日々考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中のグループワークでの発言と各グループの発表（1グループ15分程度×2）の内容および日々の発言内容等を平常点とし、定期試験と併せて総合的に評価する。
定期試験（50%）　小レポート（30%）　平常点（20%）（平常点はグループでの発表、ディスカッションの参加度を加味して総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

現代社会の成り立ちについて理解し、現代日本が抱えている問題を自分の言葉で説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて、プリントの配布、参考文献・テキストの指示などを行う。

その他(受講上の注意)

グループワーク主体であるため、授業の出席は必須事項。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ｉa (Special Seminar in Communication Ⅰa)			担当教員	大河　晴美、紺渡　弘幸、矢橋　知枝、 加藤　優子、升田　法継、吉村　正照、 安彦　智史、織田　暁子、Ｍ　ハウカ、 早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2393	2単位	3年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組む力を身につけ、地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の準備段階として、学生自らが問題意識を持ち、研究課題を設定できるようになることを目標とする。そのために、文献、論文、資料、データを精読し、ディスカッションや発表を行う。（配属先のゼミによって、演習内容は異なる。）

授業の到達目標

自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に選択、購読できる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマや学生の問題意識に依拠した指導に従い、取り組む。

４～８月　演習のテーマについて基礎的知識を確認するための研究・実践

授業外の学習方法

問題意識の明確化および課題設定のために必要な、本演習以外の授業を履修し、理解を深める。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

自らの問題意識を明確にできているか。研究課題に関連する文献などを適切に選択、購読できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

担当教員から指示がある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ｉb (Special Seminar in Communication Ⅰ b)			担当教員	大河　晴美、紺渡　弘幸、矢橋　知枝、 加藤　優子、升田　法継、吉村　正照、 安彦　智史、織田　暁子、Ｍ　ハウカ、 早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-G-2394	2単位	3年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

地域の文化創造・発展に向けて課題解決に主体的に取り組む力を身につけ、地域社会や産業界のリーダーとなる意欲を育成します。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の準備段階として、学生自らが問題意識を持ち、研究課題を設定できるようになることを目標とする。そのために、文献、論文、資料、データを精読し、ディスカッションや発表を行う。（配属先のゼミによって、演習内容は異なる。）

授 業 の 到 達 目 標

自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に選択、購読できる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマや学生の問題意識に依拠した指導に従い、取り組む。

９～２月　演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

卒業研究に取り組むことができるだけの専門的な知識をつけられているか。文献などの購読を通して、自らの問題意識を明確にし、研究課題を設定できるようになったか。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

問題意識の明確化、研究課題の設定のために必要な、本演習以外の授業を履修すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2249	4単位	2年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

カリフォルニア州立大学フラトン校American Language Program（ALP）で語学研修に参加する。現地ではホームステイ・クラブ活動も行う。事前授業10回（前期）および事後授業5回（後期）も合わせて受講し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。

授業の到達目標

集中的な英語研修と生活体験を通し、総合的な英語力（読む力・聞く力・話す力・書く力）を向上させることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）①
第3回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）②
第4回：事前授業（提出物指示、研修先申込書作成等）③
第5回：事前授業（ビザ申請等）①
第6回：事前授業（ビザ申請等）②
第7回：事前授業（ビザ申請等）③
第8回：事前授業（昨年度参加者との面談）
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜語学研修参加（8月中旬～10月上旬）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（英語レベルチェック）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航に必要なビザの手続を教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業への取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。

テキスト、参考図書

ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、担当教員が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	水田　敏郎、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2164	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。

授 業 の 到 達 目 標

それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。

授　業　の　計　画

地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。

4～7月　　事前ガイダンスの実施と計画の提示
8～9月　　現地にて研修
10～11月　事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関連する情報の収集

成　績　評　価　方　法

プログラムへの取組み(50%)　レポート(20%)　プレゼンテーション(30%)

成　績　評　価　基　準

課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。

※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HS−2165	2単位	1年～4年	演習	選択

<科目区分>　人間学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

原則としてカリフォルニア州立大学フラトン校での集中講義（2週間）の形式で実施するが、英語教育センターで承認を受けた場合は個人留学でも履修可能である。フラトン校での集中講義では、授業あるいはワークショップの参加・見学、キャンパス内外での視察、クラブ活動参加、観光等を通じて国際交流を体験し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。前期に事前授業10回・後期に事後授業5回を実施する。

授業の到達目標

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。
本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム（2週間）」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、異文化理解を深めることを目的とする。

授　業　の　計　画

第1回：全体説明会
第2回：事前授業（提出物、課題指示等）①
第3回：事前授業（提出物、課題指示等）②
第4回：事前授業（現地活動の企画等）①
第5回：事前授業（現地活動の企画等）②
第6回：事前授業（現地活動の準備等）①
第7回：事前授業（現地活動の準備等）②
第8回：事前授業（現地活動の準備等）③
第9回：事前授業（航空券、その他書類配付等）
第10回：事前授業（出発前の最終確認）

＜集中講義（9月）＞

第11回：事後授業（研修の報告および反省）
第12回：事後授業（レポート課題指示）
第13回：事後授業（プレゼン課題指示）
第14回：事後授業（プレゼン練習）
第15回：次年度プログラム説明会でプレゼンテーション（3月）

授業外の学習方法

準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。

成　績　評　価　方　法

事前授業の取り組み（30%）、現地評価（50%）、事後授業の取り組み、およびレポート課題（20%）を総合評価する。

成　績　評　価　基　準

学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。

テキスト、参考図書
特になし
その他（受講上の注意）
受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスおよび本プログラム参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 【フラトン校集中講義以外の履修について】 履修要件：　英語教育センターで（1）～（4）を行うこと （1）留学相談（留学先・方法など決定） （2）審査　　（本科目としての適切性） （3）事前指導（提出書類準備・渡航準備） （4）事後指導（必要な課題提出・単位認定審査） 研修期間：　夏期休暇期間または春期休暇期間 単位認定時期：　夏期休暇期間の場合は当該年度後期、春期休暇期間の場合は翌年度前期 ※卒業年次生は、夏季休暇中の実施のみ
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校臨床心理学 (Clinical Psychology in Schools)			担当教員	廣澤　愛子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABO−2456	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　臨床系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

学校現場で生じている問題のうち、臨床心理学的支援が有効に働く課題について、その実態と支援の在り方を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

学校現場における有効な臨床心理学的支援を、他者と議論し、情報を収集し、自ら主体的に考えることができる。

授　業　の　計　画

第1回：臨床心理学とは－理論的背景－
第2回：臨床心理学とは－グループワークを通して－
第3回：学校における臨床心理学的支援の実際その1－特別支援教育に係わる支援の在り方－
第4回：特別支援教育に係わる支援についてのグループディスカッション
第5回：グループごとのプレゼンテーション①
第6回：学校における臨床心理学的支援の実際その2－いじめに係わる支援の在り方－
第7回：いじめについてのグループディスカッション
第8回：グループごとのプレゼンテーション②
第8回：学校における臨床心理学的支援の実際その3－保護者支援について－
第9回：保護者支援についてのグループディスカッション
第10回：グループごとのプレゼンテーション③
第11回：学校現場でも活用できる心理技法の紹介－体験実習を通して－
第12回：心理技法の実際－その用い方と有効性－
第13回：心理技法についてのグループディスカッション
第14回：グループごとのプレゼンテーション④
第15回：総括

授 業 外 の 学 習 方 法

講義を受けた後で、当該部分の配布資料を見直し、次時の授業に臨んでください。授業の積み重ねの中で、自分なりの考えや観点を生成していくことを心がけてください。

成　績　評　価　方　法

小レポート（40%）+ディスカッション（30%）+プレゼンテーション（30%）

成　績　評　価　基　準

他者と議論し、的確に情報を収集し、それらを踏まえて主体的に考え、課題解決に導くことができているか。さらに、その解決策を他者に分かりやすく提示することができているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用せず、適宜、授業の中で紹介するか、講師がレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障害者心理学 (Psychology of the Disabled)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2466	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　行動・支援系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　□情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

感覚障害や知的障害、肢体不自由など様々な障害の概念について解説する。また、特に最も発生率の高い知的障害について分類や障害メカニズムについて解説し、心理的な特徴とその支援の方法について述べる。

授 業 の 到 達 目 標

障害の概念、定義について理解することができる。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができる。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について理解することができる。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：障害の概要と定義
第3回：知的障害のアセスメント①
第4回：知的障害のアセスメント②
第5回：感覚の発達と障害
第6回：知覚の発達と障害①
第7回：知覚の発達と障害②
第8回：学習の発達と障害
第9回：言語の発達と障害①
第10回：言語の発達と障害②
第11回：運動の発達と障害①
第12回：運動の発達と障害②
第13回：知的障害以外の発達障害
第14回：障害と支援
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験(70%)　平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

障害の概念、定義について説明することができるか。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができるか。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

講義資料は適宜配布する。

その他(受講上の注意)

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉概論 (Survey of Social Welfare)			担当教員	元村　妙子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2476	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

社会保障および、社会福祉とは何かについて考える。現代社会において、福祉は、医療・教育とともに、私たちのよりよい生活に必要不可欠な分野である。その福祉の理念やあゆみ、実践と政策の連関など仕組みと方法を解説し、基礎的な理解を深める。

授業の到達目標

ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができる。
社会保障の基礎的な枠組みを理解することができる。
社会福祉の専門職と対象者観について理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　福祉とはその語源を探る、学習の仕方の説明等
第2回：社会福祉の援助と専門職
第3回：福祉の視点　他者を援助するとは
第4回：社会福祉の援助と専門技術（1）
第5回：社会福祉の援助と専門技術（2）
第6回：事例から考える児童・家庭福祉
第7回：要保護児童の自立支援
第8回：分野ごとの相談機関と施設
第9回：障がい者の自立支援
第10回：高齢者に対する制度と施設・サービス
第11回：社会福祉のあゆみ　東洋と西洋
第12回：社会保障の形成と現代社会
第13回：日本の社会保障（1）　年金・労働保険
第14回：日本の社会保障（2）　介護保険・公的扶助・社会手当
第15回：日本における公的扶助制度とその運用

授業外の学習方法

日々変化する社会福祉の政策、社会保険の政策動向に関心を向けて、新聞メディア等に注目しておく。
講義で配布するプリントや適宜紹介する参考文献をよみ、福祉とは何かについて、自身の理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

レポート試験（60%）　小レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

社会福祉および社会保障の理念と政策・実践の連関を理解することができるか。
ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができるか。
社会保障の基礎的な枠組みを理解することができるか。
社会福祉の専門職と対象者観について理解を深めるか。

テキスト、参考図書

その他（受講上の注意）
授業の進行順が変更になることもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅱ (Special Psychology SeminarⅡ)			担当教員	渡辺　克徳、竹村　明子、大森　慈子、 西村　則昭、水田　敏郎、森本　文人、 山本　雅代、森　　俊之、片畑真由美、 吉水ちひろ、稲木康一郎、杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2482	4単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の計画・実行段階として、心理学特別演習Ⅰで学生自らが設定した課題の解決にむけて、それらを遂行するために考えられる様々なアプローチ方法を立案します。さらに、それらの中から実行が妥当かつ可能なものを選択・吟味していきます。その際に、必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(担当教員によって演習内容は異ります。)

授業の到達目標

自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を吟味し選択する能力を身につける。研究を実施できる。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。

授　業　の　計　画

第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく

授業外の学習方法

特別演習Ⅰ同様、各受講生の課題解決に向けて必要と思われる本演習以外の授業を履修し、または以前に受講した授業で関連のある内容について全般的に復習する。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
(レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を立案し選択する能力を身につけることができたか。研究を実施できたか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できたか。

テキスト、参考図書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

担当教員から指示されます。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	吉水ちひろ、竹村　明子、森本　文人、 渡辺　克徳、大森　慈子、西村　則昭、 水田　敏郎、山本　雅代、森　俊之、 片畑真由美、稲木康一郎、杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
PS−ABC−2483	6単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

心理学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生自らが設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めて卒業論文に仕上げます。

授 業 の 到 達 目 標

心理学研究として適切な課題の設定を行う。妥当な研究の方法を選択する能力を身につける。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができる。

授　業　の　計　画

担当教員の指導に従って取り組んでいきますが、おおむね以下のようなスケジュールになります。

４～５月　課題・研究計画の立案と決定
６～８月　研究の実行
９～10月　結果の分析
11～12月　考察や論文のまとめ
１月下旬～２月上旬　卒業研究発表会
※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われますが、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがあります。

授 業 外 の 学 習 方 法

担当の教員から適宜指示されます。

成　績　評　価　方　法

論文(50%)　平常点(40%)　発表(10%)
(平常点は卒業研究と発表への参加・取り組み状況や、取り組む態度などを総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

心理学研究として適切な課題が設定されているか。妥当な研究の方法を選択する能力が身についているか。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

担当教員から指示されます。

その他(受講上の注意)

心理学の様々な専門分野から自らがテーマや方法を決めて研究を進めます。4年間の集大成ともいえる研究となります。全力で取り組んでください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン運用論 (Design Production and Management)			担当教員	吉村　正照
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Aab−2401	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　企画･表現系

求める学習成果(教育目標)

柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　■計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

「デザイン思考」をもとにした課題解決法を学び、「ブランディング」を実践的に研究する。アイデアの出し方や、コンテンツ制作の進め方をワークショップ形式で行う。

授 業 の 到 達 目 標

経営におけるデザインの役割を理解し、そのための手法および技法を習得する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション、デザイン思考とは
第2回：デザイン思考による課題解決の事例
第3回：アイデアスケッチの方法論
第4回：アイデアスケッチの実践
第5回：ブランド、ブランディングとは
第6回：ユーザーの理解
第7回：プロトタイピング
第8回：コンテンツ制作の実践① プロジェクトの設計
第9回：コンテンツ制作の実践② リサーチ
第10回：コンテンツ制作の実践③ 戦略にもとづいたコンテンツデザイン
第11回：期末課題① アイデアスケッチ
第12回：期末課題② 情報収集
第13回：期末課題③ プロトタイピング、検証
第14回：期末課題④ 企画のブラッシュアップ、企画書完成・提出
第15回：期末課題⑤ プレゼンテーション

授 業 外 の 学 習 方 法

課題に関する情報収集と整理。

成　績　評　価　方　法

課題への取り組み（40%）　課題の成果（30%）　授業毎の小テスト・レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

・手法を理解し、独自の視点でアイデアを展開できているか。
・客観的なデータによる分析やクリエイティブな表現により、魅力的な企画をたてることができたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：使用しない
参考図書：授業内で紹介する

その他(受講上の注意)

授業内容が前後したり、見学に変更する場合がある（授業内またはeラーニングで事前に告知する）。授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究Ⅰ(語用論) (English Linguistics Ⅰ)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2301	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

言語学観点に基づき、英語を体系的に分析・理解する手法を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

英語という言語の概要・背景を学び、確かな異文化理解力および英語力を育成する。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：英語の非言語コミュニケーション（1）近接空間学
第3回：英語の非言語コミュニケーション（2）パラ言語学
第4回：英語の非言語コミュニケーション（3）身体動作学
第5回：語彙からみる英語らしさ（1）歴史的観点
第6回：語彙からみる英語らしさ（2）認知的観点
第7回：語彙からみる英語らしさ（3）婉曲語法と政治的正しさ
第8回：文法からみる英語らしさ（1）文法関係
第9回：文法からみる英語らしさ（2）品詞
第10回：文法からみる英語らしさ（3）構文
第11回：音韻からみる英語らしさ（1）音声学と音韻論
第12回：音韻からみる英語らしさ（2）英語の音声
第13回：音韻からみる英語らしさ（3）英語のアクセント・イントネーション・リズム
第14回：音韻からみる英語らしさ（4）国際共通語的観点
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直して復習をしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

英語学の基礎が理解できているのか。
英語コミュニケーションの観点より、英語の発話を分析することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：平賀正子(著)　『ベーシック新しい英語学概論』　2016年　ひつじ書房

その他(受講上の注意)

遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究b (English and American Literature b)			担当教員	原口　　治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bdd−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　□課題解決能力

授　業　の　内　容

イギリス文学史上最も著名な作家と言っても過言ではない，ウィリアム・シェイクスピアの作品の原典（抜粋）を味読することで，英語文学の鑑賞を行なう。また，作品の政治，文化的背景等の知識を深めることで，イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する．なお，DVDやVTR等の視聴覚，音声教材等も出来る限り利用する。

授業の到達目標

文学作品における登場人物等の研究を通して，自他の個性の多様性を理解する。また，この理解力をもとに，多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに，課題作成や定期試験により，様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより，一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：テキストP3～P174　本講義のガイダンス，図書館ガイダンス
第2回：テキストP22～P23・P24～P25・P74～P75 『ロミオとジュリエット』
第3回：テキストP14～P16 『お気に召すまま』
第4回：テキストP40～P41 『マクベス』
第5回：テキストP54～P61 『ジュリアス・シーザー』
第6回：テキストP78～P82・P62～P65 『ハムレット』
第7回：テキストP102～P103 『オセロ』
第8回：テキストP32～P33・P72～P73 『ヴェニスの商人』
第9回：テキストP22～P23・P34～37 『恋の骨折り損』,『ヘンリー4世第1部』
第10回：テキストP44～P47 『ヘンリー5世』
第11回：テキストP92～P93 『十二夜』
第12回：テキストP66～P69・P82～P83 『リヤ王』
第13回：テキストP114～P115・P118～P119 『ソネット集』
第14回：発表会（プレゼンテーション）
第15回：定期試験準備
第16回：定期試験

授業外の学習方法

予習として，上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み，あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また，復習としては，プレゼンテーション準備と定期試験準備に重点を置いて，各自のノートに講義内容をまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験 60%　　課題 10%
プレゼンテーション（講義内容に関する任意のテーマについてのもの）　30%
以上を総合的に評価し，60%以上の評価の場合に限り，本講義履修単位の習得とする。

成　績　評　価　基　準

文学作品における登場人物等の研究を通して，自他の個性の多様性を理解しているか。
イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。

テキスト、参考図書
荒井　良雄（他）・『シェイクスピア名セリフ集』・朝日出版社・2013年
その他（受講上の注意）
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語研究b (Studies on Business English b)			担当教員	加藤　優子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bcc−2401	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　英語コミュニケーション系

求める学習成果(教育目標)

英語でのプレゼンテーションやディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
□役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

国内外の企業の歴史について英語で学ぶ。読解能力を高めるための語彙を増やす。

授 業 の 到 達 目 標

各企業の歴史について英語で読むことができる。
各企業の歴史について経営的な観点から理解することができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Lesson 1 ：Kirin
第3回：Lesson 2 ：Edwin
第4回：Lesson 3 ：NPC
第5回：Lesson 4 ：Kobayashi Pharmaceutical
第6回：Lesson 5 ：Itochu
第7回：Lesson 6 ：Kameda Seika
第8回：Lesson 7 ：Urawa Red Diamonds
第9回：Lesson 8 ：Terumo
第10回：Lesson 9 ：Daiseki
第11回：Lesson 10：Kikkoman
第12回：Lesson 11：Shoei
第13回：Lesson 12：Yamaha
第14回：Business Presentation 1
第15回：Business Presentation 2

授 業 外 の 学 習 方 法

単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。

成　績　評　価　方　法

授業への積極的参加および授業毎の発表内容20%
レポートおよび小テスト等の課題 50%　最終発表30%

成　績　評　価　基　準

国内外で活躍する企業の歴史を理解したか。
英語の読解能力が身に付いたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Hayashi, Brenda., 岡田圭子、嶋林昭治、鈴木充夫『Moving ahead in the 21st Century： 12 Forward-looking Companies』 (2009) 松柏社

そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

5分以上20分未満の遅刻3回で欠席1回とみなします。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅰ (Advanced Lectures in Sociology Ⅰ)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cgg−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本講義では、現代社会での「教育」、「経済」、「政治」、「メディア」を題材とし、その成り立ちや仕組みについて理解を深める。また、その中で多角的な視点から物事を把握できる力の養成と論理的な思考トレーニングを行う。

授 業 の 到 達 目 標

グローバルな視点から現代社会の諸問題を把握し、捉えなおす力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：現代社会と教育の歴史～プロイセン教育から今日へ至るまで～
第2回：現代社会とメディア①～グローバル化するメディア～
第3回：現代社会とメディア②～ソーシャルメディアは新しい？～
第4回：複雑化する通信サービス①（グループワーク・フィールド調査）
第5回：複雑化する通信サービス②（グループワーク・フィールド調査）
第6回：複雑化する通信サービス③（発表）
第7回：現代社会の安心安全～インターネットの観点から～
第8回：現代社会と政治①～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第9回：現代社会と政治②～各政党は今どこを目指しているのか～（グループワーク・フィールド調査）
第10回：現代社会と政治③～各政党は今どこを目指しているのか～（発表）
第11回：現代社会とこれからの社会（ディスカッション）
第12回：現代社会の諸問題①
第13回：現代社会の諸問題②
第14回：現代社会の諸問題③
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

新聞を日々読み、現代に起きている様々な問題（イスラム紛争、移民問題、少子化問題、メディアリテラシー、国内政治）について目を向け、その背景や主張について日々考えてください。

成　績　評　価　方　法

授業中のグループワークでの発言と各グループの発表（1グループ15分程度×2）の内容および日々の発言内容等を平常点とし、定期試験と併せて総合的に評価する。
定期試験（50%）　小レポート（30%）　平常点（20%）（平常点はグループでの発表、ディスカッションの参加度を加味して総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

現代社会の成り立ちについて理解し、現代日本が抱えている問題を自分の言葉で説明することができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

必要に応じて、プリントの配布、参考文献・テキストの指示などを行う。

その他(受講上の注意)

グループワーク主体であるため、授業の出席は必須事項。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅱ (Advanced Lectures in Sociology II)			担当教員	織田　暁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Cfg−2401	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　現代社会系

求める学習成果(教育目標)

思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　□コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　□社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　□計画実行能力　□選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

本学科の卒業論文執筆をにらみ、近代・現代社会を分析、考察、記述するための論理的思考力および論理的表現力を、さまざまな事例をもとに考察する実践的な論理学講義である。論文を書くとは、事例や着想は面白いがそれをどのように論証し、表現し、検証するのかについて、学生1人1人が悩みながら執筆する行為である。そこで、論理学の基礎トレーニングをくり返し、実際の論文でその論理がどのように用いられ、表現されているのか、論文の構成はどうなっているのかを学び、卒業論文に活かすことを目的とする。

授業の到達目標

論理学の基礎を習得し、論文を執筆できること。その論文が反証可能性を備えた内容になっていること。

授　業　の　計　画

第1回：主体、客体、対象化
第2回：目的と手段、因果関係
第3回：上位 ── 下位概念、価値判断排除
第4回：意識と無意識、部分と全体
第5回：接続関係と構造
第6回：議論の組み立て
第7回：論証の構造と評価
第8回：演繹と推測、価値評価
第9回：否定、条件構造
第10回：推論の技術、包含関係
第11回：論証構造及び表現のチェック
第12回：先行研究の論理と自説の展開の整合性のチェック
第13回：批判的に読む① ── 卒業論文口頭試問に向けて
第14回：批判的に読む② ── 卒業論文口頭試問に向けて
第15回：論理学的思考を日常生活に生かすには ── 社会人としての第1歩を踏み出すにあたって

授業外の学習方法

受講生の卒業論文のテーマを鑑みつつ、講義内で取り扱う先行研究(論文)を選ぶこともあるので、論文の巻末に示された参考文献リストに示された論考を、積極的かつ批判的に読んでいくこと。次に、講義内容を論文にどのように応用するのかを考えること。講義内容の復習→論文への応用可能性の検討→講義→さらに論文の応用可能性の検討、この繰り返しにより、卒業論文のクオリティを高める結果を生むことを期待する。

成　績　評　価　方　法

講義中に行う論理学実践演習(リアクションペーパー、出欠を兼ねる)60%、学期末レポート40%

成　績　評　価　基　準

論理学の基礎に基づき、論文執筆を遂行すること。毎回の論理学実践演習時の記載内容とその理解・定着度。

テキスト、参考図書

なし。参考図書等は授業中に指示する。

その他（受講上の注意）
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱa (Special Seminar in Communication II a)			担当教員	大河　晴美、紺渡　弘幸、加藤　優子、 升田　法継、安彦　智史、織田　暁子、 M　ハウカ、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Zzz−2401	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の完成に向けて、3年次のコミュニケーション特別演習Ⅰa,bで明確化した問題意識に基づき、研究テーマを確定する。次に、研究・調査・実践に必要となるアプローチを探求し、テーマとの整合性や妥当性を探る。そのために、専門的な文献、論文、データなども含めた精読を行うとともに、ディスカッションや発表を行うことで、卒業研究の計画立案および策定を行う。

授業の到達目標

自らの問題意識に基づいて設定した研究課題を遂行するために必要な、適切なアプローチを吟味し、選択する能力を身につける。課題に関連する文献などを適切に精読できる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマをおよび学生の課題設定に依拠した指導に従って取り組む。

4～5月　研究テーマ、研究計画の策定および研究計画書の提出。

6～8月　それぞれの研究テーマについて、適切な研究、調査、実践を進める。

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点(100%)
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになっているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜指示されます。

その他(受講上の注意)

研究計画の遂行のために必要な本演習以外の授業を履修する。それとともに、今までに履修してきた授業の中で、研究課題と関連のある内容を再確認しておく。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱb (Special Seminar in Communication II b)			担当教員	大河　晴美、紺渡　弘幸、加藤　優子、 升田　法継、安彦　智史、織田　暁子、 M　ハウカ、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Zzz−2411	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

卒業研究の完成段階として、自らが設定した課題を適切に遂行できるよう、担当教員の指導のもと、研究を進める。卒業研究の課題を、論理的かつ説得的にまとめていき、卒業研究を完成させる。

授 業 の 到 達 目 標

自らの研究課題を、適切なアプローチに基づき遂行し、卒業研究として論理的かつ説得的に完成できる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りだが、学生の研究課題の遂行を鑑み、担当教員からの指導が行われる。

9～11月 受講生自身のテーマについて、分析結果の考察を行う。

12～2月　受講生自身のテーマについて、論理的かつ説得的に伝えられるようにまとめる。

授業外の学習方法

担当の教員から適宜指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点(100%)
平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになっているか。

テキスト、参考図書

担当教員から適宜指示されます。

その他(受講上の注意)

担当教員から適宜指示されます。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大河　晴美、紺渡　弘幸、加藤　優子、 升田　法継、安彦　智史、織田　暁子、 M　ハウカ、早川　　公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Zzz−2402	6単位	4年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学部コミュニケーション学科専門科目　応用科目　特別演習・卒業研究

求める学習成果(教育目標)

各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究としてまとめる。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■自他の理解能力　■コミュニケーション能力　■情報収集・探索能力　■社会・職業理解能力
■役割把握・認識能力　■計画実行能力　■選択能力　■課題解決能力

授　業　の　内　容

コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して、学生が自ら研究テーマや研究計画を設定する。それに基づき、探求を深め、これまでの研究や実践を論理的かつ説得的な形で、卒業研究としてまとめる。

授 業 の 到 達 目 標

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会それぞれの領域において、適切な問題意識に基づいた課題設定を行えるようになる。設定した課題について分析・研究や実践を行うための方法を適切に選択できるようになる。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来るようになる。

授　業　の　計　画

概ね以下の通りである。教員による学生個人の進み具合を考慮した指導に従い、主体的に研究に取り組む。

４～５月　研究・実践のテーマと研究計画の策定、研究計画書の提出

５～８月　研究・実践の実行

９～10月 研究・実践結果の分析・考察

11～12月　卒業研究の仕上げ、提出

１月上旬　卒業研究要旨の執筆、提出

１～２月　卒業研究発表会（口頭試問の機能も兼ねる、卒業試験）

※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われますが、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがあります。

授 業 外 の 学 習 方 法

担当の教員から適宜指示がある。

成　績　評　価　方　法

卒業研究成果物（60％）　口卒業研究発表会におけるプレゼンテーション（口頭試問）（20％）　平常点（20％）
平常点は、卒業研究への取り組み状況やその姿勢などを総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会のそれぞれの領域において、適切な問題意識に基づく課題設定を行えているか。設定した課題について、分析・研究や実践を行うための方法が適切に選択されているか。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来ているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

担当教員から適宜、紹介、指示がある。

その他（受講上の注意）
卒業研究とは、４年間で習得した能力、およびこれまでの研究・実践を結集して、論理的かつ説得的にまとめるものである。主体的かつ積極的に取り組むことはもちろん、研究計画をしっかりと策定して研究を進展させていくことが肝要である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2202	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業では、この問題に主に社会的・法的見地から考察する。また、様々な教師像を事例研究を通して考察することにより、受講生各自がよりよい教職像を展望するとともに、よりよい教職像に近づくために何をすべきかを模索する機会としたい。

授業の到達目標

教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できる。
教員の職務内容を法的な見地から説明できる。
よりよい教職像を自分なりに展望することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：教師はどのような仕事をしているのか
第3回：よい教師とはどのような教師なのか
第4回：教師像の諸相 ── 聖職者、労働者、専門家 ──
第5回：教師の権力と権威
第6回：教師の愛と暴力
第7回：どうすればよい教師になれるのか
第8回：教員養成制度について
第9回：教員養成の歴史
第10回：教員に求められる専門性とは何か
第11回：教員を取り巻く法律、制度（1）── 身分について ──
第12回：教員を取り巻く法律、制度（2）── 服務について ──
第13回：教員を取り巻く法律、制度（3）── 任用について ──
第14回：教員を取り巻く法律、制度（4）── 研修について ──
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

「よい教師とはどのような教師か？」「教職課程とは何のためにあるのか？」という問いを常に抱きながら学習することが求められる。具体的には、図書館にある教職に関する書物（教職経験者が書いた本や教職の使命について書いた本など）を最低3冊は読破する必要がある。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）
平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに判断する。）

成　績　評　価　基　準

教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できるか。
教員の職務内容を法的な見地から説明できるか。
よりよい教職像を自分なりに展望することができるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2101	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、西洋、日本それぞれの教育の歴史、とりわけ学校の歴史を概観することを通じて、教育の理念について考察を深める機会とする。今日の学校教育とはまったく異なる教育のあり方に目を向けることにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。そのうえで、学校教育の役割や意義を体系的に理解することが本授業の目標となる。

授業の到達目標

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができる。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できる。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：ヨーロッパにおける学校の歴史
第3回：すべての者に教育を　コメニウスについて
第4回：子どもの発見　ルソーについて
第5回：自律という問題　ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて
第6回：一斉教授成立史　モニトリアル・システムについて
第7回：教育における自由とは何か　デューイについて
第8回：日本における塾と学校の歴史
第9回：日本における義務教育制度成立史
第10回：「教育を受ける権利」について
第11回：教育における平等とは何か
第12回：個性とは何か
第13回：人権と教育
第14回：教育行政のしくみ
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

教育について自ら考察してみようとしない限り、この授業の意味はほとんど感じ取れないのではないかと思う。教育に関することなら何でもいいので、自ら調べ、考えをまとめ、記述してみる作業が必要である。参考文献をこまめに提示するので、最低2冊は読破するつもりで臨んでもらいたい。

成　績　評　価　方　法

定期試験(論述問題含む)(70%)
平常点(30%)
(平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに判断する。)

成　績　評　価　基　準

西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができるか。
教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できているか。
学校教育の役割や意義を体系的に説明することができるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2203	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育心理学は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）を学ぶが、このうち主として中高を中心としながらも広く児童生徒の発達と学習の過程を論じる。

授 業 の 到 達 目 標

・学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の基礎理論を学び、方法を適用できるようにする。
・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学ぶ。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につける。
・児童、生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につける。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：教育心理学とは
第2回：教育心理学の歴史
第3回：生涯発達の基礎的過程
第4回：自己と社会性の発達
第5回：発達における障害
第6回：コミュニケーションの障害と学習障害
第7回：児童期および青年期における適応と障害
第8回：学習の基礎的過程
第9回：記憶と思考
第10回：知能
第11回：教授・学習過程
第12回：発達と学習の支援
第13回：教育評価と測定、指導要録
第14回：学級という社会
第15回：生徒理解と特別支援教育
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

入手しやすい関連図書や論文を紹介し、いくつかは解説を加えるので、自学自習して理解を深めること。

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準

・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学べているか。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、幼児、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につけているか。
・児童生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につけているか。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解しているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：『よくわかる学校教育心理学』 ミネルヴァ書房　2010年
参考図書：適宜関連図書や論文を紹介する。

その他（受講上の注意）
教職科目であるため、受け身的に受講するのではなく、常に自らが教壇に立った場合を想像して授業に臨むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2308	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

我が国では、地域や家庭の教育力が低下し、教育を巡る困難な教育課題が混迷の度を深めている。１日も早い教育課題の解決が望まれている今日、我が国の様々な教育課題や時事問題を取り上げ、問題の本質を理解し、解決について集団討議をもとに課題解決策を探る。今日の教育課題の解決に果敢に挑む教育観と教師としての力量を養う。授業をとおして人間関係力、自己表現力、集団討論力を体得する。

授業の到達目標

教育課題の原因と解決法について自分の意見を出し合い、意欲的に議論し合うことができる。
教育課題について自分の考えをわかり易くは発表することができる。
時事問題に関心をもち、特に教育的課題について自分の考えをもち議論し合うことができる。

授　業　の　計　画

第１回：自他の追究課題を把握する
第２回：わが国の教育課題について
第３回：いじめと非行
第４回：不適応と不登校
第５回：学級崩壊と校内暴力
第６回：モンスターペアレントと親
第７回：学級担任と学校組織
第８回：授業と学校行事
第９回：問題解決への挑戦
第10回；子どもの成長
第11回：現職教育と研究授業
第12回：開かれた学校と学校評価
第13回：学校教育と家庭教育と社会教育
第14回：自己課題の解明と共通理解
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として新聞記事の中から関心のある教育記事を探し、自分の考えや疑問点をまとめる。また、復習として話し合った新聞記事での意見交換のポイントを整理し、課題についての自分の考えの深まりや新たな疑問をまとめる。

成　績　評　価　方　法

レポート（70％）
平常点（30％）
平常点は、出席状況、受講態度、受講ノート等を総合して判断する

成　績　評　価　基　準

時事問題について自分の意見をまとめ発表することができる。
仲間の発表を聞き、意欲的に話し合いをすることができる。
話し合い、講義を通して自分の考えの深まりをまとめることができる。

テキスト、参考図書

「小学校学習指導要領解説（総則編）」文部科学省、東洋館出版社、2008年

その他(受講上の注意)

私語・無気力厳禁。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程・特別活動論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2205	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動（特別活動、総合的な学習の時間、など）の計画も含まれる。また近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされるようになっている。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げる。

授業の到達目標

現行学習指導要領の内容を説明できる。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できる。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション　教育課程とは何か
第2回：学習指導要領とは何か
第3回：学習指導要領を読む（1）　第一章「総則」前半
第4回：学習指導要領を読む（2）　第一章「総則」後半
第5回：学習指導要領の歴史的変遷（1）　1940年代後半
第6回：学習指導要領の歴史的変遷（2）　1950〜60年代
第7回：学習指導要領の歴史的変遷（3）　1970〜80年代
第8回：学習指導要領の歴史的変遷（4）　1990年代以降
第9回：学力とは何か
第10回：教育評価について　何のための評価なのか
第11回：学習指導要領を読む（3）　総合的な学習の時間、特別活動
第12回：特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題
第13回：特別活動、総合的な学習の時間の実践例
第14回：特別活動、総合的な学習の時間の評価について
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

学習指導要領第一章「総則」を繰り返し読み直すことが求められる。
情報量が多い授業なので、毎時後の見直し、復習が必要となる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）
平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する）

成　績　評　価　基　準

現行学習指導要領の内容を逐語的に理解しているか。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できるか。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅰ (English Language Teaching Methodology Ⅰ)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2204	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

1．英語教育の目的について考え、英語でディスカッションする。
2．言語習得について様々な先行研究についての知識および理解を深め、英語でディスカッションする。
3．様々な外国語教授法について知識及び理解を深め、英語でディスカッションする。

授 業 の 到 達 目 標

1．学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができる。
2．様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。
3．様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Purposes of English Language Education
第3回：The Course of Study
第4回：The Components of Communication Abilities 1
第5回：The Components of Communication Abilities 2
第6回：Theories of Language Acquisition 1
第7回：Theories of Language Acquisition 2
第8回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 1
第9回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 2
第10回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 3
第11回：Autonomous learning
第12回：Psychological Aspects of Foreign Language Learning
第13回：Teaching Procedures 1
第14回：Teaching Procedures 2
第15回：Review

授 業 外 の 学 習 方 法

1．予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくると良い。
2．授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。

成　績　評　価　方　法

授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%

成　績　評　価　基　準

1．学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができるか。
2．様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。
3．様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

(1)『統合的英語科教育法』 村野井仁他共著　成美堂　2012年
(2)『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)第3版』 ケンブリッジ大学出版　2017年

その他(受講上の注意)

英和辞書、英英辞書を必ず持参する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅱ (English Language Teaching Methodology Ⅱ)			担当教員	フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2206	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

1．学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションする。
2．小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションする。
3．英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションする。

授業の到達目標

1．学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできる。
2．小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできる。
3．英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできる。

授　業　の　計　画

第1回：Introduction
第2回：Teacher Development
第3回：Teaching Plan 1
第4回：Teaching Plan 2
第5回：Teaching Plan 3
第6回：Teaching Plan 4
第7回：Assessment 1
第8回：Assessment 2
第9回：Assessment 3
第10回：Assessment 3
第11回：Elementary School English 1
第12回：Elementary School English 2
第13回：Cross-Cultural Education in English Classes
第14回：Review 1
第15回：Review 2

授業外の学習方法

1．予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくる。
2．授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。

成　績　評　価　方　法

授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%

成　績　評　価　基　準

1．学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできるか。
2．小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできるか。
3．英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできるか。

テキスト、参考図書

（1）『統合的英語科教育法』　村野井仁　他　成美堂　2012年
（2）『現場で使える教室英語』　吉田研作他著　三修社　2012年

その他（受講上の注意）
英和辞書、英英辞書を必ず持参する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅲ (English Language Teaching Methodology Ⅲ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2309	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

英語の授業を行う際によりどころとなる教授理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

授 業 の 到 達 目 標

1. 授業準備に必要な事柄について理解する。
2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できる。
3. 授業の組み立ての基本を理解する。
4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるようにする。
5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できる。
6. ICTを効果的に指導に活用できる。
7. 模擬授業を通して、実際に指導できるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション、学習指導要領
第2回：教科書、学習到達目標設定と指導計画
第3回：授業の構成、学習指導案の作成
第4回：中学校の授業例
第5回：高等学校の授業例
第6回：授業の工夫（1）：Warm-up とReview
第7回：授業の工夫（2）：文法・文型の導入
第8回：授業の工夫（3）：コミュニケーション活動
第9回：授業の工夫（4）：語彙の導入と指導
第10回：授業の工夫（5）：教科書本文の指導
第11回：模擬授業・検討と評価（1）：Warm-up とReview
第12回：模擬授業・検討と評価（2）：文法・文型の導入
第13回：模擬授業・検討と評価（3）：コミュニケーション活動
第14回：模擬授業・検討と評価（4）：語彙の導入と指導
第15回：模擬授業・検討と評価（5）：教科書本文の指導
第16回：定期試験

授 業 外 の 学 習 方 法

テキストの予習・復習を行うとともに、高い英語のコミュニケーション能力を身につけるように、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能のバランス取りながら自主的な学習を行う。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、平常点（15%）
（平常点は、授業への参加状況から判断します。）

成　績　評　価　基　準

1. 授業準備に必要な事柄について理解できているか。
2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できるか。
3. 授業の組み立ての基本を理解できているか。
4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるか。
5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できるか。
6. ICTを効果的に指導に活用できるか。
7. 模擬授業を通して、実際に指導できるようになったか。

テキスト、参考図書
（1）『英語科教育実習ハンドブック（改訂版）』 米山朝二、杉山敏、多田茂著　大修館書店　2013年 （2）『英語教育用語事典』 白畑知彦他著　大修館書店　2012年
その他（受講上の注意）
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅳ (English Language Teaching Methodology Ⅳ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2313	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

コミュニケーション能力を高める英語の授業を行うために必要な理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。

授業の到達目標

1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解する。
2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解する。
3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：日本の英語教育とめざすべき目標
第2回：学習指導要領と「3つの資質・能力」及び「5つの領域」
第3回：コミュニケーション能力について
第4回：コミュニケーション能力の養成のための指導に関する理論
第5回：コミュニケーション能力養成の問題点
第6回：コミュニケーション能力養成のための効果的な指導法
第7回：コミュニケーション能力の養成と学習者要因
第8回：コミュニケーション能力の養成と評価
第9回：コミュニケーション能力の養成と小学校・中学校・高等学校間の連携
第10回：指導技術・模擬授業・検討と評価（1）導入・発問の工夫
第11回：指導技術・模擬授業・検討と評価（2）教科書本文の扱い
第12回：指導技術・模擬授業・検討と評価（3）コミュニケーション活動
第13回：指導技術・模擬授業・検討と評価（4）言語形式・意味・機能
第14回：指導技術・模擬授業・検討と評価（5）スキルの統合
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストの予習・復習を行うとともに、高い英語のコミュニケーション能力を身につけるように、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能のバランス取りながら自主的な学習を行う。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、平常点（15%）
（平常点は、授業への参加状況から判断します。）

成　績　評　価　基　準

1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解できているか。
2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解できているか。
3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようになったか。

テキスト、参考図書

（1）『意見・考え重視の視点からの英語授業改革』 大下邦幸監修　東京書籍　2014年
（2）『英語教育用語事典』 白畑知彦他著　大修館書店　2012年

その他(受講上の注意)

主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2314	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな問題となっている。この古くて新しい問題について理解を深めたうえで、学習指導要領における道徳教育の内容について詳細に考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成してもらい、完成したグループから順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができる。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができる。

授　業　の　計　画

以下は、現時点での計画であるが、模擬授業の実施状況に応じて、変更が生じる場合がある。

第1回：オリエンテーション
第2回：学習指導要領第1章「総則」を読む
第3回：学習指導要領第3章「特別の教科　道徳」を読む
第4回：教材研究（1）　『心のノート』を読む
第5回：教材研究（2）　読み物教材をどう取り上げるか
第6回：日本における道徳教育の歴史的変遷（1）　江戸時代～戦前
第7回：日本における道徳教育の歴史的変遷（2）　戦後
第8回：道徳教育の難しさ（1）　道徳は知識か行為か
第9回：道徳教育の難しさ（2）　宗教と道徳
第10回：指導法の検討（1）　インカルケーション
第11回：指導法の検討（2）　ディベート
第12回：指導法の検討（3）　モラルジレンマ
第13回：指導法の検討（4）　ロールプレイ
第14回：指導法の検討（5）　構成的グループエンカウンター
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

指導案の作成は、授業外の時間にグループごとに行ってもらう。また、指導案の添削、修正等も授業外の時間にグループごとに行っていく。具体的な作業はその都度指示するが、授業外においてかなりの学習時間が必要となることを覚悟されたい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）
指導案の内容（25％）
平常点（25％）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容をもとに判断する。）

成　績　評　価　基　準

学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができるか。
学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術 (Teaching Methods and Skills)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2207	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育方法の改善と、メディアを活用する教材設計・制作

授 業 の 到 達 目 標

教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件（カリキュラム・児童・教員・教材等）を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。
また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題
第2回：カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び
第3回：学習指導要領、指導計画、学習指導案、教材・教具
第4回：教育の情報化、情報機器の活用、情報モラル
第5回：デジタル教科書、デジタル教材
第6回：Webサービスを利用したアンケートや問題の作成と分析
第7回：ストーリー型教材の設計（テーマ設定、展開）
第8回：ストーリー型教材の制作（画像・写真・音・アニメーションの活用）
第9回：プログラミングと論理的思考について
第10回：プログラミングによる教材の設計（思考、判断、手順）
第11回：プログラミングによる教材の制作
第12回：教育メディアを活用した模擬授業の計画
第13回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（1）グループ1～3
第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（2）グループ4～6
第15回：まとめ（評価の集計と分析）
定期試験は行わない

授 業 外 の 学 習 方 法

参考図書：
（1）教育方法論（教育課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦夫 著、一藝社出版　2004年）
（2）教育の方法と技術（教育学のポイント・シリーズ）（単行本）（柴田義松・山崎準二 著、学文社　2005年）

参考資料：
小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
幼稚園教育要領（平成29年3月公示　文部科学省）

プリント資料および学習支援システムでのリソースを利用する。

オンラインファーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、指板のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

成　績　評　価　方　法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関連する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）

成　績　評　価　基　準
授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。 教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。 模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。
テキスト、参考図書
プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。
その他（受講上の注意）
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	小林　仁章
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2310	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わる，すぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

生徒一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めていく指導・援助の在り方を理解する。特に、規範意識・倫理観の低下やいじめ・不登校等時代の変化に応じた今日的な課題に対して、組織的・体系的な取り組み方や指導原理について理解を深める。また、キャリア教育を推進するため、人間関係能力や将来設計能力等の意義について理解を深める。

授業の到達目標

生徒の社会的な資質を高め、自己を生かす、統合的な活動を企画するための基礎理論と実践的な視点を理解する。
生徒の今日的な発達課題について理解し、多様な指導・援助の仕方を身につける。
主体的な進路の選択・決定を促す基本原理を理解する。

授　業　の　計　画

第1回：生徒指導の意義と課題
第2回：教育課程における生徒指導の位置付け
第3回：生徒指導における児童生徒理解
第4回：学校における生徒指導体制
第5回：生徒指導と教育相談
第6回：教育相談の実際
第7回：教育を支えるもの（生徒指導の根幹にあるもの）
第8回：生徒指導の進め方1～全体に対する指導
第9回：生徒指導の進め方2～個別の課題への指導①（少年非行・暴力・家出等）
第10回：生徒指導の進め方3～個別の課題への指導②（不登校、いじめ等）
第11回：生徒指導の進め方4～個別の課題への指導③（性・自殺・児童虐待等）
第12回：生徒指導と法教育～校則・体罰と懲戒等
第13回：進路指導の意義と課題
第14回：キャリア教育の推進
第15回：学校における進路指導体制
第16回：定期試験

授業外の学習方法

テキストの関係個所を予め熟読して授業に臨む。復習は参考図書の関連ページを読み、理解の幅を広げる。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　小レポート（30%）　平常点：授業中の積極的発表（20%）

成　績　評　価　基　準

生徒の社会的な資質を高め、自己を生かし、統合的な活動を促進するための基本的な条件等を説明することができるか。
生徒の発達段階に応じた今日的な課題を分析し、適切な指導・援助の方法を選択し、その根拠を説明することができるか。
主体的な進路の選択・決定を促す基本原理を説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：「生徒指導提要」文部科学省参考図書：授業時に随時示す

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害を抱える児童生徒への支援について学ぶ。現場で活用されている技法について体験的に学ぶ。グループディスカッションを通して、視野を広げ、自分で考える経験を積む。

授 業 の 到 達 目 標

いじめ、不登校、非行への対応および発達障害について基礎知識を習得。支援プランをたてる。

授　業　の　計　画

第1回：教育相談が生きる場
第2回：教育相談に生かす心理学的理解：見立て
第3回：教育相談に生かす心理学的理解：介入
第4回：不登校の理解と対応1
第5回：不登校の理解と対応2
第6回：いじめ・非行の理解と対応1
第7回：特別支援教育（発達障害の理解と対応）1
第8回：予防開発的アプローチＳＳＴ1
第9回：予防開発的アプローチＳＳＴ2
第10回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング1
第11回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング2
第12回：事件・事故・災害対応
第13回：学齢期の精神科疾患について
第14回：リラクゼーション
第15回：ふりかえり

授 業 外 の 学 習 方 法

各回の講義やワーク体験で気が付いたことを、各自ノートに自分の言葉で書き残してください。配布した資料や予習復習はその都度指示します。

成　績　評　価　方　法

小レポート(50%)　平常点(50%)
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

いじめ、不登校、発達障害について基礎知識を習得している。支援プランを提案できる。

テキスト、参考図書

テキスト:「教師のための初等教育相談」西本絹子著　萌文書林

その他(受講上の注意)

予習復習については、授業時に指示します。授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導 (Guidance for Teaching Practice)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2311	1単位	3年～4年	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱのための事前指導及び事後指導を行う。中学校・高等学校の生徒を指導する教師としての心構えを持つとともに、教育実習の目的・内容・方法及び留意事項を理解し、充実した実習が行えるよう準備する。実習終了後は評価・反省をし、課題を明確にする。

授業の到達目標

1. 教育実習の意義・目的を理解する。
2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解する。
3. 教育実習に臨むしっかりとした心構えを持つ。
4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を確認する。
5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にする。

授　業　の　計　画

3年次
第1回：教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明
第2回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義
第3回：学校見学（高等学校）：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観
第4回：学校見学（高等学校）：授業参観、高等学校施設見学
第5回：教育実習Ⅱ反省会：上級生が教育実習について発表、質疑応答・意見交換、実習に向けてのアドバイス
第6回：教育実習Ⅰの準備：「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導
第7回：教育実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義
第8回：教育実習Ⅰのための直前指導（高等学校）：教科指導（授業実習）に関する講義
第9回：教育実習Ⅰのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導
第10回：研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言
第11回：教育実習Ⅰ反省会：実習生による実習報告・反省、意見交換、実習レポートの作成、自己点検

4年次
第12回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習Ⅱ、事前・事後指導の予定確認・指導等
第13回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習カードの作成、教育実習Ⅱへの心構え、教材研究等についての指導、特別講義に関する準備
第14回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義
第15回：教育実習Ⅱのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導
第16回：教育実習Ⅱ反省会：実習生による実習についての発表、意見交換。実習レポートの作成、自己点検、教育実習履修のまとめ

授業外の学習方法

『実習のてびき』をよく読んで、実習について理解を深めておくとともに、課題に取り組み、教育実習に備える。実習後は、評価・反省をしっかりして実習レポートをまとめ自分自身の課題を明確にする。

成　績　評　価　方　法

課題・模擬授業（50%）、平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。）

成　績　評　価　基　準
1. 教育実習の意義・目的を説明できるか。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解について理解できているか。 3. しっかりとした心構えを持って、教育実習に臨むことができたか。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を身につけていたか。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にできたか。
テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（平成29度版）」
その他（受講上の注意）
充実した教育実習ができるように日頃から、教師としての知識や技能を自主的に身につけるよう努力することを期待する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ (Teaching Practice Ⅰ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−K−2312	2単位	3年(9月)	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

高等学校における2週間の教育実習（観察実習・参加実習・授業実習）

授 業 の 到 達 目 標

1. 確かな心構えを持って実習に臨む。
2. 授業の教材研究がしっかりできる。
3. 指導態度が真剣で、意欲的である。
4. 生徒をよく理解しようと努める。
5. 教科外指導にも熱心に取り組む。
6. 実習ノートを欠かさず提出する。
10. 実習レポートはよくまとめられている。
11. 実習ノートは内容のある記録ができる。

授　業　の　計　画

教育実習校（高等学校）における実習
1. オリエンテーション（実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）
2. 教育実習（観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等）
3. 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
4. 研究授業の反省会（研究授業後の実習校教員からの指導）

授 業 外 の 学 習 方 法

教育実習先の高等学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。
日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。

成　績　評　価　方　法

平常点100%（教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。）

成　績　評　価　基　準

1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。
2. よく教材研究・工夫がなされていたか。
3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。
4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。
5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。
6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。
7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。
8. 事務・実務能力はあるか。
9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。
10. 実習レポートはよくまとめられていたか。
11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（平成29年度版）」、
指定教科書

その他(受講上の注意)

実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ (Teaching Practice Ⅱ)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2402	2単位	4年(6月)	実習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

中学校における2週間の教育実習（観察実習・参加実習・授業実習）

授 業 の 到 達 目 標

1. 確かな心構えを持って実習に臨む。
2. 授業の教材研究がしっかりできる。
3. 指導態度が真剣で、意欲的である。
4. 生徒をよく理解しようと努める。
5. 教科外指導にも熱心に取り組む。
6. 実習ノートを欠かさず提出する。
10. 実習レポートはよくまとめられている。
11. 実習ノートは内容のある記録ができる。

授　業　の　計　画

教育実習校（中学校）における実習
1. オリエンテーション（実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）
2. 教育実習（観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等）
3. 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
4. 研究授業の反省会（研究授業後の実習校教員からの指導）

授 業 外 の 学 習 方 法

教育実習先の中学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。
日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。

成　績　評　価　方　法

平常点100%（教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。）

成　績　評　価　基　準

1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。
2. よく教材研究・工夫がなされていたか。
3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。
4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。
5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。
6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。
7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。
8. 事務・実務能力はあるか。
9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。
10. 実習レポートはよくまとめられていたか。
11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート（平成29年度版）」、
指定教科書

その他(受講上の注意)

実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習 (Teaching Profession Practical Exercises)			担当教員	紺渡　弘幸、奥谷　　崇、フッド　晴美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Bee−2411	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　教職に関する専門科目

求める学習成果(教育目標)

次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。

授　業　の　内　容

基礎的指導技術修得の確認・強化及び実践的指導力の育成

授 業 の 到 達 目 標

1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解する。
2. 生徒理解や学級経営について理解する。
3. 教科指導・生徒指導について理解する。
4. 英語指導の基本的指導技術を身につける。
5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、使用できる。
6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解する。
7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができる。

授　業　の　計　画

奥谷崇担当分（5回）
第1回：教職の意義、教職員の職務と役割、生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレーイング・グループ討論
第2回：生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論
第3回：教科や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論
第4回：学校現場の調査研究とグループ討論
第5回：社会性や対人関係能力についての確認とまとめ
フッド晴美担当分（5回）
第6回：ティーム・ティーチング－意義と目的－
第7回：ティーム・ティーチング－現状と課題－
第8回：ティーム・ティーチング－目標設定・指導計画・ALTとの話し合いの持ち方－
第9回：ティーム・ティーチング－授業実践①
第10回：ティーム・ティーチング－授業実践②・評価の仕方－
紺渡弘幸担当分（5回）
第11回：基本的指導技術－Warm-up・Reviewとマクロストラテジー（1）Diversity
第12回：基本的指導技術－文法・文型の導入とマクロストラテジー（2）Quality
第13回：基本的指導技術－文法・文型を用いた活動とマクロストラテジー（3）Quantity
第14回：基本的指導技術－語彙の導入・指導とマクロストラテジー（4）Collaboration
第15回：基本的指導技術－教科書本文の読解指導とマクロストラテジー（5）Autonomy

授 業 外 の 学 習 方 法

与えられた課題について必ず準備をして授業に臨むこと。また、授業後、必ず復習し理解を深めるとともに実践できるようにすること。

成　績　評　価　方　法

課題（30%）、平常点（70%）
（平常点は授業への参加状況、グループ討論、模擬授業などの取り組みを総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準
1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解できているか。 2. 生徒理解や学級経営について理解できているか。 3. 教科指導・生徒指導について理解できているか。 4. 基本的指導技術を授業に活用できるか。 5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、授業で使用できるか。 6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解できているか。 7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができるか。
テキスト、参考図書
なし。
その他（受講上の注意）
自ら積極的に教員になる上で必要な知識・技能を再確認し、実際に活用できるようにするとともに、教師としての資質を向上させることができるよう努力を期待する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語指導技法 a (Japanese Language Teaching Skill a)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2401	2 単位	4 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果(教育目標)

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語初級教科書を使って、初級レベルの日本語学習者に対する日本語指導の方法を学ぶ。ここでは特に話す技能の養成の方法を模擬授業を通して学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・初級レベルの日本語教材についての知識を身につける。
・初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識を身につける。
・初級レベルの指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになる。
・初級前半レベルの日本語指導ができるようになる。

授　業　の　計　画

第 1 回 :「みんなの日本語」の構成とシラバス、初級レベルと教材
第 2 回 :「みんなの日本語」と初級の文型 − 1
第 3 回 :「みんなの日本語」と初級の文型 − 2
第 4 回 :「みんなの日本語」を使った初級の授業の流れと教案作成の手順
第 5 回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(導入の方法)
第 6 回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(導入の方法)
第 7 回 :「みんなの日本語」と初級の文型 − 3
第 8 回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(ドリルの方法)
第 9 回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(ドリルの方法)
第10回 :「みんなの日本語」と初級の文型 − 4
第11回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(会話の指導)
第12回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(会話の指導)
第13回 :「みんなの日本語」と初級の文型 − 5
第14回 : モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具　(聴解の指導)
第15回 : まとめ
定期試験は実施しない。

授 業 外 の 学 習 方 法

・予習としては日本語テキストの該当課の学習項目を把握しておくこと。
・模擬授業担当の際は、予め授業計画を立て、教材の準備をしておく。
・指導法の参考書を読んで、該当学習項目の指導の方法について予め知識を入れておく。

成　績　評　価　方　法

期末レポート (50%)　授業内レポート (30%)　平常点 (20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

・初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識が身についたか。
・初級の指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになったか。
・初級の前半レベルの日本語指導ができるようになったか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

『みんなの日本語初級 I 第 2 版』スリーエーネットワーク　2014年
寺田和子、三上京子、山形美保子、和栗雅子　共著『日本語の教え方ABC』(アルク2005)
『みんなの日本語初級I　教え方の手引き』(スリーエーネットワーク2000)
『みんなの日本語初級I　翻訳文法解説　英語版』(スリーエーネットワーク1998)
庵功雄，高梨信乃，中西久実子，山田敏弘『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク2000)

その他（受講上の注意）
・遅刻３回で欠席１回とみなす。 ・必ず国語辞書（電子辞書可）を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語指導技法b (Japanese Language Teaching Skill　b)			担当教員	矢橋　知枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CO−Dii−2411	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学部特設科目　日本語教員養成に関する科目

求める学習成果(教育目標)

日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。

授　業　の　内　容

日本語初級後半から中級レベルの日本語指導の技法を学ぶ。

授 業 の 到 達 目 標

・初級後半レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになる。
・中級レベルの学習者に対する日本語指導の方法を知る。
・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようにする。

授　業　の　計　画

第1回：初級後半の指導法1
第2回：初級後半の指導法2
第3回：初級後半の指導法3
第4回：初級後半の指導法4
第5回：中級の指導法1
第6回：中級の指導法2
第7回：中級の指導法3
第8回：日本語の音声1（音声のレベルと音韻）
第9回：日本語の音声2（単音レベル：母音と子音）
第10回：日本語の音声3（音律レベル：リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンス）
第11回：音声教育の実際
第12回：日本語の文字・表記1（文字と文字体系、文字体系の種類）
第13回：日本語の文字・表記2（日本語の文字種と音節：平仮名と片仮名）
第14回：日本語の文字・表記3（漢字の造字法と用字法）、日本語の正書法
第15回：まとめ
定期試験は実施しない。

授 業 外 の 学 習 方 法

予習としては授業で扱う項目について予め教科書や参考書を読んで概要を掴んでおくこと。また、講義を受けた後は配布プリントを見直して復習をしておくことが求められる。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　授業内レポート(30%)　平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

・初級後半レベルの日本語指導ができるようになったか。
・中級レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになったか。
・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようになったか。

テキスト、参考図書

『みんなの日本語初級Ⅱ第2版』　スリーエーネットワーク　1998年
監修 佐治圭三・真田信治『改訂版日本語教師養成シリーズ第3巻　音声、文字、表記』　凡人社 2004年
『みんなの日本語中級Ⅰ』　スリーエーネットワーク　2008年

その他(受講上の注意)

・遅刻3回で欠席1回とみなす。
・必ず国語辞書(電子辞書可)を持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。